

分布調査報告書(19)

1992年

山形県教育委員会

分布調査報告書 (19)

平成 3 年度 以 降 農 林 土 木 事 業 他 関 係 遺 跡

国 営 農 地 開 発 事 業 鳥 海 南 麓 地 区 関 係 遺 跡

東 北 橫 断 自 動 車 道 酒 田 線 関 係 遺 跡

埋 藏 文 化 財 包 藏 地 基 礎 調 査

平成 4 年 3 月

山 形 県 教 育 委 員 会

序

本書は山形県教育委員会が平成3年度に実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の増加に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。

埋蔵文化財は本来土地に密着したものであり貴重な国民的財産であります。保護にあたっては国民がその特性を十分認識し、周到な注意をもって対処することに努めなければなりません。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただきました関係各位をはじめ地元のかたがたに心から感謝申し上げます。

平成4年3月

山形県教育委員会教育長 木場清耕

例　　言

- 1 本書は、平成3年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成3年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治・佐藤庄一・野尻 倭・渋谷孝雄・阿部明彦・長橋 至・高橋 直・黒坂雅人・伊藤邦弘・斎藤主税・須賀井新人・眞壁 建の12名が担当した。
- 3 本書の編集は、渋谷孝雄、安部 実が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 4 第I章に遺跡一覧、第II章に個々の遺跡の内容を記した。新規発見遺跡、抹消遺跡、範囲、位置、名称の変更については、本書の発行をもって周知されたものとみなす。
- 5 挿図の縮尺は不統一であり、その都度各々にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用し、第II章以下については、これをさらに縮尺して使用した。遺跡地名表の番号は当該事業内の位置図の番号に一致する。
図版内の遺物は2分の1、3分の1とした。
挿図、及び文中の記号は、黒丸、T、TT、TP—試掘地点、赤丸—遺構・遺物検出地点、RP—土器、ST—堅穴住居跡、SE—井戸跡、SK—土壙、SD—溝、SP、EP—柱穴、SX—性格不明遺構、SG—旧河川跡を示す。土器実測図で断面白ヌキは縄文土器、土師器、陶器、点描は赤焼土器、黒ベタは須恵器を示す。
- 6 調査にあたっては、各関係機関、市町村教育委員会及び地元関係者のご協力を得た。
ここに記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 調査遺跡地名表	
(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡	6
(2) 農道整備事業等関係遺跡	8
(3) ため池等整備事業他農林事業関係遺跡	12
(4) 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡	16
(5) 河川改修、砂防事業関係遺跡	20
(6) 水道事業、県立学校整備事業関係遺跡	22
(7) 山形北部地区基礎調査	24
2 試掘調査の概要	
(1) 小倉山遺跡	30
(2) 鷹尾山遺跡	32
(3) 山楯4遺跡	34
(4) 山楯6遺跡	36
(5) 蕨台遺跡	38
(6) 菅谷地遺跡	40
(7) 熊沢遺跡	42
(8) 姥ヶ沢1・2遺跡	44
(9) 大峯1遺跡	46
(10) 大峯2・3遺跡	48
(11) 南原遺跡	50
(12) 堂ノ下遺跡	52
(13) 飯塚館跡	54
(14) 西ノ前遺跡	56
(15) 古屋敷遺跡	58
(16) 綱木沢向遺跡	60
(17) 野新田遺跡	62
(18) 仲台遺跡	64
(19) 栗山遺跡	66
(20) 石田遺跡	70
(21) 宅田遺跡	72
(22) 大坪遺跡	74
(23) 北子橋下遺跡	76
(24) 上高田遺跡	78
(25) 中田浦遺跡	80
(26) 地蔵田遺跡	82
(27) 宮ノ下遺跡	84
(28) 北目長田遺跡	86
(29) 堂田遺跡	88

(30) 野瀬遺跡	90
(31) 橋町遺跡	92
(32) 筋田遺跡	94
(33) 土崎遺跡	96
(34) 下川 1 遺跡	98
(35) 新田遺跡	100
(36) 里向山 C・D 遺跡	102
(37) 名木沢楯跡	104
(38) 郡之神遺跡	106
(39) 赤土場遺跡	108
(40) 東千作遺跡	110
(41) 藤島城跡	112
(42) 今塚遺跡	116
3 記録保存調査、立会い調査の概要	
(1) 重倉遺跡	118
(2) 松原遺跡	124
(3) 三田遺跡	134
(4) 熊手島遺跡	138
(5) 外久保遺跡	148
(6) 堤田遺跡	152
(7) 白金遺跡	156
(8) 渋江遺跡	160
(9) 二藤袋楯跡	164
(10) 石田遺跡	166
(11) 長岡山遺跡	172
(12) ソリメ A 遺跡	174
III まとめ	
1 新規発見遺跡	177
2 範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡	178

附表一 1 調査工程表

附表一 2 平成 3 年度分布調査遺跡一覧

挿図目次

第1図	県営ほ場整備事業関係位置図	6
第2図	農道整備事業等関係遺跡位置図(1)	8
第3図	農道整備事業等関係遺跡位置図(2)	9
第4図	農道整備事業等関係遺跡位置図(3)	10
第5図	ため池等整備事業等関係遺跡位置図(1)	12
第6図	ため池等整備事業等関係遺跡位置図(2)	13
第7図	ため池等整備事業等関係遺跡位置図(3)	14
第8図	東北横断自動車道、国道県道建設改良工事等関係遺跡位置図(1)	16
第9図	東北横断自動車道、国道県道建設改良工事等関係遺跡位置図(2)	17
第10図	東北横断自動車道、国道県道建設改良工事等関係遺跡位置図(3)	18
第11図	河川改修、砂防事業等関係遺跡位置図(1)	20
第12図	河川改修、砂防事業等関係遺跡位置図(2)	21
第13図	河川改修、砂防事業等関係遺跡位置図(3)	22
第14図	水道事業、県立学校建設等関係遺跡位置図	24
第15図	山形北部地区基礎調査	25
第16図	小倉山遺跡概要図	30
第17図	鷹尾山遺跡概要図	32
第18図	山楯4遺跡概要図	34
第19図	山楯6遺跡概要図	36
第20図	蕨台遺跡概要図	38
第21図	菅谷地遺跡概要図	40
第22図	熊沢遺跡概要図	42
第23図	姥ヶ沢1・2遺跡概要図	44
第24図	大峯1遺跡概要図	46
第25図	大峯2・3遺跡概要図	48
第26図	南原遺跡概要図	50
第27図	堂ノ下遺跡概要図	52
第28図	飯塚館跡概要図	54
第29図	西ノ前遺跡概要図	56
第30図	古屋敷遺跡概要図	58
第31図	綱木沢向遺跡概要図	60
第32図	野新田遺跡概要図	62
第33図	仲台遺跡概要図	64
第34図	栗山遺跡概要図	67
第35図	月光川・高瀬川流域遺跡分布図	69
第36図	石田遺跡概要図	70
第37図	宅田遺跡概要図	72
第38図	大坪遺跡概要図	74
第39図	北子橋下遺跡概要図	76
第40図	上高田遺跡概要図	78
第41図	中田浦遺跡概要図	80
第42図	地蔵田遺跡概要図	82
第43図	宮ノ下遺跡概要図	84

第44図	北目長田遺跡概要図	86
第45図	堂田遺跡概要図	88
第46図	野瀬遺跡概要図	90
第47図	櫛町遺跡概要図	92
第48図	筋田遺跡概要図	94
第49図	土崎遺跡概要図	96
第50図	下川1遺跡概要図	98
第51図	新田遺跡概要図	100
第52図	里向山C・D遺跡概要図	102
第53図	名木沢楯跡概要図	104
第54図	郡之神遺跡概要図	106
第55図	赤土場遺跡概要図	108
第56図	東千作遺跡概要図	110
第57図	藤島城跡概要図	112
第58図	藤島城跡調査概要図	113
第59図	今塚遺跡概要図	116
第60図	重倉遺跡概要図	118
第61図	重倉遺跡2・3トレンチ遺物分布図・断面図	119
第62図	重倉遺跡出土遺物拓影図・実測図	121
第63図	松原遺跡概要図	124
第64図	松原遺跡遺構遺物分布図	125
第65図	松原遺跡遺構平面・断面図	127
第66図	松原遺跡出土遺物拓影図・実測図(1)	129
第67図	松原遺跡出土遺物実測図(2)	130
第68図	三田遺跡概要図	134
第69図	三田遺跡遺構分布図・平面・断面図	135
第70図	三田遺跡出土遺物実測図	136
第71図	熊手島遺跡概要図他	138
第72図	熊手島遺跡遺構遺物分布図	139
第73図	熊手島遺跡遺構平面・断面図	140
第74図	熊手島遺跡出土遺物実測図(1)	141
第75図	熊手島遺跡出土遺物実測図(2)	142
第76図	熊手島遺跡出土遺物実測図(3)	143
第77図	外久保遺跡概要図	148
第78図	外久保遺跡遺物分布図、石器実測図	149
第79図	堤田遺跡概要図	152
第80図	堤田遺跡遺物分布図	153
第81図	白金遺跡概要図	154
第82図	白金遺跡遺構配置図	157
第83図	渋江遺跡概要図	160
第84図	渋江遺跡遺構分布図	162
第85図	渋江遺跡土層断面図	163
第86図	二藤袋楯跡概要図	164
第87図	石田遺跡概要図	166
第88図	石田遺跡遺構配置図	167
第89図	長岡山遺跡概要図	172
第90図	ソリメA遺跡概要図	174
第91図	ソリメA遺跡SK1土層柱状図	175

図版目次

図版 1	県営ほ場整備事業関係遺跡（1）	6
図版 2	県営ほ場整備事業関係遺跡（2）	7
図版 3	農道整備事業等関係遺跡（1）	11
図版 4	農道整備事業等関係遺跡（2）	12
図版 5	農道整備事業等関係遺跡（3）	13
図版 6	ため池等整備事業等関係遺跡（1）	14
図版 7	ため池等整備事業等関係遺跡（2）	15
図版 8	東北横断自動車道、国道県道建設改良工事等関係遺跡（1）	18
図版 9	東北横断自動車道、国道県道建設改良工事等関係遺跡（2）	19
図版10	河川改修、砂防事業等関係遺跡（1）	22
図版11	河川改修、砂防事業等関係遺跡（2）	23
図版12	水道事業、県立学校建設等関係遺跡（1）	24
図版13	水道事業、県立学校建設等関係遺跡（2）	25
図版14	山形北部地区基礎調査（1）	27
図版15	山形北部地区基礎調査（2）	28
図版16	山形北部地区基礎調査（3）	29
図版17	小倉山遺跡	31
図版18	鷹尾山遺跡	33
図版19	山楯 4 遺跡	35
図版20	山楯 6 遺跡	37
図版21	蕨台遺跡	39
図版22	菅谷地遺跡	41
図版23	熊沢遺跡	42
図版24	姥ヶ沢 1・2 遺跡	45
図版25	大峯 1 遺跡	47
図版26	大峯 2・3 遺跡	49
図版27	南原遺跡	51
図版28	堂ノ下遺跡	53
図版29	飯塚館跡	55
図版30	西ノ前遺跡	57
図版31	古屋敷遺跡	59
図版32	綱木沢向遺跡	61
図版33	野新田遺跡	63
図版34	仲台遺跡	65
図版35	栗山遺跡（1）	66
図版36	栗山遺跡（2）	68
図版37	石田遺跡	71
図版38	宅田遺跡	73
図版39	大坪遺跡	75
図版40	北子橋下遺跡	77
図版41	上高田遺跡	79
図版42	中田浦遺跡	81
図版43	地蔵田遺跡	83

図版44	宮ノ下遺跡	85
図版45	北目長田遺跡	87
図版46	堂田遺跡	89
図版47	野瀬遺跡	91
図版48	櫛町遺跡	93
図版49	筋田遺跡	95
図版50	土崎遺跡	97
図版51	下川1遺跡	99
図版52	新田遺跡	101
図版53	里向山C・D遺跡	103
図版54	名木沢楯跡	105
図版55	郡之神遺跡	107
図版56	赤土場遺跡	109
図版57	東千作遺跡	111
図版58	藤島城跡(1)	114
図版59	藤島城跡(2)	115
図版60	今塚遺跡	117
図版61	重倉遺跡(1)	120
図版62	重倉遺跡(2)	122
図版63	重倉遺跡(3)	123
図版64	松原遺跡(1)	132
図版65	松原遺跡(2)	132
図版66	松原遺跡(3)	133
図版67	三田遺跡(1)	136
図版68	三田遺跡(2)	137
図版69	熊手島遺跡(1)	144
図版70	熊手島遺跡(2)	145
図版71	熊手島遺跡(3)	146
図版72	熊手島遺跡(4)	147
図版73	外久保遺跡(1)	150
図版74	外久保遺跡(2)	151
図版75	堤田遺跡(1)	154
図版76	堤田遺跡(2)	155
図版77	白金遺跡(1)	158
図版78	白金遺跡(2)	159
図版79	渋江遺跡(1)	161
図版80	渋江遺跡(2)	163
図版81	二藤袋楯跡	165
図版82	石田遺跡(1)	170
図版83	石田遺跡(2)	171
図版84	長岡山遺跡	173
図版85	ソリメA遺跡(1)	175
図版86	ソリメA遺跡(2)	176

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成4年度以降に実施予定となる開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、前年度、あるいは今年度の調査結果に基づき、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

（1）A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

（2）B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

（3）C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

（4）立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

（5）埋蔵文化財包蔵地基礎調査

「山形県遺跡地図」（昭和53年版）に登録された遺跡、及びその後に発見・登録された遺跡の内容の補筆を行い、合わせて、遺跡の有無を確認し、将来の各種開発計画に備えることを目的とする調査。調査方法は表面踏査である。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年6～8月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、9月中旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討している。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も隨時行っている。今年度の調査は、平成3年4月25日から平成4年1月9日まで表-1の工程で、表-2に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はIII章に示した。

附表一 | 調查工程表

表-2 平成3年度分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
1	県営ほ場整備事業	下川地区	下川1遺跡	○	○		
			下川2~4遺跡	○			
		月光川上流地区	石田遺跡		○		
			宅田遺跡		○		
		月光川右岸地区	大坪遺跡		○		
			北子橋下遺跡		○		
		月光川下流地区	三田遺跡		○		
			上高田遺跡		○		
		高瀬川地区	中田浦遺跡		○		
			堂田遺跡		○		
		中平田西地区	地蔵田遺跡		○		
			宮ノ下遺跡		○		
		最上町西部地区	北目長田遺跡		○		
			野瀬遺跡		○		
		富並地区	穢待遺跡		○		
			筋田遺跡		○		
		玉野地区	土崎遺跡		○		
			熊手島遺跡		○		
2	県営かんがい排水事業	月光川地区	石田遺跡				○
3	一般農道整備事業	北村山地区	横山遺跡				
			長瀬本楯遺跡	○			
		明光寺地区	八反遺跡	○			
			向山遺跡	○			
		寺坂東地区	明光寺遺跡	○			
			霧2遺跡	○	○		
4	農免農道整備事業	松原地区	長峰遺跡	○			
			松原遺跡	○			
		舟戸地区	名木沢楯跡	○	○		
5	広域農道整備事業	村山東部地区	御阿弥陀窯跡				
			余目南部2期	○			○
6	広域営農団地農道整備事業	置賜西部地区	梨ノ木平遺跡	○	○		
7	ため池等整備事業	大和沼ため池	五百刈遺跡		○		
			坂ノ上遺跡	○	○		
		二藤袋地区	二藤袋楯跡				○
8	花き園整備事業		荒谷原遺跡		○		

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
9	緑農住区開発関連土地基盤整備事業		駒場遺跡		○		
10	国営農地開発事業(鳥海南麓地区)	小倉山工区	小倉山遺跡		○		
	"	鷹尾山工区	鷹尾山遺跡		○		
	"	山楯工区	山海窯跡群1地点		○		
	"	"	山楯4遺跡		○		
	"	"	山楯6遺跡		○		
	"	蕨台工区	蕨台遺跡		○		
	"	二階工区	菅谷地遺跡		○		
	"	"	熊沢遺跡		○		
	"	南の前田工区	姥ヶ沢1・2遺跡		○		
	"	泥沢工区	大峯1遺跡		○		
11	"	"	大峯2・3遺跡		○		
	"	重倉工区	重倉遺跡		○		
	"	下黒川工区	松原遺跡		○		
	東北横断自動車道酒田線建設	朝日～酒田間	中台館跡	○			
	"	"	獅子岩城跡	○			
12	"	"	仲台遺跡		○		
	"	"	栗山遺跡		○		
	"	"	栗山北遺跡		○		
	"	"	野新田遺跡		○		
	国道13号線 尾花沢・新庄道路		仲ノ原遺跡		○		
13	"		西ノ前遺跡	○	○		
	国道13号線 米沢・南陽道路		南原遺跡		○		
	"		堂ノ下遺跡		○		
	"		飯塚館跡		○		
	国道287号線凍雪害防止	佐野原地内	赤土場遺跡		○		
14	"	"	東千作遺跡		○		
	一般県道 新庄・真室川線道路改良工事		谷地遺跡	○			
	一般県道 下新田尾線凍雪害防止		堤田遺跡		○	○	
	一般県道 横山境ノ目線凍雪害防止		白金遺跡		○		○
	一般県道 椿川西線(交付金B)		郡之神遺跡		○		
	主要地方道 天童中山大江線(交付金A)	荒谷地内	上荒谷遺跡	○			
	主要地方道 山形白鷹線(交付金A)	一本松地内	一本松遺跡	○			
14	主要地方道新庄次年子村山線改良工事(交付金A)	仁間磯の沢地内	外久保遺跡	○			○
	河川局部改良工事	最上川内地区	小反遺跡	○			
	折戸川局部改良工事		中島遺跡	○			
	"		向荒沢稻場遺跡	○			
	宇津野沢川小規模河川改修事業		千本杉遺跡	○			
14	大山川小規模河川改修事業		中里D遺跡	○			

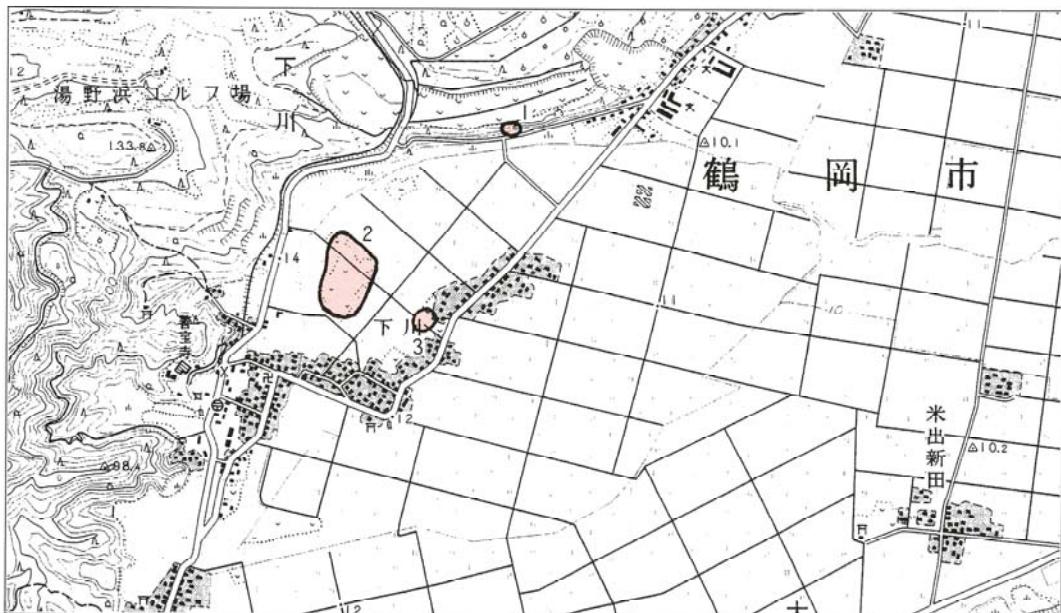
	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
14	内子沢荒廃砂防事業	馬見ヶ崎川	内子沢遺跡	○			
	中小河川改修工事		渋江遺跡				○
15	庄内農業高校農場再編		向館跡		○		
	"		藤島城跡		○		
	県立学校整備事業		長岡山遺跡				○
16	横川ダム建設工事		古屋敷遺跡		○		
	"		綱木沢向遺跡		○		
17	庄内広域水道用水供給事業		上野山D遺跡				○
18	住宅団地分譲事業	今塚地区	今塚遺跡	○	○		
19	埋蔵文化財基礎調査		長表遺跡	○			
	"		長表大日塚	○			
	"		長表熊野塚	○			
	"		八ツ口遺跡	○			
	"		行才1遺跡	○			
	"		鳴遺跡	○			
	"		梅野木前1遺跡	○			
	"		梅野木前2遺跡	○			
	"		梅野木塚	○			
	"		田端稻荷塚	○			

II 調査の概要

1 調査遺跡地名表

(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡

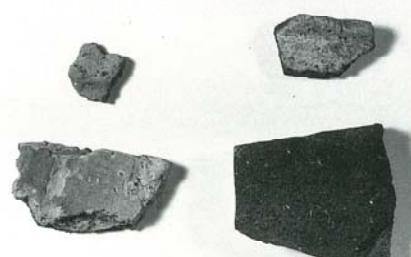
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	下川	2 鶴岡市大字下川字樋渡	平安時代 室町時代	丘陵端(11m)	畑地
2	散布地	下川	3 鶴岡市大字下川字西谷地	奈良時代 平安時代	平地(11m)	畑水田
3	散布地	下川	4 鶴岡市大字下川字西田面	平安時代	平地(11m)	畑地



第1図 県営ほ場整備事業関係位置図



下川2遺跡遠景（南東から）



下川2遺跡採取遺物

図版I 県営ほ場整備事業関係遺跡(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
鶴岡市大山善宝寺の北東 700m、高館山丘陵の北東端に位置する。今回の表面調査で、畑地から遺物が少量採集された。	赤焼土器、中世陶器	新規(平成 3 年度)
鶴岡市大山善宝寺の北東 1.5km、松葉から陳川に至る農道の中ほどに位置する。農道両側の畑地一帯に広い範囲で遺物が散布する。	赤焼土器、須恵器	新規(平成 3 年度)
鶴岡市大山善宝寺の北東 800m、松葉から陳川に至る農道の東端に位置する。農道両側に畑地に遺物が散布する。	赤焼土器、土師器、須恵器	新規(平成 3 年度)



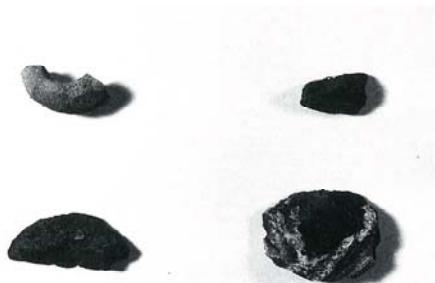
下川 3 遺跡近景（東から）



下川 3 遺跡採取遺物



下川 4 遺跡近景（北西から）

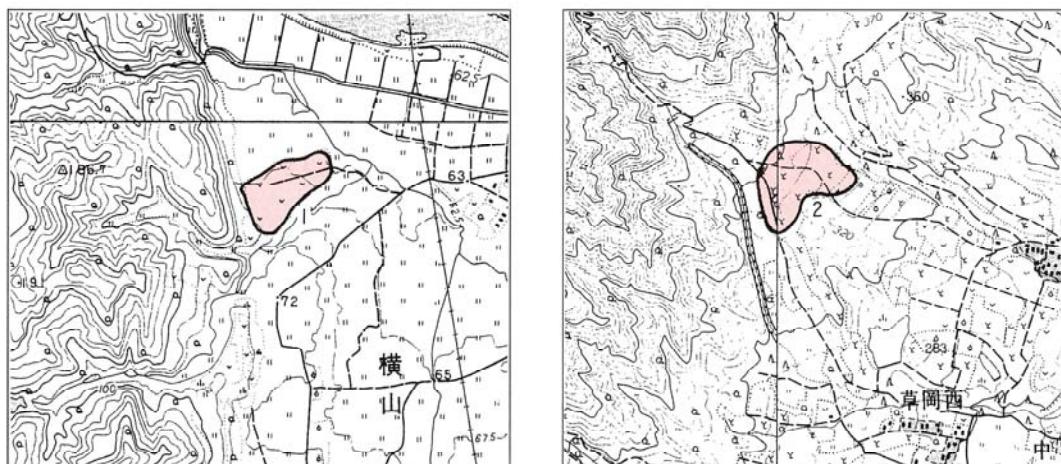


下川 4 遺跡採取遺物

図版 2 県営ほ場整備事業関係遺跡(2)

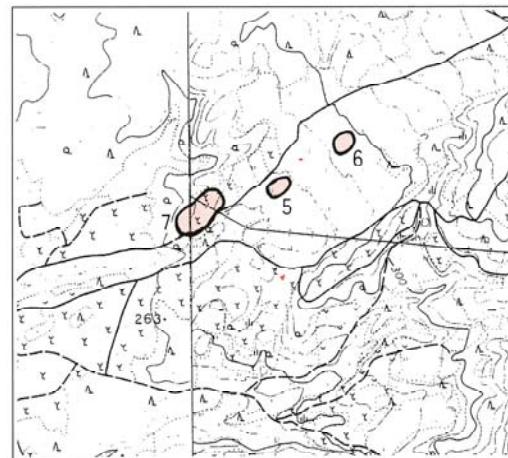
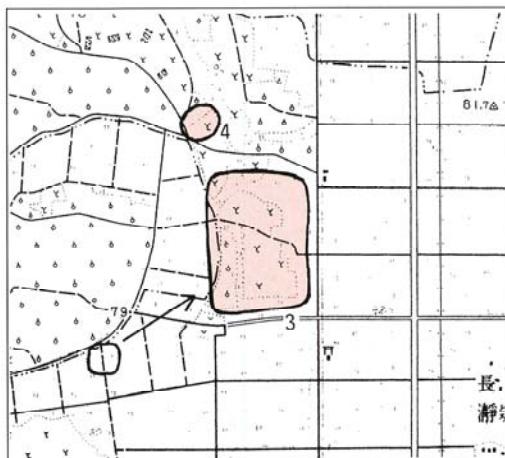
(2) 農道整備事業等関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包藏地	横山	北村郡大石田町大字横山	繩文時代	段丘(70m)	畠地 山林
2	散布地	梨ノ木平	長井市草岡字梨ノ木平大石沢	繩文時代(中期)	段丘(335m)	桑畑 牧草地 畠地
3	城館跡	長瀬本楯	東根市長瀬字本楯	室町時代	平地(81m)	果樹園 畠地 水田
4	集落跡	八反	東根市長瀬字八反	平安時代	平地(80m)	水田 畠地
5	包藏地	向山	尾花沢市大字中島	繩文時代	山腹(280m)	水田
6	集落跡	明光寺	尾花沢市大字中島字明光寺原	繩文時代	山腹(293m)	水田
7	集落跡	霧	尾花沢市大字中島字霧	繩文時代(中期)	山腹(270m)	畠地 桑農道
8	散布地	長峰	南陽市竹原字長峰	繩文時代	山麓(250m)	畠地
9	集落跡	松原	米沢市大字三沢字松原	繩文時代(前期)	段丘(283m)	畠地 道路宅
10	散布地	家根合	東田川郡余目町家根合字五輪塚	平安時代	平地(6m)	水田
11	包藏地	御阿弥陀窯跡	天童市貢津字御阿弥陀	平安時代	山麓(150m)	果樹園

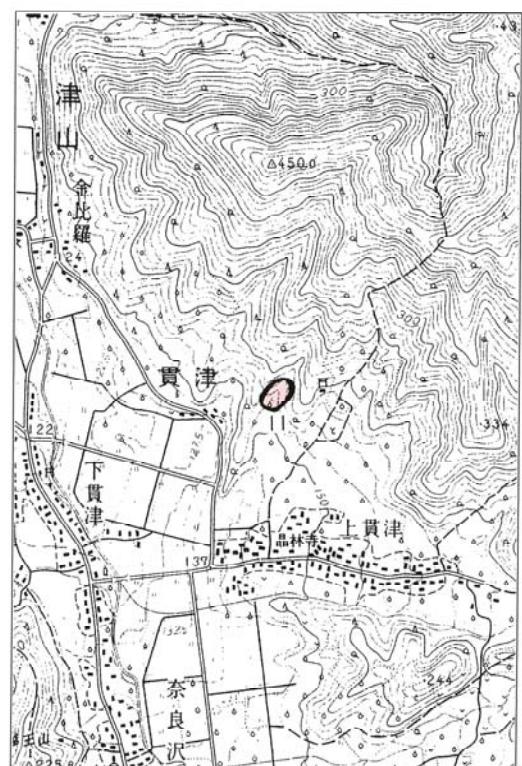
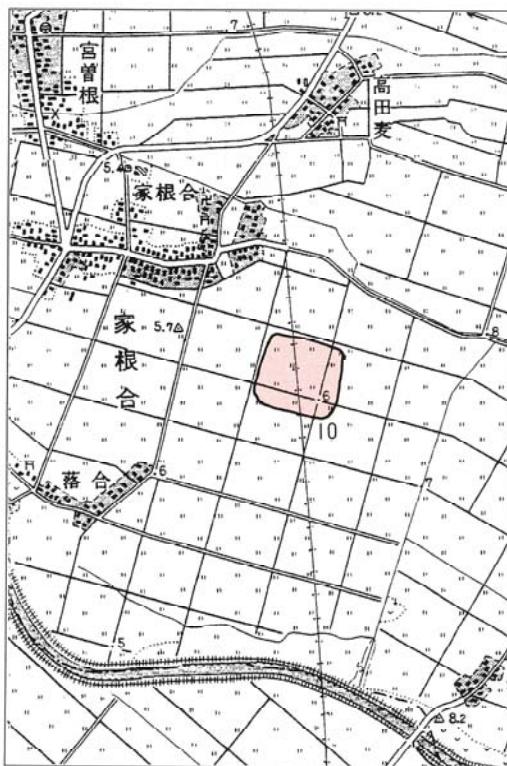
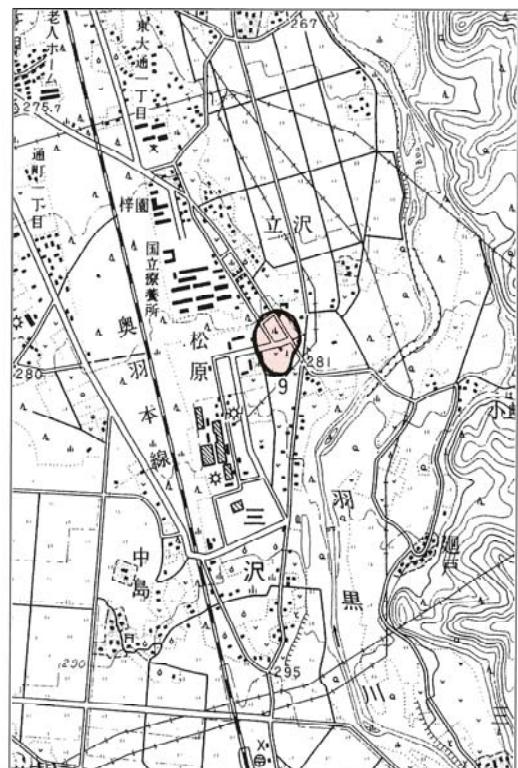
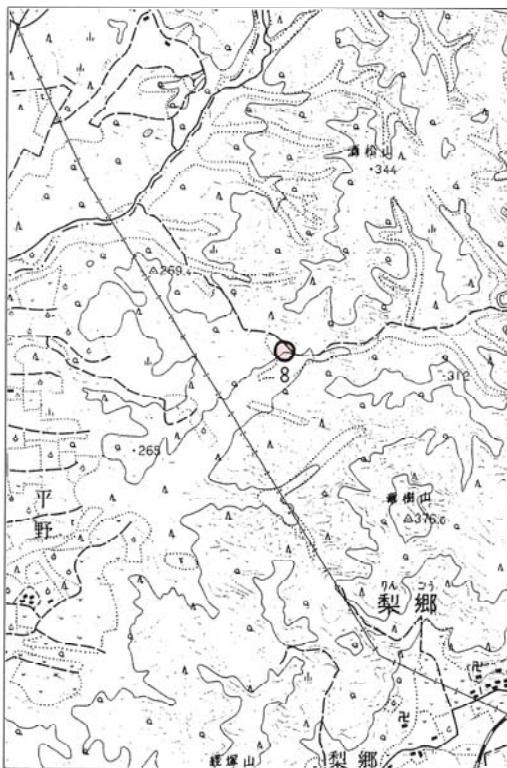


第2図 農道整備事業等関係遺跡位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 奥羽本線大石田駅の西方 2 km の最上川左岸の段丘に立地する。立会い調査で縄文土器片が 5 点出土したが、遺構は検出されなかった。	縄文土器片	No.817 平成 3 年 8 月 5 日県教委立会い調査実施
「古代の丘」の西に隣接する段丘に立地。試掘調査の結果、桑畠の開発時に搅乱を受けていることが明らかとなった。	縄文土器片	昭和57年度登録 平成 3 年 10 月 11 日県教委試掘調査実施
東根市の西端、最上川の東方 1.5 km に立地する。範囲は東西 350 m × 南北 450 m 。『山形県遺跡地図』の記載場所と位置が少し異なる。		No.722 昭和53年『山形県遺跡地図』位置を訂正
東根市の西端、最上川の東方 1.2 km に立地する。以前に水田から須恵器壺が出土したが、今回も遺物は採集されなかった。		No.723
中島から吹越に至る農道の南側に位置する。開田によってほとんどが消滅したと考えられる。		No.772
中島から吹越に至る農道の南側に位置する。開田によって大部破壊を受けているが、一本杉のある付近は、旧地形が残っている。		No.773
中島から吹越に至る農道の北側に位置する。とくに、遺跡西半部の畑地には遺物が多く散布している。	縄文土器片、石匙、剝片	新規(平成 3 年度)
梨郷地区中央部竹原の北部丘陵地帯にある。酒松山の山麓で、遺跡付近は南向きのゆるやかな畑地となっている。	剝片	昭和60年度新規発見 『南陽市史考古資料編』記載
米沢市街地の東南 4.5 km 、羽黒川の河岸段丘上に位置する。今回の表面踏査では、遺物や遺構は発見されなかった。		No.1180 昭和46年に置賜考古学会が発掘調査実施
家根合部落の南東部、字五輪塚に位置する。昭和28年に行われた耕地整理の時、須恵器・土師器がまとまって出土したと伝えられる。	須恵器壺、あかやき土器	No.1706 昭和53年『山形県遺跡地図』
上貫津北側の山麓斜面に位置する。窯跡の存在が伝えられるが、場所の特定ができない。農道工事に係わって少量の須恵器等が得られた。	須恵器壺破片(10数片)	No.313 平成 3 年 11 月 25 ・ 26 日に立会い調査実施



第 3 図 農道整備事業等関係遺跡位置図(2)



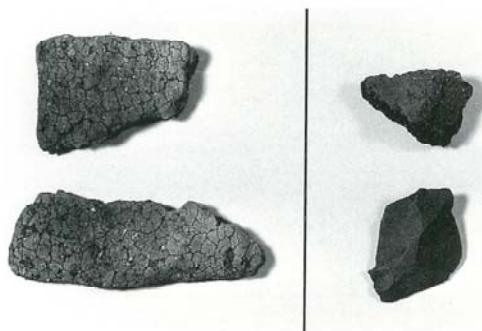
第4図 農道整備事業等関係遺跡位置図(3)



横山遺跡遠景（東から）



梨ノ木平遺跡近景（南から）



横山（左）梨ノ木平（右）採取遺物



松原遺跡近景（東から）



長瀬本楯遺跡近景（東から）



八反遺跡近景（東から）



向山遺跡近景（南から）



明光寺遺跡遠景（北から）



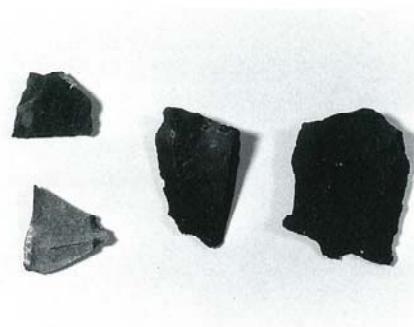
霧 2 遺跡近景（東から）



霧 2 遺跡出土遺物



長峰遺跡近景（南東から）

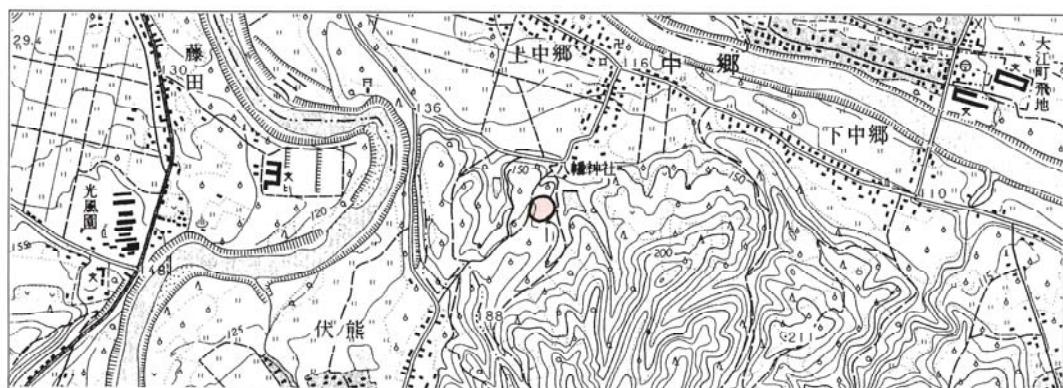


長峰遺跡採取遺物

図版4 農道整備事業等関係遺跡(2)

(3) ため池等整備事業他農林事業関係遺跡

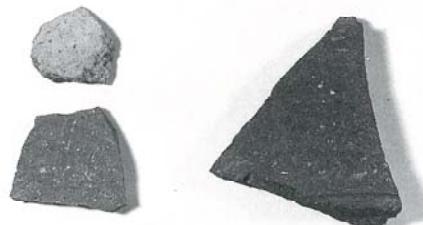
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	五 ひやく 百 かり 刈	寒河江市中郷字五百刈	繩文時代	山頂 (150m)	果樹園
2	散布地	さか 坂 の 上	尾花沢市大字二藤袋字坂ノ上	繩文時代	段丘 (118m)	畠水田
3	集落跡	あら 荒 谷 (山王地区)	天童市大字芳賀字山王791 他	繩文時代 ↓ 平安時代	平地 (133m)	畠地 荒地
4	散布地	こま 駒 ば 場	新庄市大字鳥越字駒場	繩文時代	段丘 (114m)	墓宅地



第5図 ため池等整備事業他農林事業関係遺跡位置図(1)



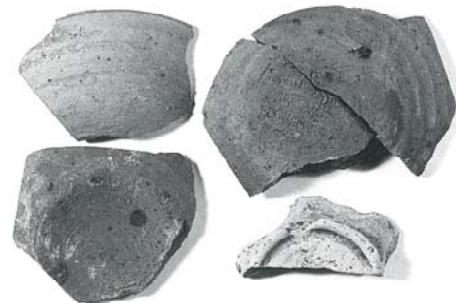
家根合遺跡近景（西から）



家根合遺跡採取遺物



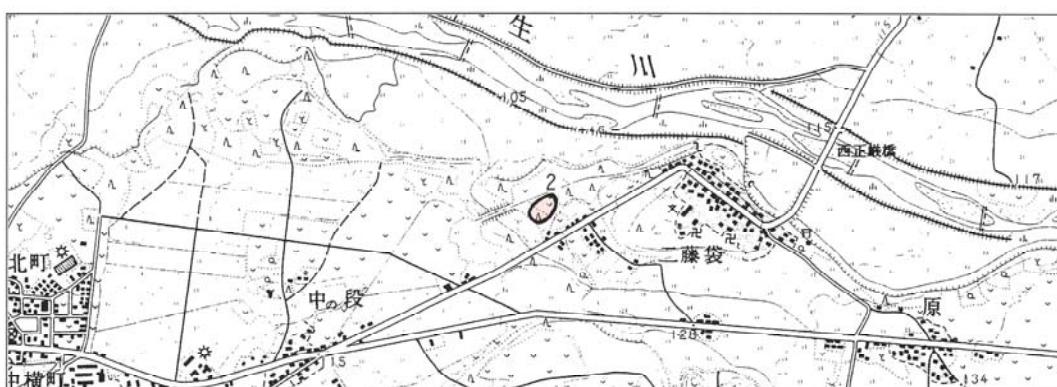
御阿弥陀窯跡近景（北から）



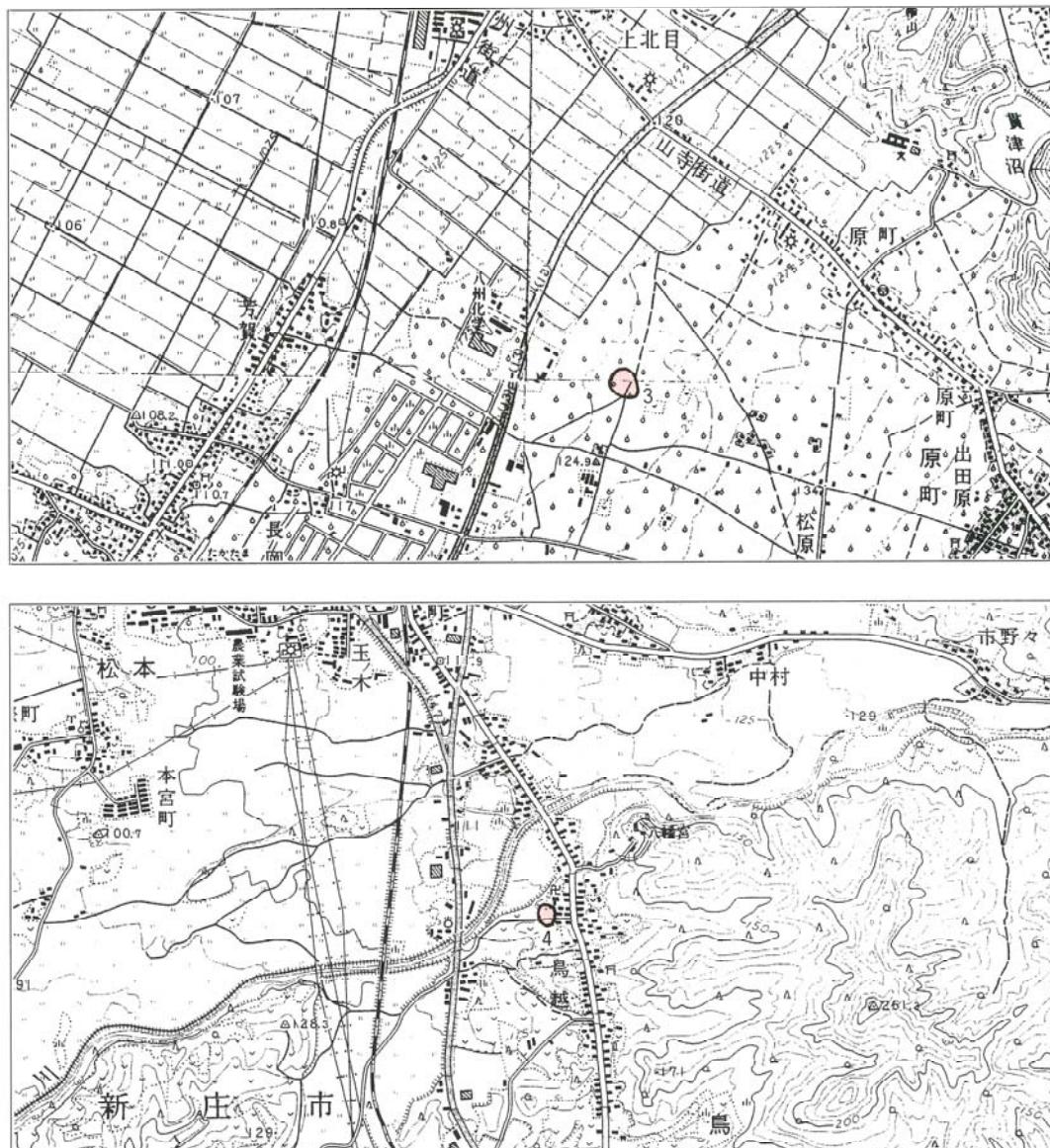
御阿弥陀窯跡出土遺物

図版5 農道整備事業等関係遺跡(3)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R左沢線左沢駅の南東 2.2kmに位置し、大和沼西南方に立地する。今回の試掘調査では遺物・遺構とも未検出であった。		平成2年度登録 平成3年4月30日県教委試掘調査実施
上宿集落の西方 400m、丹生川の左岸河岸段丘上に立地する。周辺の畑地に若干の遺物の散布がみられる。	縄文土器	No2340
国道13号線天童バイパス東側、県総合運動公園南側に位置し、乱川扇状地の北部に立地する。今回の調査では遺構・遺物は検出されなかった。	赤焼土器、須恵器(表面採集)	昭和58年度登録 遺跡範囲修正
新田川の左岸台地上の如法寺及び墓地付近に所在すると推定される。周辺の畑地に若干の遺物の散布がみられる。	剝片	昭和56年度登録 遺跡範囲修正



第6図 ため池等整備事業他農林事業関係遺跡位置図(2)



第7図 ため池等整備事業他農林事業関係遺跡位置図(3)



五百刈遺跡近景（南西から）



五百刈遺跡土層断面

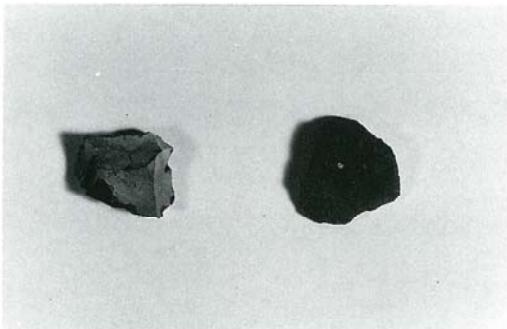
図版6 ため池等整備事業他農林事業関係遺跡(1)



坂ノ上遺跡遠景（西から）



坂ノ上遺跡近景（南西から）



坂ノ上遺跡出土遺物



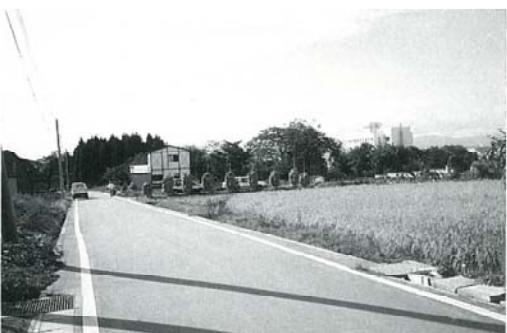
荒谷原遺跡近景（北から）



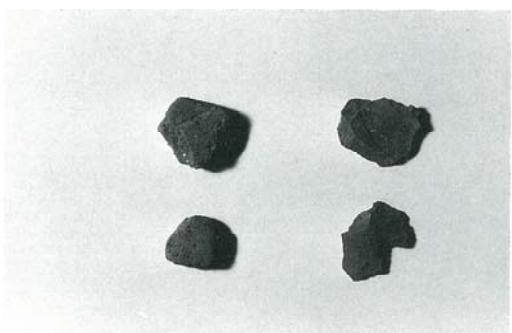
荒谷原遺跡土層断面



荒谷原遺跡出土遺物



駒場遺跡近景（東から）

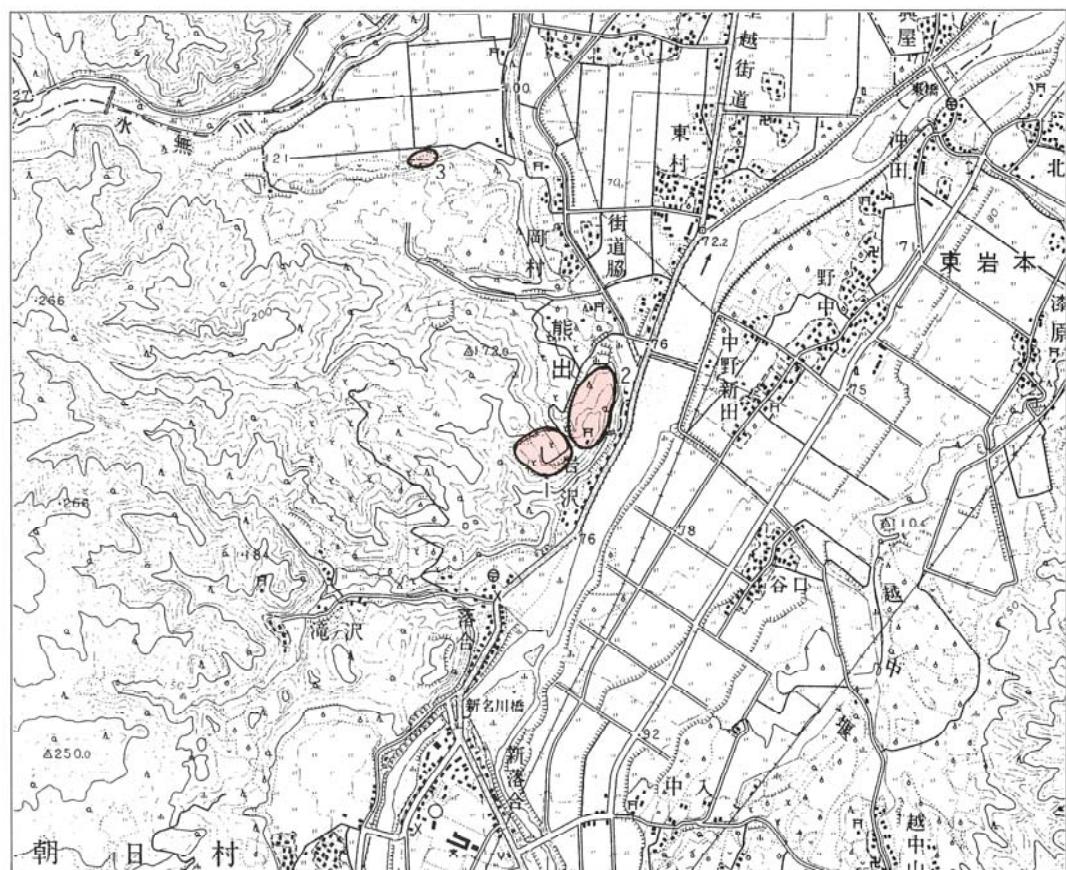


駒場遺跡出土遺物

図版 7 ため池等整備事業他農林事業関係遺跡(2)

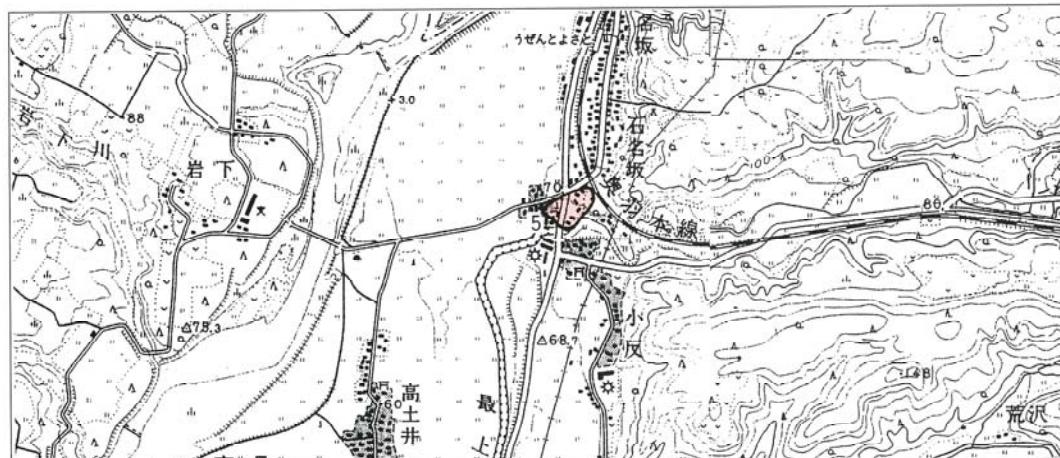
(4) 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	城館跡	中台館跡	東田川郡朝日村大字熊出字中台31の1	南北朝時代	丘陵(140m)	畠地
2	城館跡	獅子岩城跡	東田川郡朝日村大字熊出字中台27の1~4	南北朝時代	丘陵(130m)	山林境内
3	散布地	栗山北	東田川郡朝日村大字熊出字栗山	繩文時代	旧河川(103m)	畠地
4	散布地	仲ノ原	最上郡舟形町字仲ノ原	繩文時代	段丘(99m)	畠水田
5	散布地	谷地	最上郡鮎川村大字京塚字谷地・石名坂	繩文時代	段丘(68m)	宅地畠地墓地
6	集落跡	上荒谷	天童市大字荒谷字上荒谷	繩文時代(前期)	扇状地(180m)	畠地果樹園宅地
7	散布地	一本松	西置賜郡白鷹町大字中山字一本松	繩文時代(晚期)	山腹(390m)	桑園

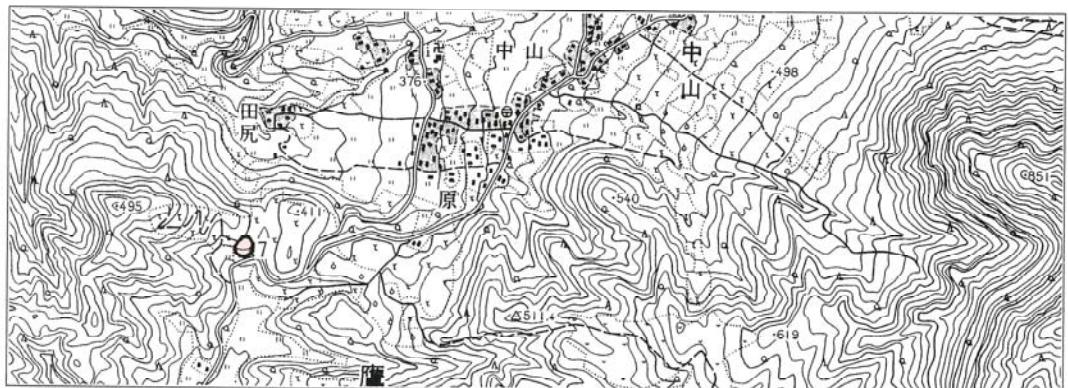
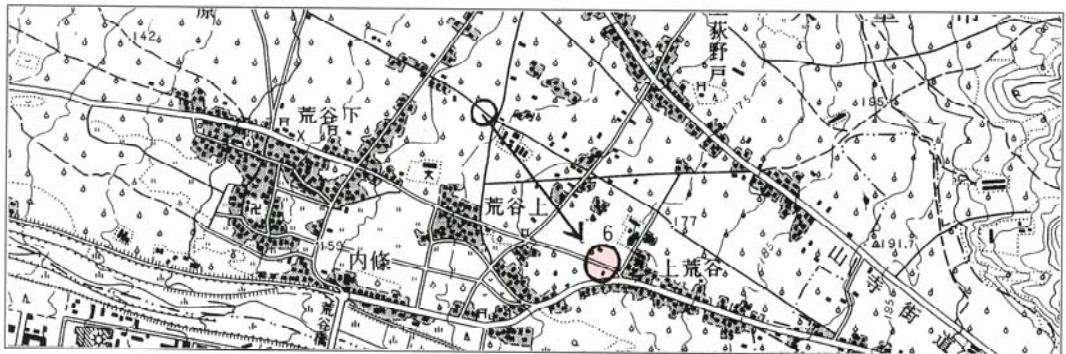


第8図 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
赤川左岸の丘陵上に位置する。獅子岩城と同丘陵の南側に位置し、獅子岩城の見張所とも考えられる。		No.1892 平成元年『分布調査報告書(16)』位置要訂正
赤川左岸の丘陵端に位置する。赤川神社裏に土塁が遺存する。北側に関して踏査を行ったが雑木が多く、今次調査で遺構確認はできない。		No.1891 平成元年『分布調査報告書(16)』範囲要訂正
赤川左岸と水無川右岸の中間の段丘上に位置する。繩文土器・剥片の散布がみられるが、試掘調査からは、遺構・遺物の検出はない。	繩文土器、剥片	昭和63年度登録 平成3年11月21日試掘調査実施
沖ノ原地区の南端、小国川が大きく南西へ流れを変える辺りの右岸段丘上に位置する。段丘縁辺の微高地に遺物が若干散布している。	繩文土器片、剥片	昭和61年度登録 平成3年11月19・20日試掘調査実施
最上内川を挟んで、小反遺跡の北対岸に立地する。現在かなりの部分が宅地になっているが残された畠地から土器片が多く表採できる。	繩文土器片	新規(平成3年度)
立谷川扇状地中央側縁に位置する。昭和29年の発掘調査で住居跡・石器製作跡が検出された。繩文時代前期の集落跡と推定される。		No.232 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
主要地方道山形白鷹線で、荒砥から中山集落に入る直前の南面する山腹に立地する。桑畠に繩文土器片が若干散布する。	繩文土器片	新規(平成3年度)



第9図 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡位置図(2)



第10図 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡位置図(3)



中台館跡遠景（南東から）



獅子岩城跡遠景（東から）



栗山北遺跡近景（東から）



栗山北遺跡作業状況（南から）

図版8 東北横断自動車道、国道、県道建設・改良工事関係遺跡(1)



栗山北遺跡出土遺物



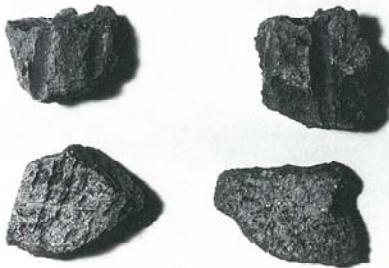
仲ノ原遺跡近景（西から）



仲ノ原遺跡土層断面



谷地遺跡近景（南西から）



谷地遺跡採取遺物



上荒谷遺跡近景（南東から）



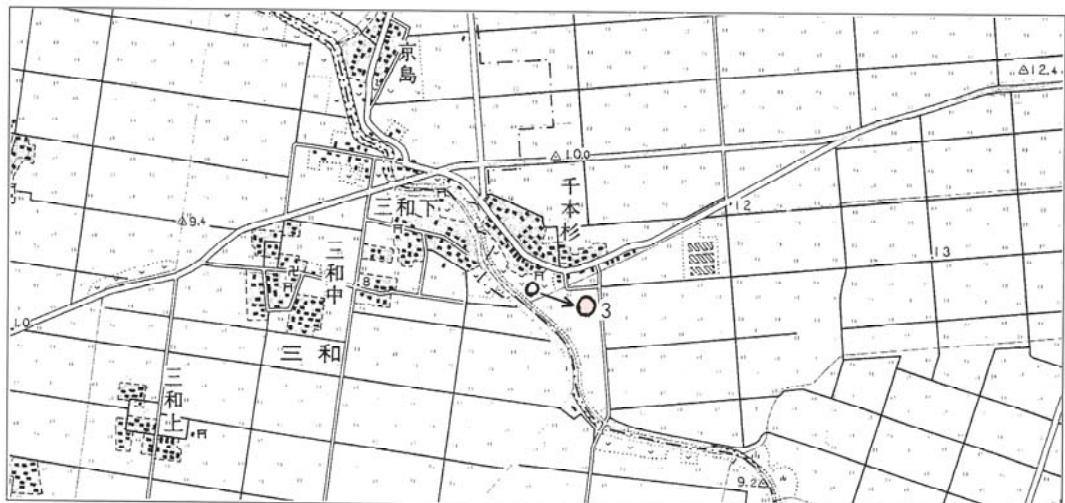
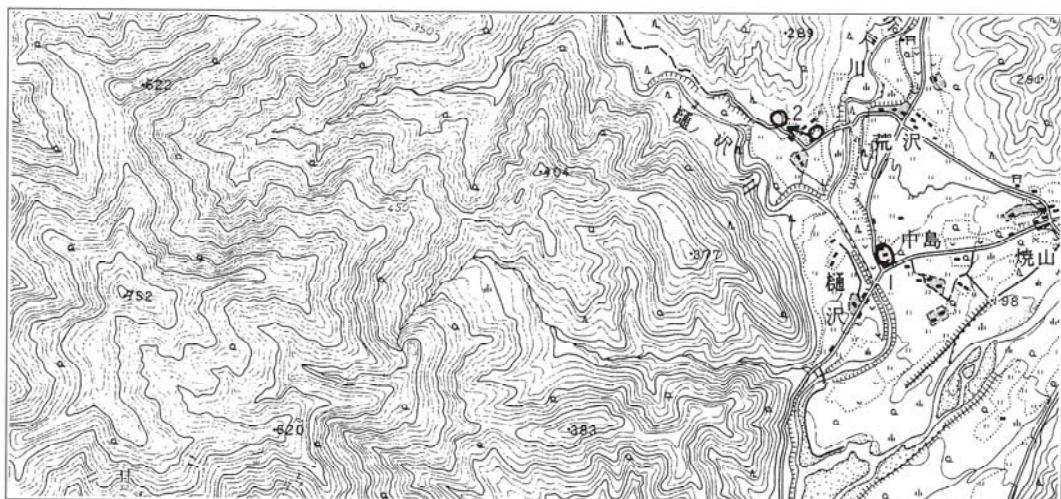
一本松遺跡近景（南東から）



一本松遺跡出土遺物

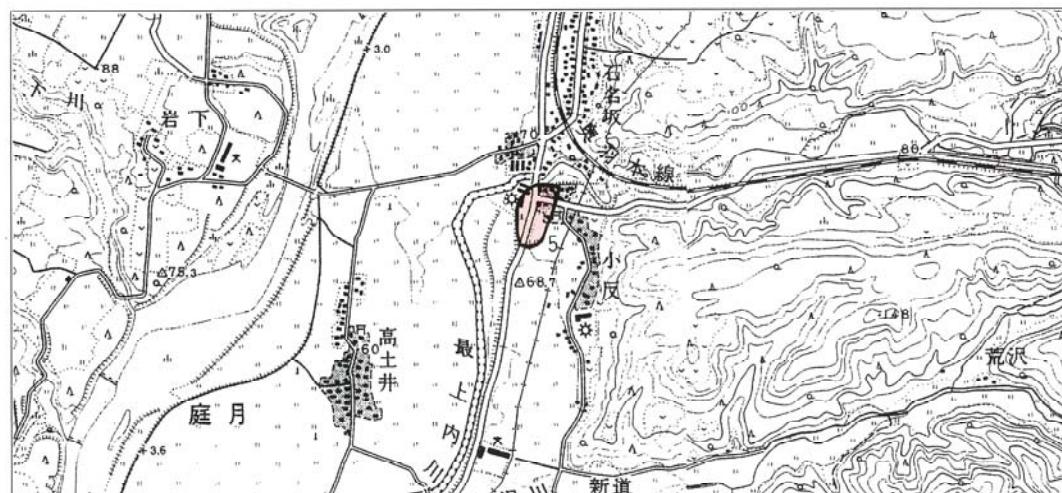
(5) 河川改修、砂防事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	なか 中島	西置賜郡小国町大字中島 字藤屋敷9番地	縄文時代 (中~晚期)	段丘 (195m)	宅地 畠地 水田
2	散布地	むかわあら 向荒沢 さわいな 稻場	西置賜郡小国町大字荒沢字稻場	縄文時代	段丘 (220m)	畠地
3	包蔵地	せん 千本 ほん 杉	東田川郡立川町千木杉字下川端	平安時代 鎌倉時代	平地 (9.7m)	水田
4	散布地	なか 中里	D 鶴岡市田川字品野町	平安時代	平地 (25m)	水田
5	集落跡	こ 小 ぞり 反	最上郡鮎川村大字京塚字小反524他	縄文時代 (後期)	段丘 (70m)	水畠 地道 路
6	散布地	うち 内子 こ	最上郡舟形町堀内字西又	縄文時代 (中期)	山麓 (145m)	山畠 林地

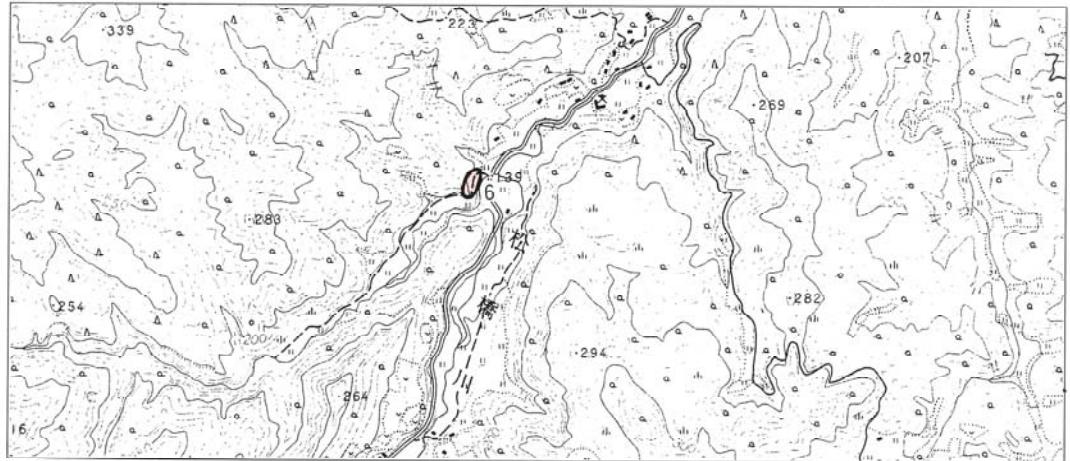


第11図 河川改修、砂防事業関係遺跡位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
荒川によって形成された沖積段丘に立地する。宅地南の畠地に縄文土器片が散布する。範囲は東西30m、南北70mと推定される。	縄文土器片	No.1402
折戸川と樋ノ沢川の合流地点から北西に250mに位置し、段丘南斜面に立地する。東西40m南北20mの狭い畠地に遺物が散布する。	石 鏃	No.1403 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
京田川右岸の水田中に立地し、千本杉部落東南方向中に位置する。遺跡規模不明であるが昭和48年に実施されたほ場整備で遺物が知られた。	北宋銭・南宋銭(約1000枚) 須恵器	No.1680 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
大山川右岸の水田中に立地し、樋川原と中清水の集落間に位置する。市道をはさんで遺物の散布が認められ、特に北側に集中する。	あかやき土器、内黒土師器	No.1592 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
最上内川の東方400mの河岸段丘上に立地する。県道新庄・真室川線に沿って細長く分布し、以前の道路工事で遺物が多く出土したという。	縄文土器片	No.1049
内子沢川左岸の山麓斜面、右岸側の小範囲の畠地に遺物が若干散布している。以前の林道造成時にまとまった遺物が出土したと伝えられる。	縄文土器片(大木8a式)	No.963 昭和53年『山形県遺跡地図』範囲要訂正



第12図 河川改修、砂防事業関係遺跡位置図(2)



第13図 河川改修、砂防事業関係遺跡位置図(3)



中島遺跡近景（南から）



向荒沢稻場遺跡近景（南から）



中島、向荒沢稻場採取遺物



千本杉遺跡近景（北から）

図版10 河川改修、砂防事業関係遺跡(1)

(6) 水道事業、県立学校整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立地	地 目
1	集落跡	うえの 上野山 D	東田川郡朝日村大字行沢字上野山	繩文時代	丘陵 (168m)	畠地 荒地
2	館跡	むかわ 向館	東田川郡藤島町大字藤島字向館跡	南北朝時代 江戸時代	平地 (11m)	学校敷地 宅地



中里D遺跡近景（西から）



中里D遺跡出土遺物



小反遺跡近景（南から）



小反遺跡採取遺物



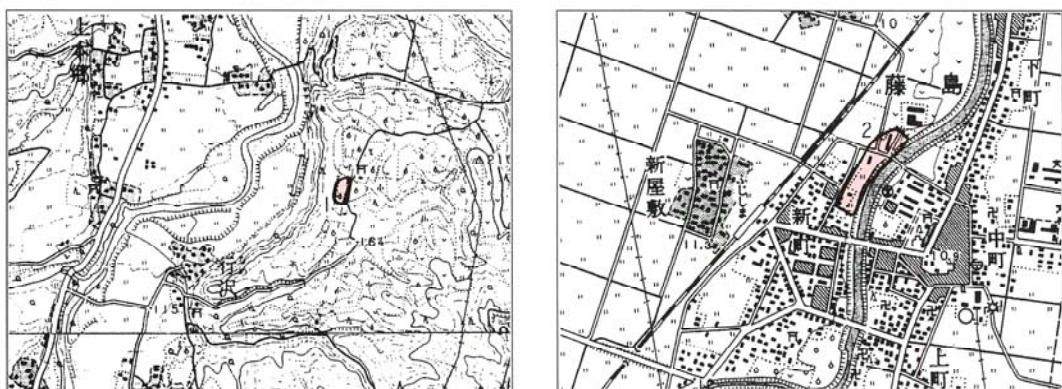
内子沢遺跡近景（北から）



内子沢遺跡出土遺物

図版II 河川改修、砂防事業関係遺跡(2)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
大島川右岸の丘陵上に立地する。遺跡全域で延1050m ² のトレンチ調査を実施。土坑2基が検出された。遺構・遺物は希薄である。		昭和59年度登録
藤島川の右岸に位置する。慶長年間に藤島城の出城として築かれたと伝えられる。試掘調査の結果、若干の遺構と遺物がみられた。	かわらけ	No.1713 平成3年10月21・22日試掘調査実施



第14図 水道事業、県立学校整備事業関係遺跡位置図



向館跡遠景（南東から）



向館跡近景（北東から）

図版12 水道事業、県立学校整備事業関係遺跡(1)

(7) 山形北部地区基礎調査

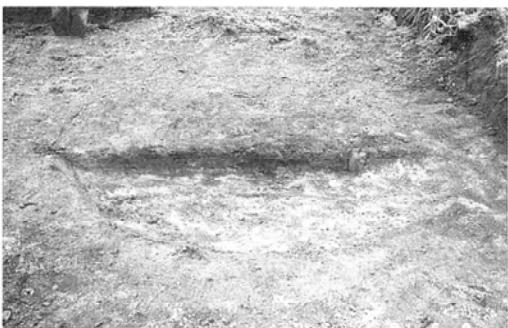
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	長表	山形市長表	奈良時代 平安時代	平地 (101m)	水田 畠地
2	塚	長表熊野塚	山形市長表	中世～近世	平地 (102m)	境内
3	塚	長表大日塚	山形市長表	中世～近世	平地 (102m)	境内
4	散布地	八ツ口	山形市八ツ口・本屋敷	奈良時代 平安時代	平地 (100m)	水田 畠地
5	散布地	行才	山形市行才	奈良時代 平安時代	平地 (100m)	水田 畠地
6	集落跡	しま嶋	山形市宮町字鳴	古墳時代 奈良時代	平地 (105m)	水田 畠地
7	散布地	梅野木前1	山形市梅野木前	奈良時代 平安時代	平地 (106m)	水田 畠地
8	散布地	梅野木前2	山形市梅野木前	古墳時代 奈良時代 平安時代	平地 (107m)	水田 畠地
9	塚	梅野木塚	山形市梅野木前	中世～近世	平地 (107m)	荒地
10	塚	田端稻荷塚	山形市田端	中世～近世	平地 (108m)	境内



上野山D遺跡近景（北西から）



上野山D遺跡トレンチ調査状況



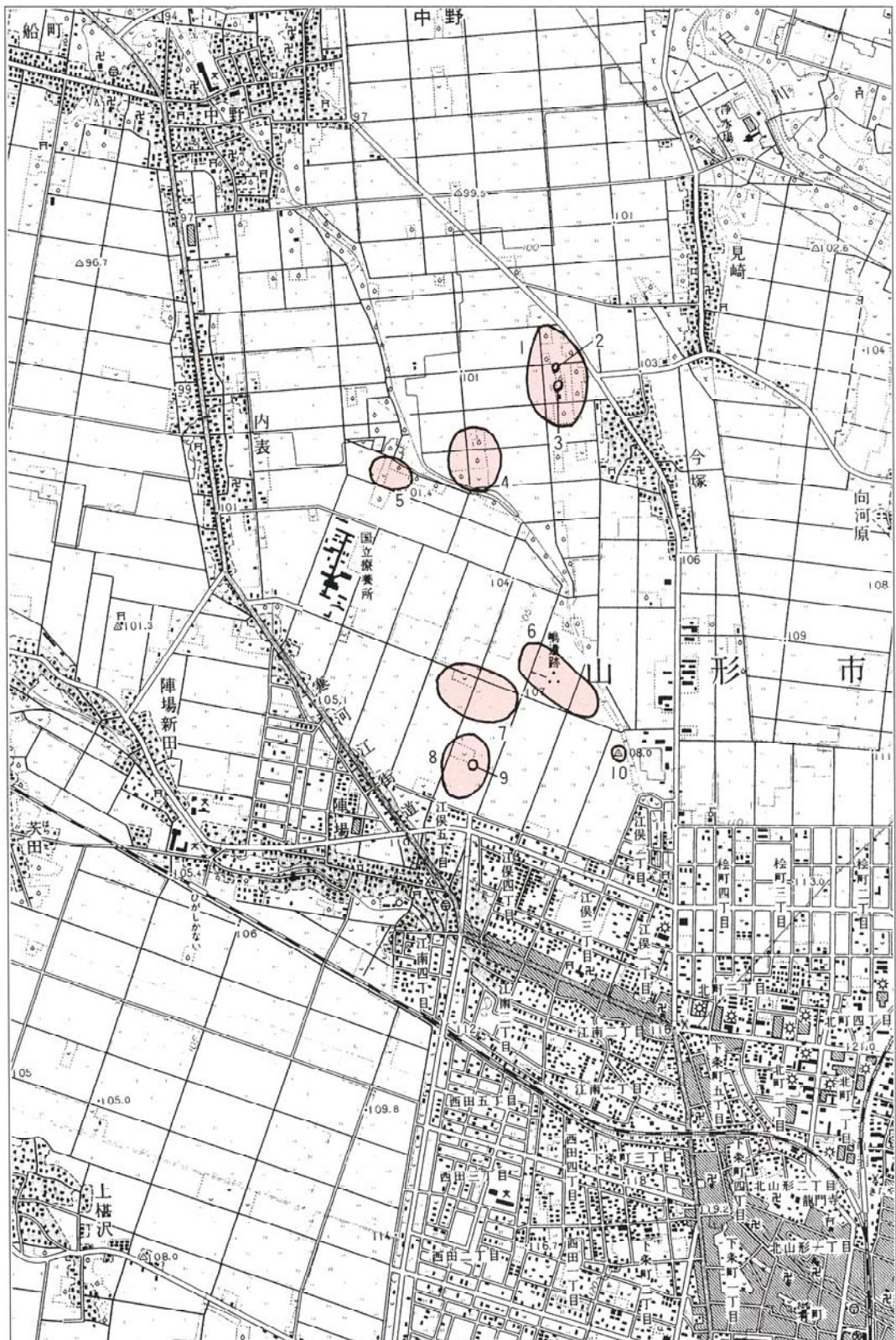
上野山D遺跡検出遺構（SK1）



上野山D遺跡検出遺構（SK2）

図版13 水道事業、県立学校整備事業関係遺跡(2)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
今塚集落の北西 約100mに位置する。旧地形を留める畑地を中心に遺物が散布する。基盤整備の際にも遺物が出土したと伝えられる。	須恵器、土師器、赤焼土器	新規(平成3年度)
長表遺跡範囲内に位置する。約1mの高さに土盛りされ、熊野大権現の祠が鎮座する。平面形は円形を呈する。		新規(平成3年度)
熊野塚の北約70mに位置する。約80cmの高さに土盛りされ、大日如来の祠がある。平面形は方形を呈する。		新規(平成3年度)
今塚集落の西 約600mに位置する。旧地形が残る南側畑地を中心に遺物の良好な散布が認められる。	須恵器	新規(平成3年度)
国立療養所の北 約350mに位置する。畑地を中心に良好な遺物散布が認められる。	須恵器、土師器、赤焼土器	新規(平成3年度)
史跡指定されている付近を中心で多量の遺物が散布する。従来考えられた範囲より東西方向に広がることが想定される。	土師器	No.4 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
江俣地区の北 約500mに位置する。西側畑地を中心に良好な遺物散布が認められるが、水田部分は散布の確認が困難である。	須恵器、土師器	新規(平成3年度)
江俣地区の北 約200mに位置する。北側畑地を中心にまとまった遺物散布が認められる。南側水田部分は散布の確認が困難である。	土師器	新規(平成3年度)
梅野木前2遺跡範囲内に位置する。約50cmの高さに土盛りされ祠が鎮座する。銘は不明、平面形は方形を呈する。		新規(平成3年度)
市净化センターの西 約100mに位置する。約1mの高さに土盛りされ、稻荷の祠が鎮座する。平面形は円形を呈する。		新規(平成3年度)



第15図 山形北部地区基礎調査遺跡位置図



長表遺跡近景（南から）



長表遺跡採取遺物



長表大日塚近景（西から）



長表大日塚祠（南から）



長表熊野塚近景（南から）



長表熊野塚祠（南から）



ハツロ遺跡遠景（東から）



ハツロ遺跡採取遺物



行才Ⅰ遺跡近景（西から）



行才Ⅰ遺跡採取遺物



鳴遺跡遠景（北西から）



鳴遺跡近景（北から）



史跡立札（西から）



石碑（南から）



鳴遺跡国指定区域（西から）



鳴遺跡採取遺物



梅野木前 1 遺跡近景（北から）



梅野木前 1 遺跡採取遺物



梅野木前 2 遺跡近景（南東から）



梅野木前 2 遺跡採取遺物



梅野木塚近景（西から）



梅野木塚祠（南から）



田端稻荷塚近景（東から）



田端稻荷塚祠（東から）

図版16 山形北部地区基礎調査(3)

2 試掘調査の概要

(1) 小倉山遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県酒田市大字北沢字小倉山5

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年5月8・9日、11月5・6日

調査の概要 遺跡は酒田市街から東へ約9kmほどの山間部にある。標高142mを測る丘陵の痩せ尾根に立地し、地目は山林となっている。

5月の調査は、国営農地開発事業鳥海南麓地区の小倉山工区内に埋蔵文化財包蔵地が存在するかどうかを判断するために実施したもので、平成2年度5月の表面踏査の結果に基づき、工区内の3地点で合わせて46ヵ所の坪堀りを行った。その結果、1地点の2ヵ所の試掘坑から縄文時代の石器が出土したため、遺跡の範囲を決定するための追加調査を11月に実施した。

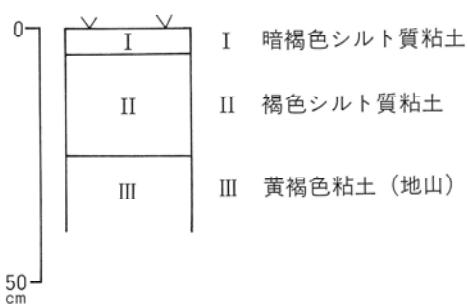
11月の調査では5月の調査で遺物が出土した地点に1×4mを1本、1×3mを4本、1×2mを2本の計7本の試掘トレンチを設定した。各トレンチを地山まで掘り下げる遺構遺物の有無を確認した。その結果、5月の調査で遺物が出土した隣接トレンチで石核1点(TT2)、チップ2点(TT1)が出土したものの、遺構は検出されなかった。



第16図 小倉山遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



T T 2 土層柱状図



T T 2



T T 2 セクション土層断面



出土遺物

(2) 鷹尾山遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県酒田市大字北沢字鷹尾山

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年11月7・8日

調査の概要 遺跡は大平集落より南東へ750mほどの、標高200mの山の中腹に在り、地目の大半は山林である。今回の調査は、昨年度6月に実施した表面踏査に基づき、4ヶ所の地点で試掘を行ったものである。およそ10mおきに1m四方の試掘坑を設定し、合計で21箇所を地山まで掘り下げた。

その結果、第4地点のTP19から平安時代の土師器、赤焼土器片および縄文時代の縦長剝片が出土した。平安の遺物を含む層は、表土（黒褐色粘土質シルト）下のII層（暗褐色シルト質粘土）で、さらにこの層の最下部から地山層上部にかけて、縄文時代の剝片が出土した。

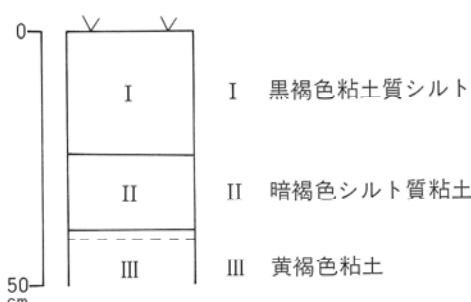
以上により、遺跡範囲は地形を考慮し、一応東西110m、南北40mの範囲としたが、正確な範囲を確定するためにはさらに密度の高い試掘調査を実施する必要がある。遺跡は出土遺物から平安および縄文時代の包蔵地と考えられる。



第17図 鷹尾山遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP 19 土層断面



出土遺物（1）



出土遺物（2）

図版18 鷹尾山遺跡

(3) 山楯4遺跡 (平成2年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡平田町大字山楯字北山

調 査 員 渋谷孝雄 真壁 建

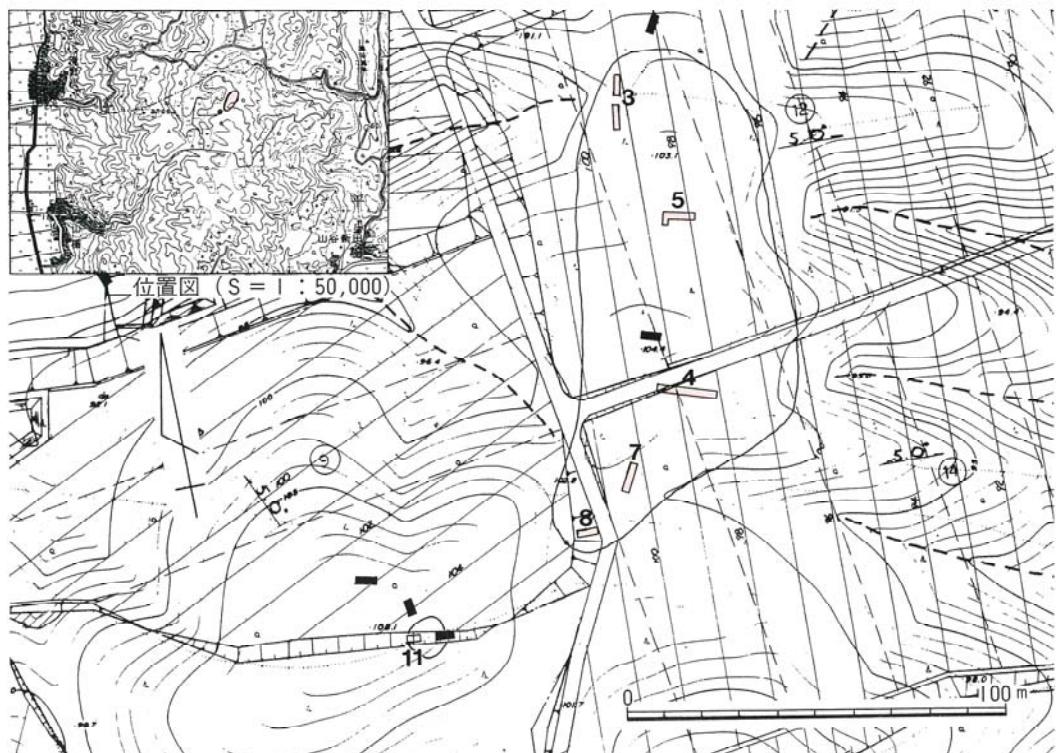
調 査 期 日 B調査 平成2年5月15~17日

調査の概要 本遺跡は山楯集落より北東へ1.2km、平田農場に南接する標高103mの丘陵上に位置する。地目の大半は杉林で、部分的に雑木林が残る。昨年度6月の表面踏査の結果を受けて11月に実施された試掘調査の折りに発見された8遺跡の中の1つである。

今回の調査は本遺跡の更に詳しい内容を知るために、1×5~15m規模のNo.3~13からなる11本のトレンチを設定した。その結果、No.3トレンチから柱穴1基、No.4トレンチからは溝1条を、また昨年度の調査の時には何も検出できなかった南西尾根続きの丘陵平坦部に設定したNo.11トレンチから、壁面が焼けている土壌1基を検出した。

遺物はNo.3トレンチ、No.4トレンチ、No.5トレンチ、No.7トレンチ、No.8トレンチより須恵器片、赤焼土器片、石器が出土した。

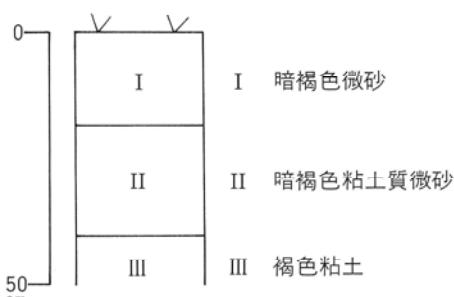
以上により、遺跡範囲は前回の調査結果よりも南に広がり東西45m×南北130mと推定され、No.11トレンチのある標高104mの丘陵にも東西10m×南北13mの飛地のように伸びていることが判明した。時期は出土遺物から、平安時代が主体と考えられる。



第18図 山楯4遺跡概要図



遺跡近景（東から）



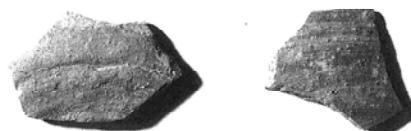
土層柱状図



TT 4 遺構検出状況



TT 5 遺物出土状況



出土遺物

(4) 山楯6遺跡 (平成2年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡平田町大字山楯字北山

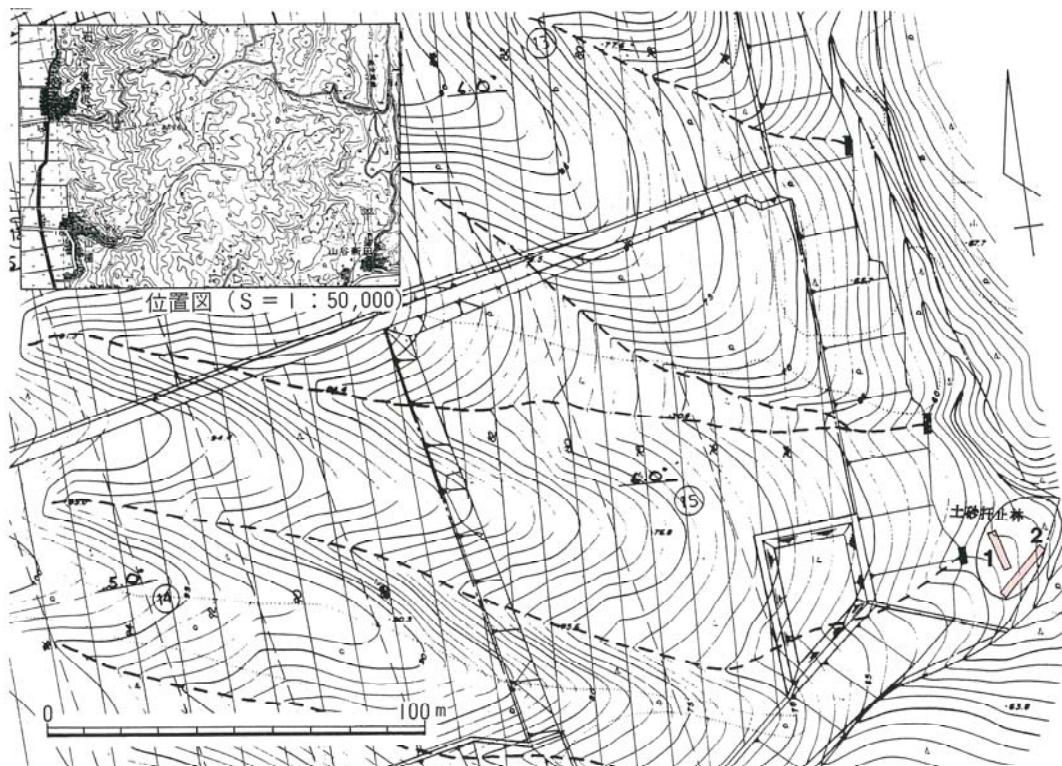
調 査 員 渋谷孝雄 眞壁 建

調 査 期 日 B調査 平成3年5月14~15日

調査の概要 本遺跡は山楯集落より北東へ1.4km、平田農場の北東、山楯4遺跡のある丘陵から派生する尾根の標高57mの緩斜面上に位置する。地目の大半は杉林であったが、現在は伐採されている。その時に作られたと思われる林道に遺跡の中心部分を破壊されてしまっている。平成2年11月に実施された試掘調査の折りには遺構・遺物共に検出されず、赤焼土器片・石器を若干表面採集できたに過ぎなかった。

今回の調査は本遺跡の更に詳しい内容を知るために、 $1 \times 10 \sim 16\text{m}$ 規模のNo.1~2からなるトレンチを設定した。その結果、両トレンチからは遺構は検出できなかったものの、遺物は石器15点が出土した。その内訳は、No.1トレンチより石錐1点・剝片9点、No.2トレンチから剝片5点である。

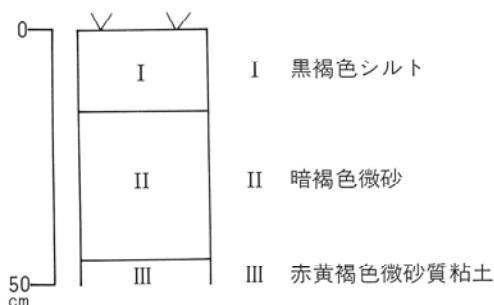
遺跡の範囲は、沢に張り出した傾斜の緩い東西20m×南北30mと推定されるが、上記のとおり遺跡の中央部は既に破壊を受け詳細は不明である。時期は出土遺物から縄文時代が主体と考えられる。



第19図 山楯6遺跡概要図



遺跡近景（東から）



土層柱状図



TT 1 土層断面



TT 2 土層断面



出土遺物

図版20 山楯 6 遺跡

(5) 蕨台遺跡 (わらびだい)
(平成2年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡八幡町大字下青沢字蕨台1-38外

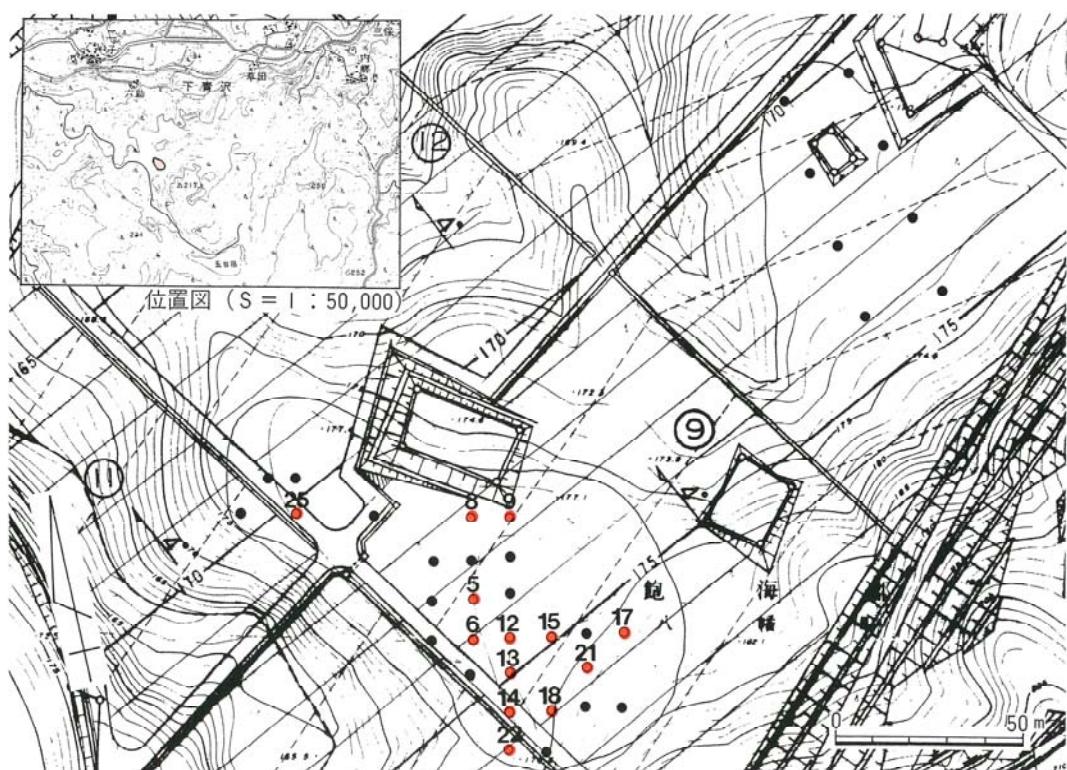
調 査 員 渋谷孝雄 真壁 建

調 査 期 日 B調査 平成2年5月23・24日

調査の概要 本遺跡は六助集落より南へ600m、標高177mの丘陵上に位置する。地目の大半は杉林で、部分的に雜木林が残る。大正年間には小学校の運動場として使用され、その後の造林により杉林となった。

今回の調査は平成2年初夏に実施したA調査の成果を踏まえ、1m×1m規模の試掘坑37基を設定した。その結果、TP15より土壌1基、TP25より溝1条を検出した。出土遺物はTP5・6・8・9・12・13・14・15・17・18・21・22・27から縄文土器片が計93点、削器1点・磨石片3・剝片13、そして近現代のものと考えられる石盤片1点である。

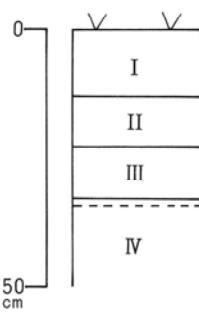
以上により、遺跡範囲は遺物の出土状況からTP1～TP23を中心とする東西50m×南北130mと推定される。TP1～TP3付近は削平を受けており包含層ではなく、東に行くにしたがってそれを確認できる。現地表面から20～30cm下のII～III層に遺物が集中して見られた。時期は出土遺物から、縄文時代後期初頭が主体と考えられる。



第20図 蕨台遺跡概要図



遺跡近景（北から）



I 黒褐色粘土質シルト
II 黒色粘土質シルト
III 褐色シルト
IV 黄褐色礫混り
シルト質粘土
II層III層包含層

TP 9 土層柱状図



TP 6 土層断面



TP 15 遺構検出状況



出土遺物

図版21 嵩台遺跡

(6) 菅谷地遺跡（平成3年度登録）

所 在 地 山形県飽海郡八幡町上青沢字菅谷地1-27

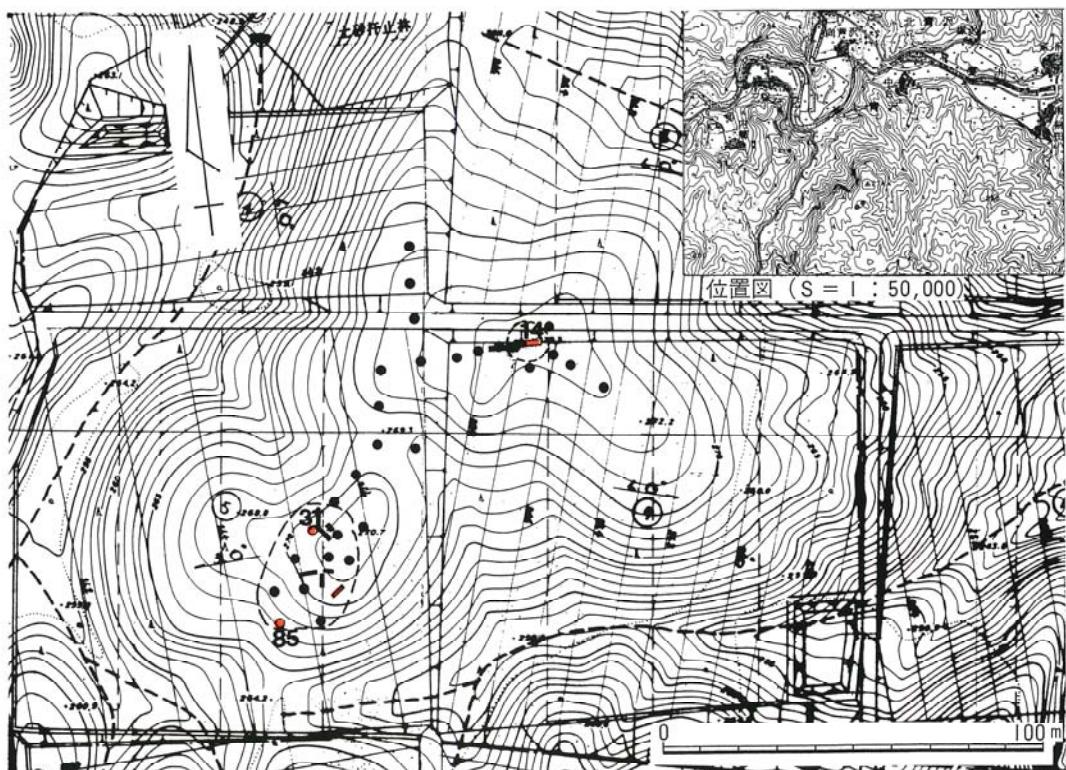
調 査 員 渋谷孝雄（5月、11月） 真壁 建（5月） 高橋 直（11月）

調 査 期 日 B調査 平成3年5月21・22日 11月18~22日

調査の概要 遺跡は二階集落より北東へ1.5kmほどいった標高270~276mの山頂付近にあり、地目の大半は山林である。今回の調査は昨年5月の調査に基づき、まず5月に試掘掘り（1m×1mを10mおき）を実施し、さらに遺物が出土した地点を中心に、再度11月に9本のトレンチ（幅1m、長さ2~7mのもの）を設定し地山まで掘り下げた。

その結果、遺物はTP14、31から剝片が各1点ずつ出土した。またTT9からはチップが検出されたため、TT9近くでさらに1m×1mの試掘坑を設定し、坪掘りを行ったところ、TP85でもチップが出土した。TP14では溝状遺溝が見つかった。遺物はいずれもII層（褐色シルト質粘土）から検出された。

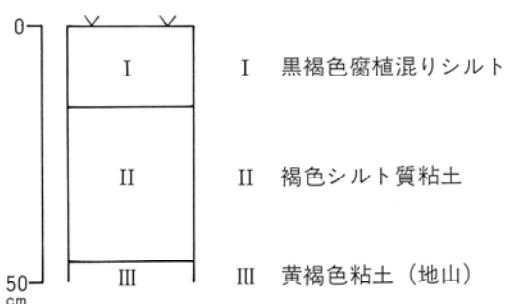
以上より、遺物の出土数は少ないものの、遺跡は縄文時代の包蔵地と考えられる。遺跡の範囲は山頂付近の880平方mほどと推定される。



第21図 菅谷地遺跡概要図



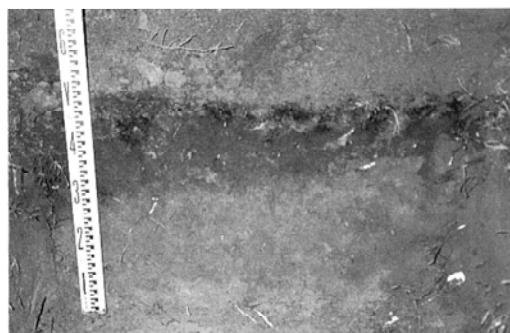
遺跡近景（西から）



TT 9 土層柱状図



TT 9



TT 9 土層断面



出土遺物

(7) 熊沢遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡八幡町上青沢字熊沢96

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成3年11月18~22日

調査の概要 遺跡は二階集落より東へ400mほど上った、標高260~264mの痩せ屋根の頂部にあり、幅が20m前後と狭い。地目の大半は山林である。今回の調査は、昨年度5月に実施した表面踏査で調査が必要と認められた5地点のうち、春の調査で未調査になっていた第5地点についての追加の試掘調査を行ったもので、およそ10mおきに1m×1mの試掘坑を設定し、合計で39箇所を地山まで掘り下げた。

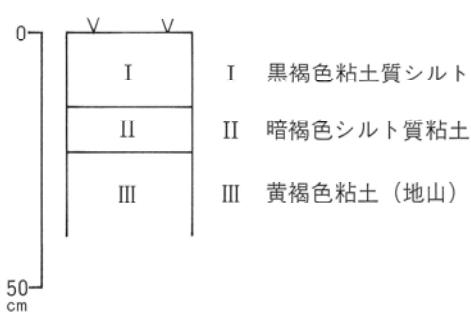
その結果、計16箇所の試掘坑から遺物が検出された。出土遺物は、縄文土器、スクレーパー、剝片等で、特にTP70、71周辺の遺跡中央部からの出土が多い。包含層は、10~18cmの厚みを持つI層（黒褐色粘土質シルト）の下位にあるII層（暗褐色シルト質粘土）である。また竪穴住居跡（TP70）や土壙（TP53）も見つかっており、遺跡は縄文時代中期の集落跡と推定される。遺跡範囲は東西20m、南北85mに及ぶと考えられる。なお隣接する第4地点からは、遺溝遺物とも検出されなかった。



第22図 熊沢遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TP 71土層柱状図



TP 70遺構検出状況



出土遺物（1）



出土遺物（2）

図版23 熊沢遺跡

(8) 姥ヶ沢1・2遺跡（平成3年度登録）

所 在 地 山形県飽海郡八幡町上青沢字姥ヶ沢

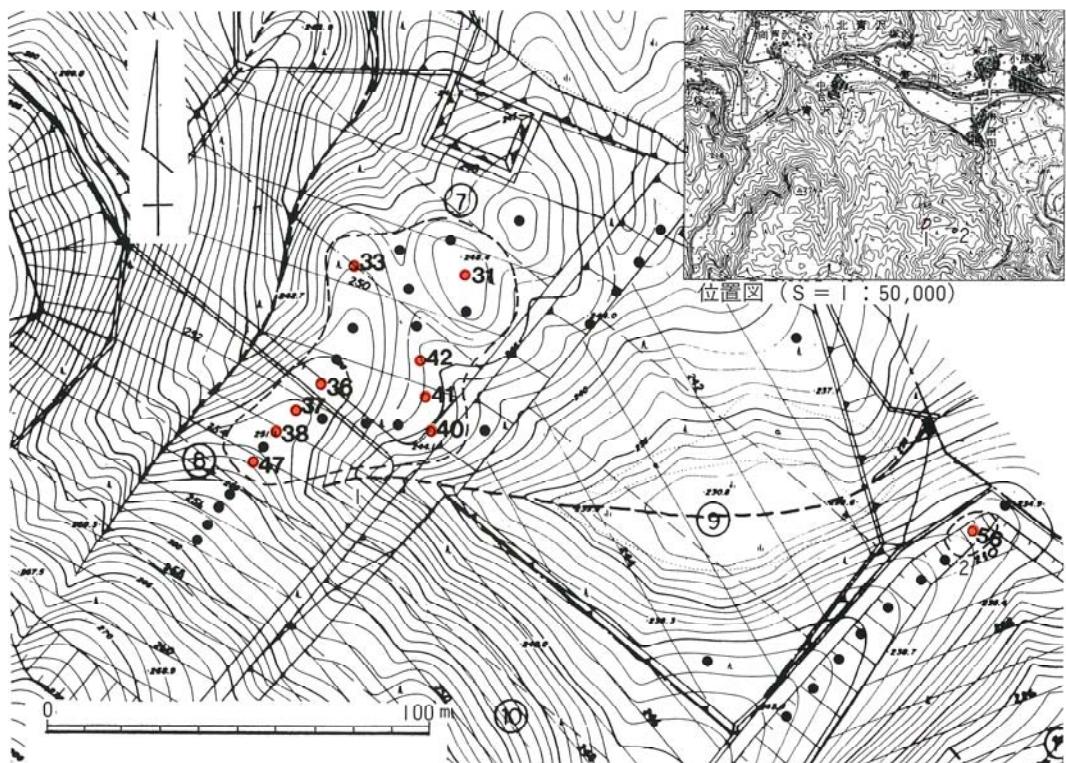
調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年11月29日～12月6日

調査の概要 遺跡は南の前田集落より南西へ750mほどの、標高244～252mの山嶺にあり、地目の大半は山林である。今回の調査は、昨年度5月に実施した表面踏査で試掘調査が必要と認められた3地点について行った。1m四方の試掘坑をおよそ10mおきに設定し、合計で86箇所を地山まで掘り下げた。

調査の結果、TP 31、36、42、56など9カ所から遺物が検出された。遺物の出土した場所は、沢を挟んで西と東に分断されることから西側を姥ヶ沢1遺跡、東側を姥ヶ沢2遺跡と名付けた。TP 31、36、42など計9箇所から縄文土器の底部および石笠などの石器が出土した。縄文土器の中には纖維土器もあり縄文時代前期ないしは早期の所産と考えられる。遺物を含む層はII層（褐色シルト質粘土）である。遺構は見つかっていない。

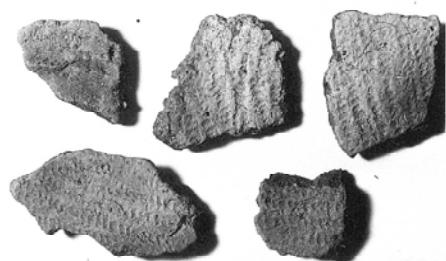
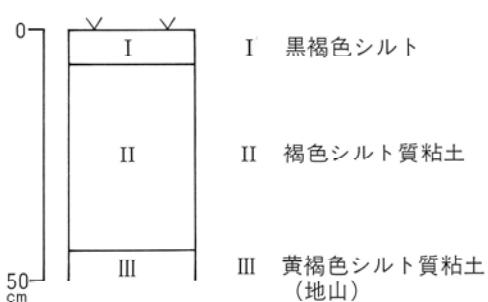
遺跡範囲は、東西南北の順にそれぞれ、姥ヶ沢1が60m×60m、姥ヶ沢2が18m×10mと推定される。



第23図 姥ヶ沢1・2遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



図版24 姥ヶ沢1・2遺跡

(9) 大峯1遺跡（平成3年度登録）
おおみね

所 在 地 山形県飽海郡八幡町泥沢字大峯

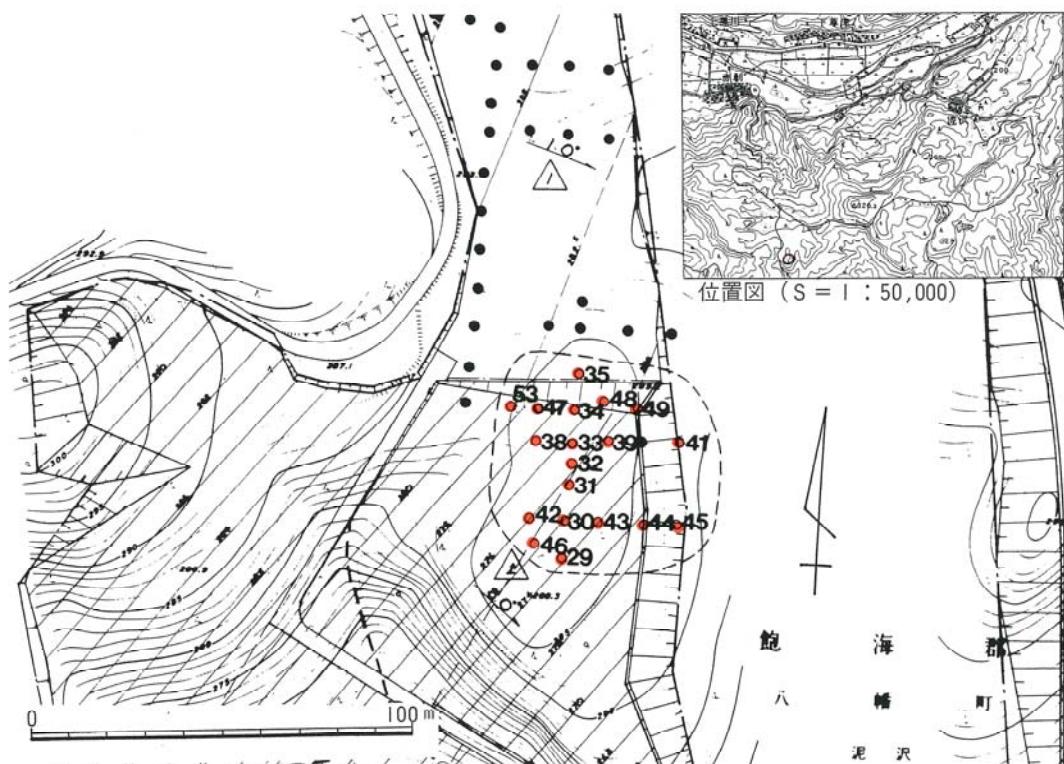
調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年6月11~13日

調査の概要 遺跡は泥沢集落より南西へ1.5kmほどの、標高288mの山地にあり、地目は杉や雑木などの山林である。今回は、昨年5月に実施した表面踏査で調査が必要と認められた1、4の各地点について試掘調査を行なった。およそ10mおきに1m×1mの試掘坑を設定し、合計で85箇所を地山まで掘り下げた。

その結果、第1地点の50箇所の試掘坑のうち、TP31、32、38、44など南半分の19箇所から遺溝および遺物が検出された。遺物の包含層は地表下15~60cmにあるIII層（黒褐色粘土質シルト）下部からIV層（褐色シルト質粘土）にかけてである。出土遺物は、縄文土器および石器で、整理箱に約1箱分が出土した。また遺溝として竪穴住居跡、柱穴等も見つかった。

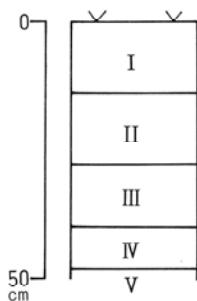
以上より、遺跡は縄文時代前期末から中期にかけての集落跡と思われる。なお事業に係る遺跡の範囲は東西60m×南北60mと推定される。



第24図 大峯1遺跡概要図



遺跡近景（南から）



I 黒褐色シルト
II 暗褐色粘土質シルト
III 黒褐色粘土質シルト
IV 褐色シルト質粘土
V 黄褐色粘土（地山）

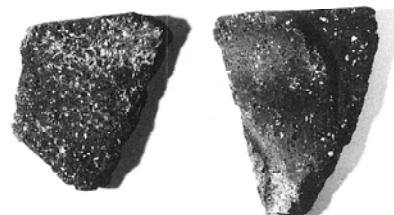
TP 43土層柱状図



土層断面



遺物出土状況



出土遺物

図版25 大峯Ⅰ 遺跡

(10) 大峯2・3遺跡（平成3年度登録）

所 在 地 山形県飽海郡八幡町泥沢字大峯

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年11月25～29日

調査の概要 遺跡は南の前田集落より南西へ750mほどの、標高244～252mの山嶺にあり、地目の大半は山林である。

今回の調査は、昨年5月に実施した表面踏査で調査が必要と認められた2、3、5、6の各地点についての試掘調査である。およそ10mおきに1m×1mの試掘坑を設定し、合計で55箇所を地山まで掘り下げた。

その結果、第3、5地点からは遺物の出土はなかったが、第2地点のTP 114、第6地点のTP 129、131の各点から遺物が検出された。それぞれ大峯2遺跡、大峯3遺跡と名付けた。遺物包含層は大峯2ではIII層の多量の礫を含む褐色シルト質粘土の下部、大峯3ではII層の褐色粘土質シルトである。遺物は各遺跡より縄文時代のチップおよび剥片が出土した。また、TP 130から土壙と思われる遺構が見つかったが未精査である。

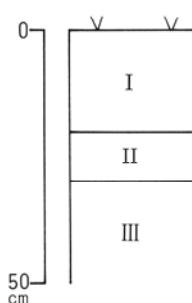
なお事業に係る遺跡の面積は大峯2が64平方m、大峯3が300平方mと推定される。



第25図 大峯2・3 遺跡概要図



遺跡近景（西から）



I 暗褐色シルト
II 褐色粘土質シルト
III 黄褐色粘土（地山）

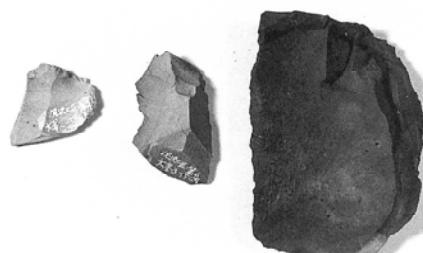
TP 131 土層柱状図



TP 129 土層断面



TP 131 土層断面



出土遺物

図版26 大峯2・3遺跡

(11) 南原遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県東置賜郡高畠町糠野目字南原

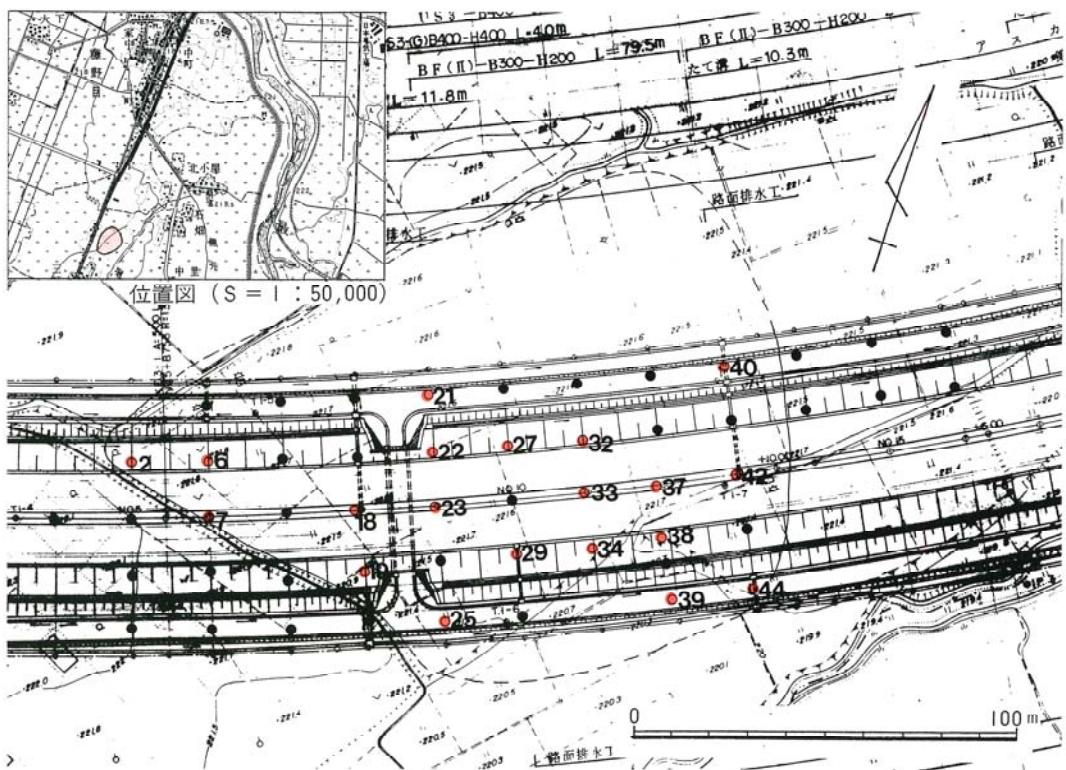
調 査 員 佐藤庄一 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 A調査 平成3年6月7日 B調査 平成3年7月3~5日

調査の概要 遺跡は奥羽本線糠野目駅の南西約2kmの国道13号線沿いに位置する。付近は水田、畑、農道からなる河岸段丘（標高220m）が広がっている。今回の調査は、国道13号線米沢南陽道路建設にかかるものである。

調査ではまず工事中に見つかった遺構、遺物を現地で確認し併せて周辺の表面踏査を行い土師器、須恵器などを表採した。遺物包含層が深く遺跡範囲の正確な把握は困難と考えられたため、試掘調査を実施した。試掘坑（1m×1m）は10mから20mおきに設定し、地山まで掘り下げた。

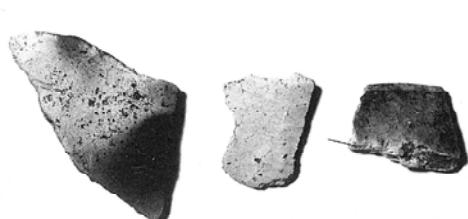
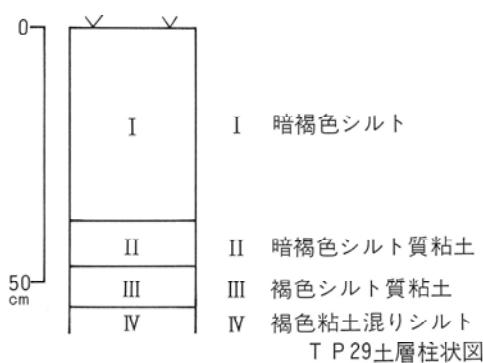
その結果、計53箇所のうち19箇所から遺物が出土した。TP2、6等で土師器が、TP44では須恵器が出土した。またTP21などから竪穴式住居の柱穴と考えられる遺構も検出された。地山までの深さは地表面から40cmから60cmを測るものが多い。遺跡は古墳時代の集落跡と判断され、その範囲は東西180m南北130mに及ぶものと推定される。



第26図 南原遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(12) 堂ノ下遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県東置賜郡高畠町糠野目字堂ノ下

調 査 員 佐藤庄一 渋谷孝雄 高橋 直

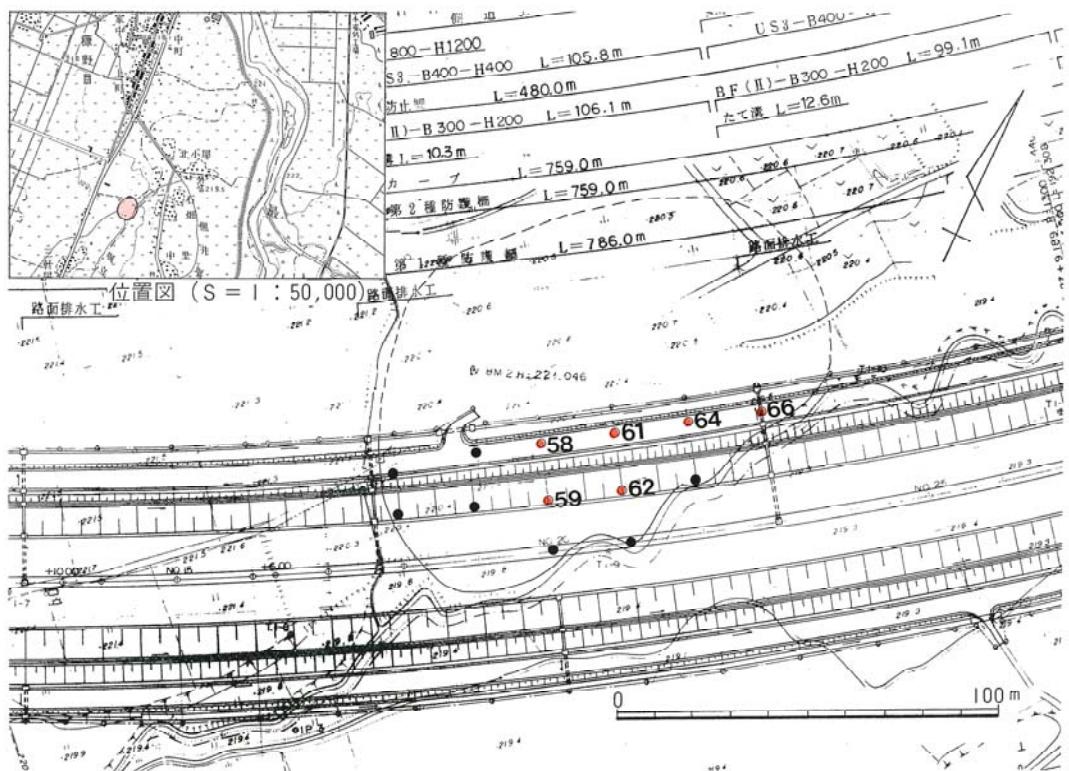
調査期日 A調査 平成3年6月7日 B調査 平成3年7月3~5日

調査の概要 遺跡は奥羽本線糠野目駅の南西約2kmの国道13号線沿いに位置し、付近には水田、畑、農道からなる河岸段丘（標高220m）が広がっている。南原遺跡の100mほど北にある。遺物出土状況や範囲等を考慮し、南原遺跡とは別の遺跡として独立させた。

今回の調査では、まず表面踏査を行い遺物を表採した。さらにより正確な遺跡範囲を把握するために試掘調査を実施した。10~20mおきに13箇の試掘坑（1m×1m）を設定し地山まで掘り下げた。地山は地表面から30cmから40cmを測るものが多い。

その結果、計13箇所のうち6箇所から遺物が見つかり、TP58、66等で土師器が、TP61、64等では須恵器が出土した。須恵器には「中村」の墨書銘のあるヘラ切りの壺がある。またTP59、64では竪穴式住居の柱穴と考えられる遺構も見つかった。本遺跡は奈良～平安時代にかけての集落跡と判断される。

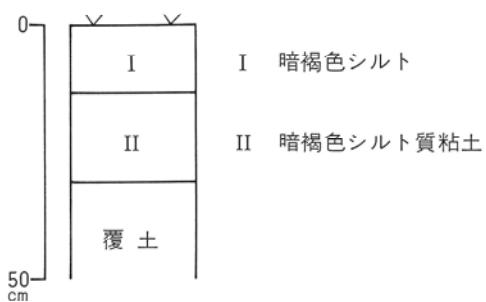
なお遺跡の範囲は東西130m、南北90mに広がるものと推定される。



第27図 堂ノ下遺跡概要図



遺跡近景



TP 58 土層断面



TP 61 遺物出土状況



出土遺物

(13) 飯塚館跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県東置賜郡高畠町糠野目字飯塚

調 査 員 佐藤庄一 渋谷孝雄 高橋 直

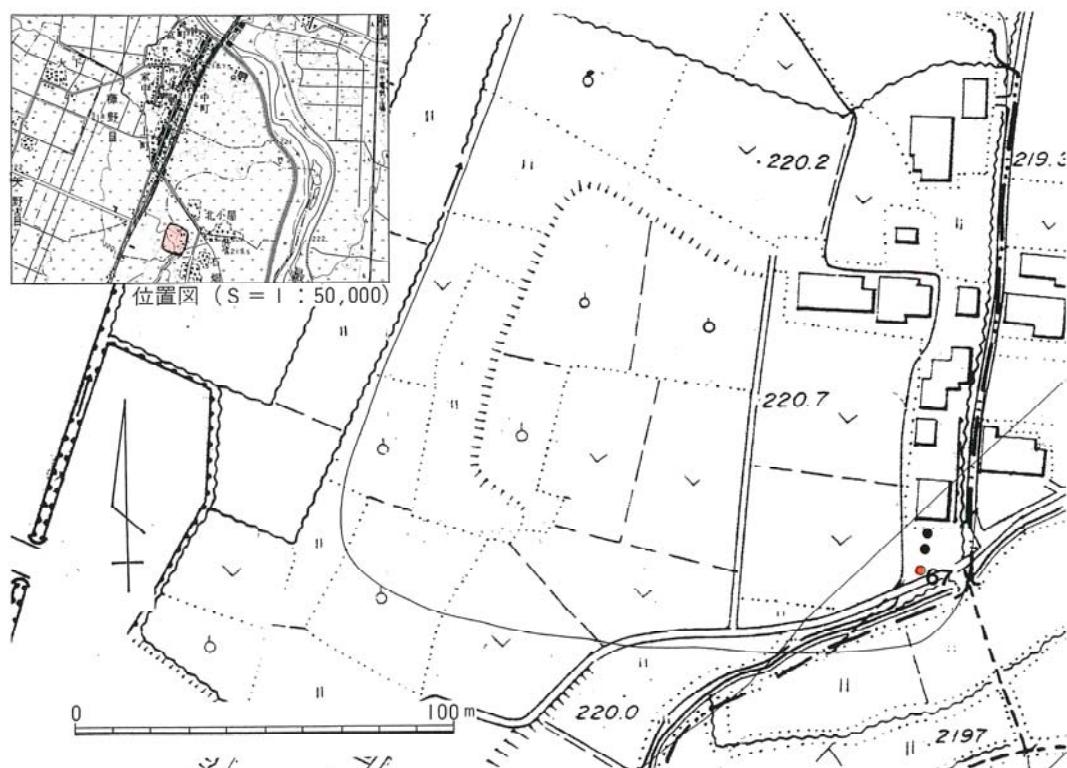
調査期日 A調査 平成3年6月7日 B調査 平成3年7月3~5日

調査の概要 遺跡は平成2年度に高畠町教育委員会が行った中世城館址調査中に新たに発見されたものである。南原、堂ノ下両遺跡と同じく奥羽本線糠野目駅の南西約2kmの国道13号線沿いに位置し、付近には水田、畑、宅地からなる河岸段丘（標高220m）が広がっている。今回の調査は、建設省の国道13号線米沢南陽道路建設にかかるものである。

調査では、高畠町教育委員会が作成した縄張図をもとに表面踏査を行い、西側部分の堀の痕跡や虎口を確認した。さらに1m×1mの試掘坑を工事予定地内に3箇所設定し、地山まで掘り下げた。

その結果、遺物の出土はなかったものの、TP67、68では地山面の検出ができず、この地点に堀跡が存在するものと考えられる。遺跡は中世の城館跡と推定されるが、文献等の資料はなく、城主等不明な点が多い。

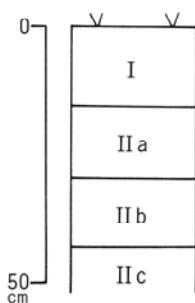
なお遺跡の範囲は東西150m南北180mと推定される。



第28図 飯塚館跡概要図

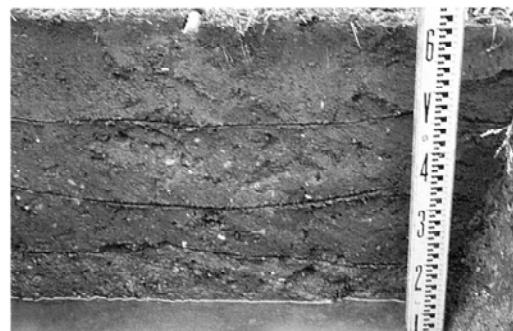


遺跡近景（南西から）



I 暗褐色シルト
IIa 暗褐色礫混りシルト
IIb 暗褐色礫混り
シルト質粘土
IIc 暗褐色砂礫混り粘土

TP 67 土層柱状図



TP 67 土層断面



TP 68 土層断面



TP 69 土層断面

図版29 飯塙館跡

(15) 古屋敷遺跡 (平成2年度登録)

所 在 地 山形県小国町大字綱木箱ノ口字古屋敷

調 査 員 斎藤主税 須賀井新人

調査期日 B調査 平成3年12月16・17日

調査の概要 遺跡はJR伊佐領駅の南東約200m、明沢川と国道113号線との間、明沢川左岸の段丘上に立地する。標高は約210mを測り、地目は宅地・畑地・雑木林となっている。

平成2年に実施した小国地区基礎調査関連の分布調査(A)によって、畑地を中心に多数の石器剝片が採集され、縄文時代の散布地として登録された遺跡である。

当該地域では平成5年度以降に横川ダム建設工事が予定されるため、事前に試掘調査を実施して遺跡内容を把握する必要性が生じた。調査では、先行して着手される県道付替え工事の計画路線で遺跡にかかる区間(幅20m、長さ100m)を対象とした。地山面まで掘り下げて遺構遺物の有無とそれまでの深さや堆積層を観察して記録するため、計画路線内に31箇所の試掘坑を設定した。

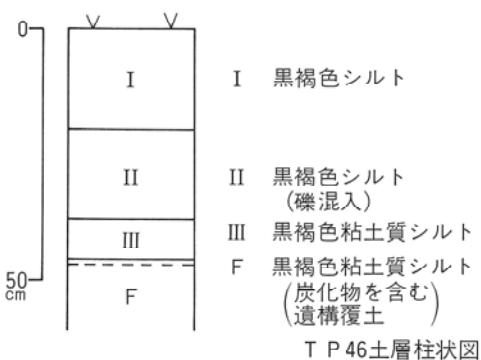
調査の結果、雑木林を中心に7箇所から剝片が出土したが、土器が認められないため時期の断定はできない。畑部分は耕作土直下で地山に至ることから包含層が壊されており、遺跡範囲より除外できるものと考えられる。



第30図 古屋敷遺跡概要図



遺跡遠景（北から）



TP 46 土層断面



TP 53 遺物出土状況



TP 22 出土遺物

図版30 西ノ前遺跡

(14) 西ノ前遺跡 (昭和61度登録)

所 在 地 山形県最上郡舟形町大字舟形字西ノ前

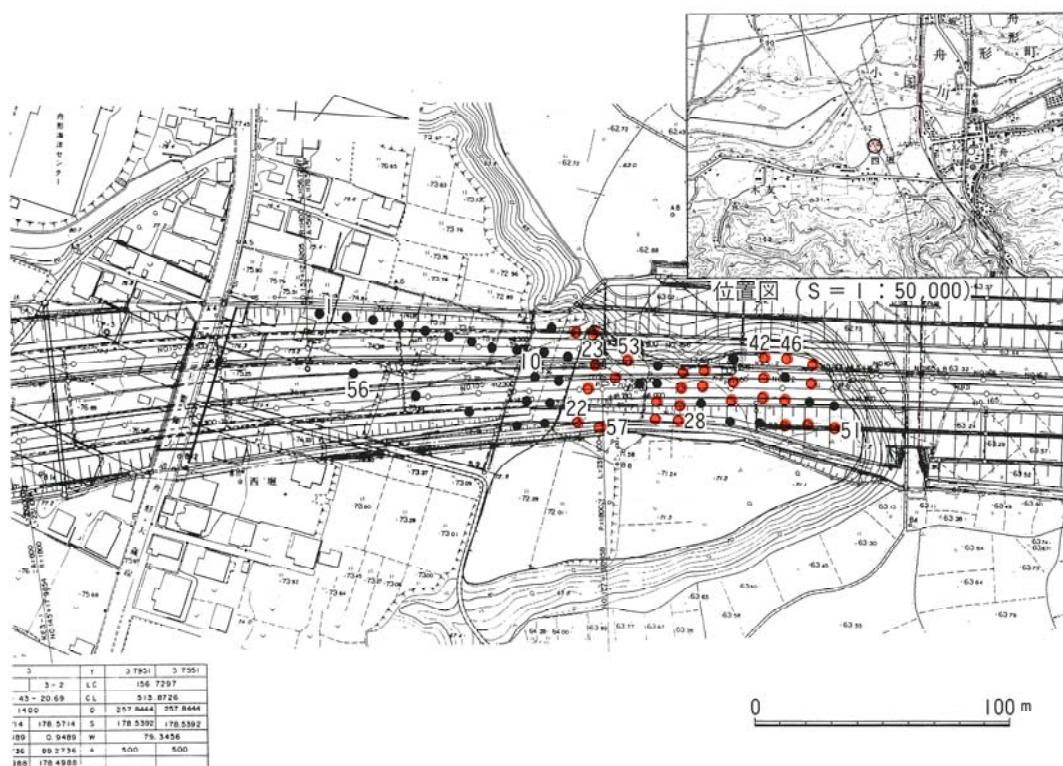
調 査 員 渋谷孝雄 長橋 至 斎藤主税 須賀井新人

調査期日 A調査 平成3年8月6日 B調査 平成3年8月20~23日

調査の概要 遺跡は奥羽本線舟形駅の西方約300m、小国川左岸の段丘上に立地している。段丘は北に向って舌状に張り出し、その先端部分に遺跡が所在する。地目は、水田・畑・荒地で、標高は71mを測る。

今回の調査は国道13号線尾花沢新庄道路建設工事との調整に資する目的から実施されたものである。

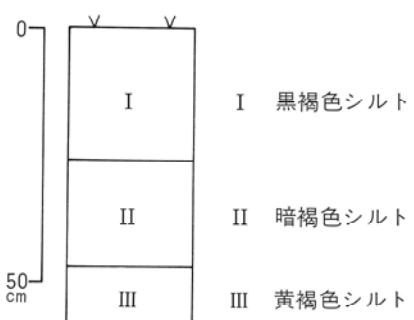
調査は、最初に遺跡内及びその周辺の表面踏査を行ったところ、遺物の散布状況から昭和61年に確認された遺跡範囲よりも南側に拡大することが予想された。このため、次の試掘調査では、計画路線内の広範囲にわたって59箇所の試掘坑を設定して掘り下げた。その結果28箇所の試掘坑から遺構・遺物が検出された。遺構には、柱穴・土壙等があり、遺物には縄文土器・石器がある。特にTP53からは、多量の縄文土器が出土しており、この地区が台地上より約2m程低い位置にあることから、土器捨場の可能性が高い。また、遺跡の南側は、ほとんどが泥炭層で、湿地（沼地）を埋めて水田にしていることが確認された。



第29図 西ノ前遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TP 27土層柱状図



TP 27土層断面



TP 30土層断面



出土遺物

図版31 古屋敷遺跡

(16) 綱木沢向遺跡（遺跡番号1424）

所 在 地 山形県西置賜郡小国町綱木箱ノ口字綱木沢向

調 査 員 斎藤主税 須賀井新人

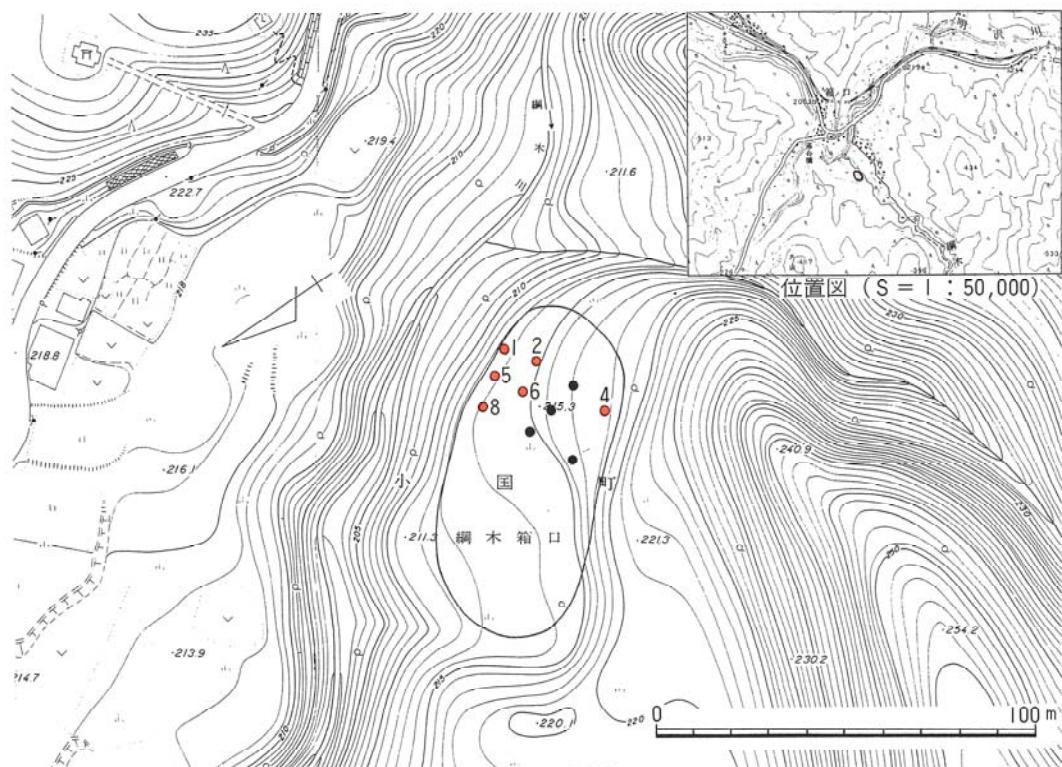
調 査 期 日 B調査 平成3年12月17・18日

調査の概要 遺跡は米坂線伊佐領駅の南東約1.8km、綱木沢川左岸段丘上に立地している箱ノ口集落の神社と綱木沢川を挟んで対岸に位置する。標高は214mを測る。

遺跡は、現在では荒地であるが元は畑地で、耕作の際には縄文土器・石器がよく出土したということであった。

今回の分布調査は、横川ダムの工事用道路が本遺跡を縦断することとなつたため、事業との調整に資する目的で実施されたものである。

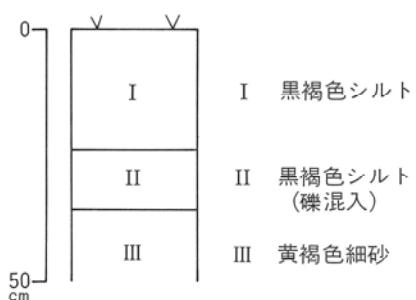
調査は、遺跡に係る事業区域内に10箇所の試掘坑（1m×1m）を設定し地山面まで掘り下げるところ、6箇所から遺物が出土した。遺物は、縄文土器・剝片・磨石が出土しており、特に剝片は多数出土している。遺物包含層は表土下約30cmから60cmの黒褐色シルト層で、その下の地山（黄褐色）直上面からも遺物が出土している。遺物の分布は、調査区東側の綱木沢寄りに多い傾向にある。遺跡の時期は、今回出土した縄文土器より、縄文時代中期末から後期と推定できる。



第31図 綱木沢向遺跡概要図



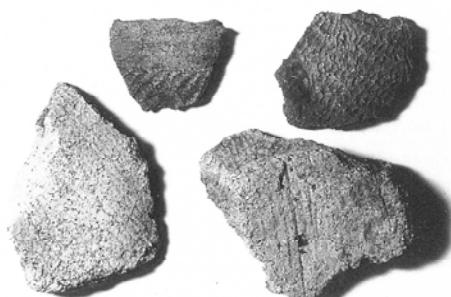
遺跡近景（東から）



TPI 土層柱状図



TPI 土層断面



TPI 出土遺物



TPI 出土遺物

図版32 綱木沢向遺跡

(17) のしんでん
野新田遺跡 (遺跡番号1889)

所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字中野新田字野新田

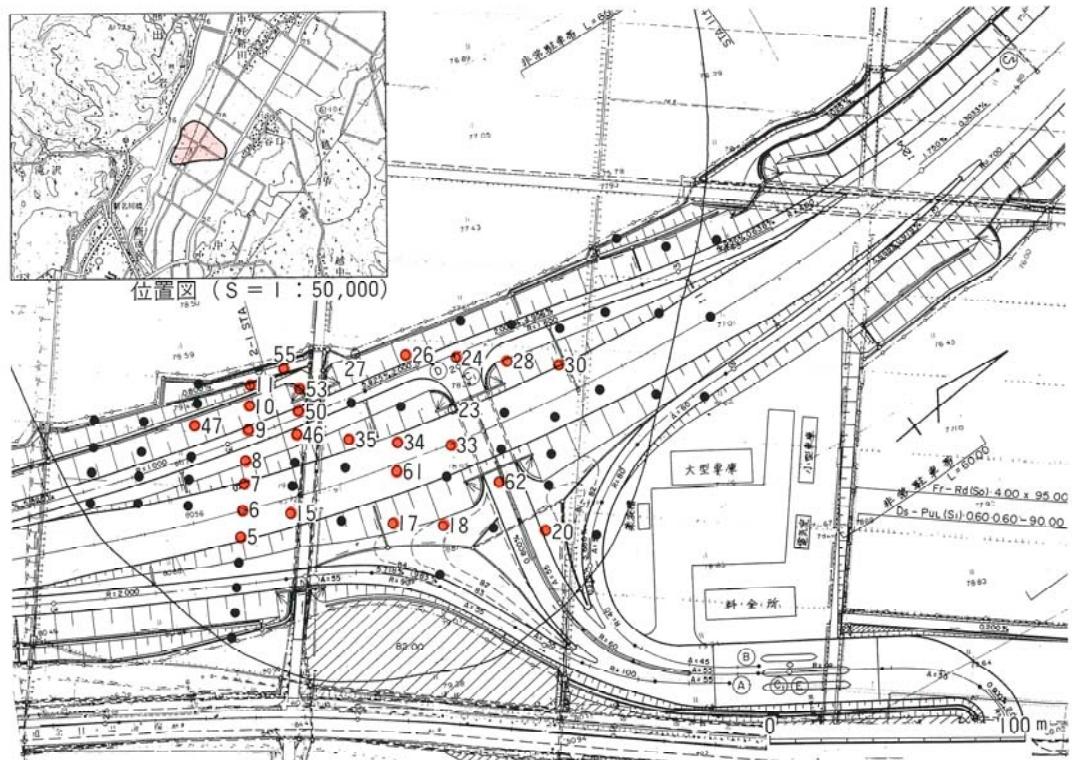
調 査 員 黒坂雅人 伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 平成3年11月11~14日

調査の概要 遺跡は中野新田集落の南西約400mに位置し、赤川右岸の河岸段丘上に立地する。標高80mをはかり、地目は水田、畠地である。昭和46・47年には場整備に伴う発掘調査が実施され、複式炉等が検出された。その後昭和63年度に東北横断自動車道酒田線に関連する遺跡詳細分布調査Aが実施され、その結果から遺跡の範囲は東西350m、南北300mに及ぶものとして修正された。

今回の試掘調査は東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）建設により、本遺跡の東半部分が路線に入ることとなつたため、事業計画との調整を図る目的で実施した。

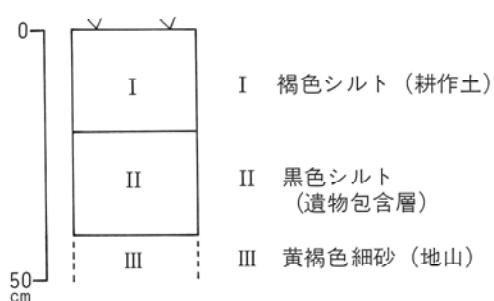
調査は計画路線内に1m四方の試掘坑を75箇所設定した。当初ほ場整備による破壊が懸念されたが、調査の結果南半部分を中心に遺物がまとまって出土し、ピット等の遺構も3箇所で検出された。また北半についても安定した遺物包含層の存在が確認された。遺物は、縄文土器、石器等が整理箱に約半分程出土した。いずれも縄文時代中期(大木8b～9式期)の所産と考えられる。



第32図 野新田遺跡概要図



遺跡近景（東から）



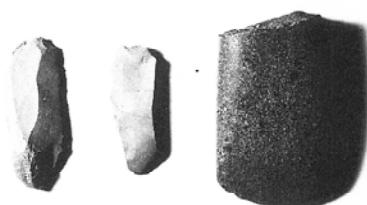
土層柱状図



TP 6 土層断面（東から）



出土土器



出土石器

図版33 野新田遺跡

なかだい
(18) 仲台遺跡 (昭和63年度登録)

所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字熊出字仲台

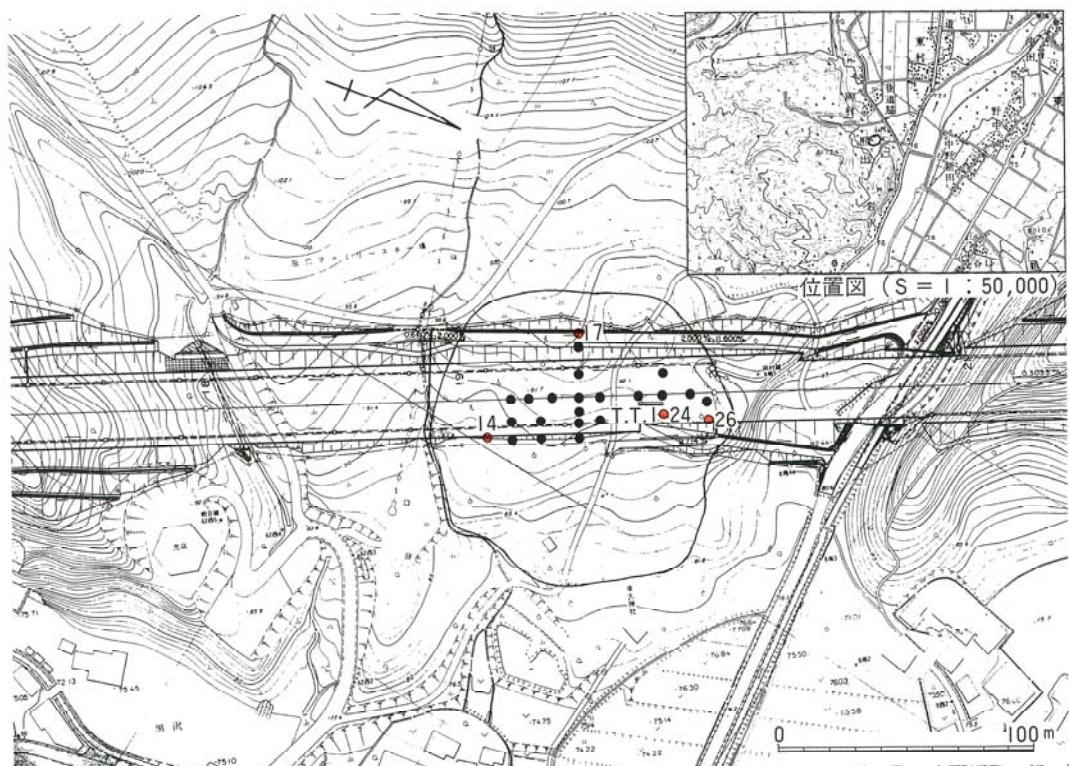
調 査 員 黒坂雅人 伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 平成3年11月14~15日

調査の概要 遺跡は落合集落の北東約1km、赤川左岸に東面する標高92mの丘陵斜面上に立地する。地目は果樹園、畑地である。昭和63年度に実施された東北横断自動車道酒田線に関連する遺跡詳細分布調査Aにより新規発見されたものである。その際遺物が表採されたのは東側畑地の一部であったが、付近の地形観察等から遺跡の範囲は東西105m、南北120mに及ぶものと推定された。

今回の試掘調査は東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）建設により、本遺跡の西半部分が路線内に入ることとなったため、事業側との調整を図る目的で実施した。

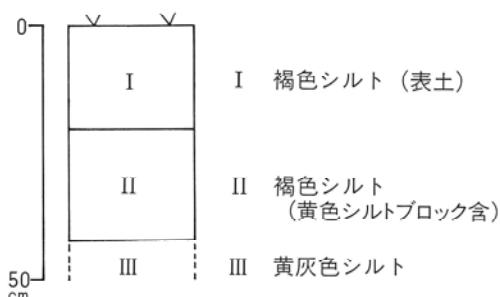
調査は計画路線内に1m四方の試掘坑26箇所と1m×10mの試掘トレンチを設定して掘り下げを実施した。その結果3箇所の試掘坑から縄文土器、石器等の遺物が出土し、トレンチでは移植籠による掘り下げによりまとまった数量の遺物を得た。遺物は表土下20~30cmの範囲から出土するが包含層は明確ではない。出土した土器は磨滅が著しいがいずれも縄文時代後期～晩期前半に所属するものとみられる。



第33図 仲台遺跡概要図



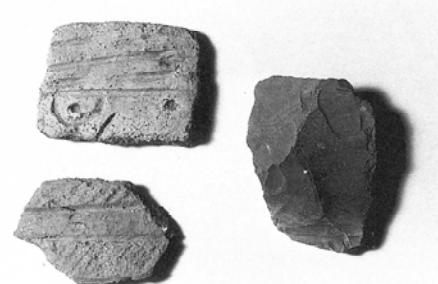
遺跡近景（東から）



TP 5 土層断面（東から）



TT 1 完掘状況（南から）



出土遺物

(19) 栗山遺跡（昭和63年度登録）

所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字熊出字栗山

調 査 員 黒坂雅人 伊藤邦弘

調査期日 B調査 平成3年11月15日・18~21日

調査の概要 遺跡は岡村集落の西に隣接して張り出す赤川右岸に発達した標高112mの河岸段丘上に立地する。地目は果樹園、畠地、荒撫地である。本遺跡は、昭和63年度に実施した東北横断自動車道酒田線に関連する遺跡詳細分布調査Aにより新規発見された。その際遺跡南東側果樹園から後期旧石器時代の所産とみられるエンドスクレーパー、東側畠地から縄文土器片、籠状石器等を表探し、地形観察等の結果から遺跡の範囲は東西700m、南北350mに及ぶものと推測された。

今回の試掘調査は、東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）建設により、本遺跡の東辺部分が路線にかかることとなったため、事業側との調整を図る目的で実施した。

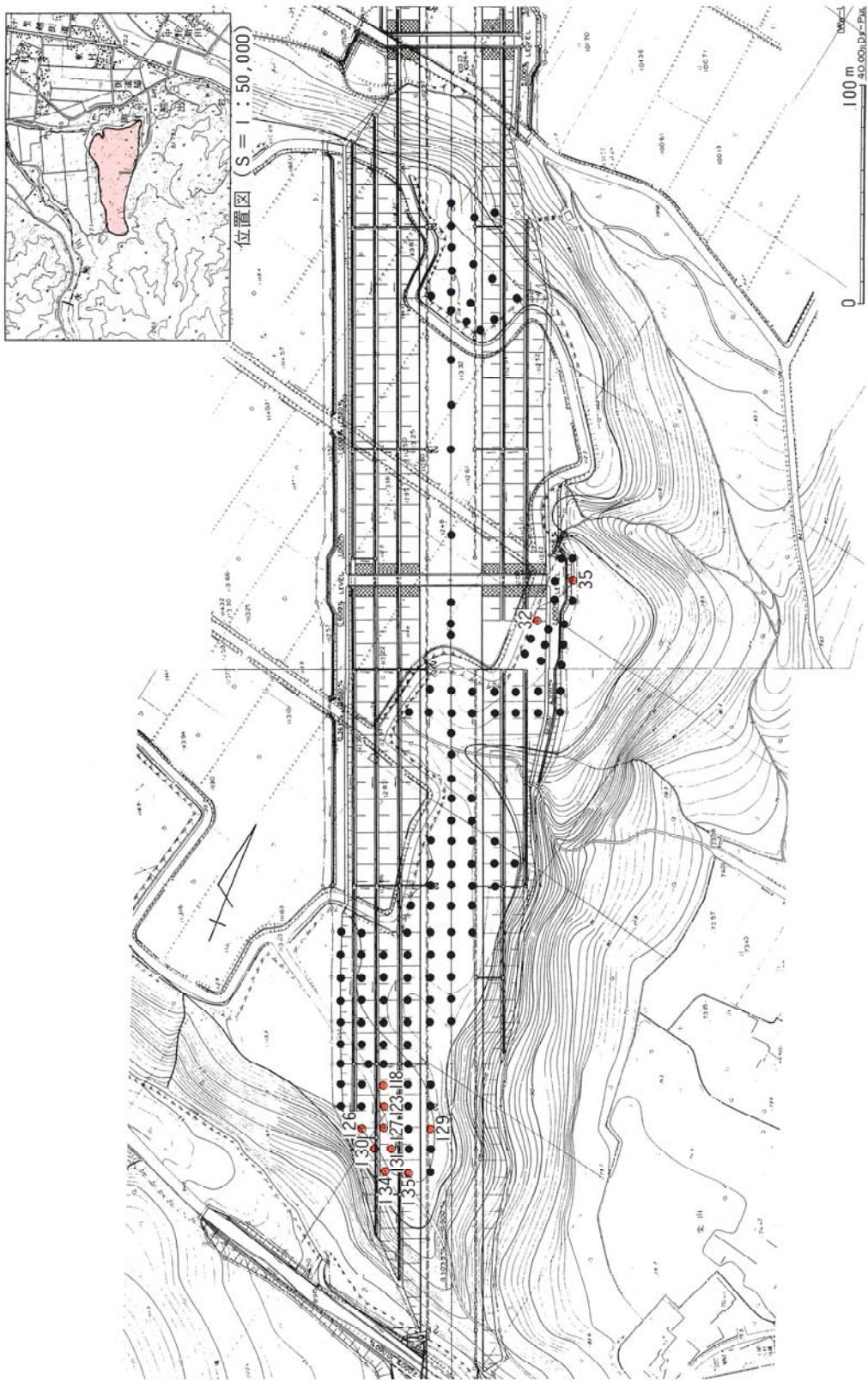
調査は計画路線内に1m四方の試掘坑136箇所を設定し掘り下げを実施した。事業区域西側の畠地整備により削られた部分に関しては7箇所で試掘を実施したが、既に破壊されていることが確認された。遺物は旧地形の残る南東辺の畠地11箇所から縄文土器、剝片等が出土している。いずれも所属時期は明確ではない。遺構は未検出である。



遺跡遠景（北から）

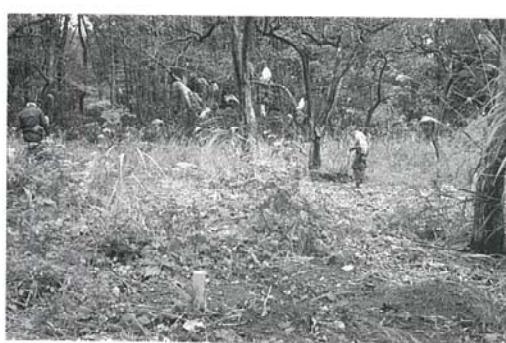
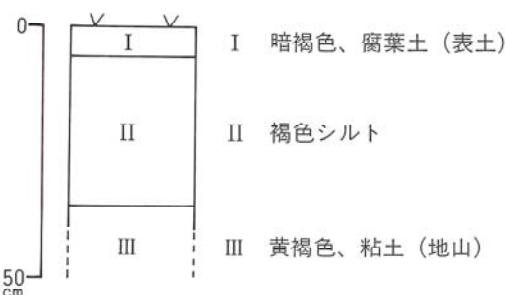
図版35 栗山遺跡(1)

第34図 栗山遺跡概要図

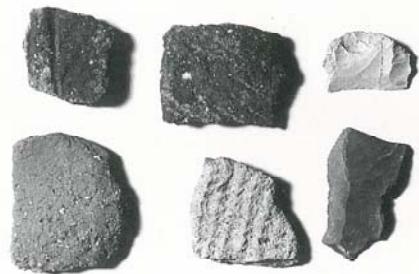




遺跡近景（西から）

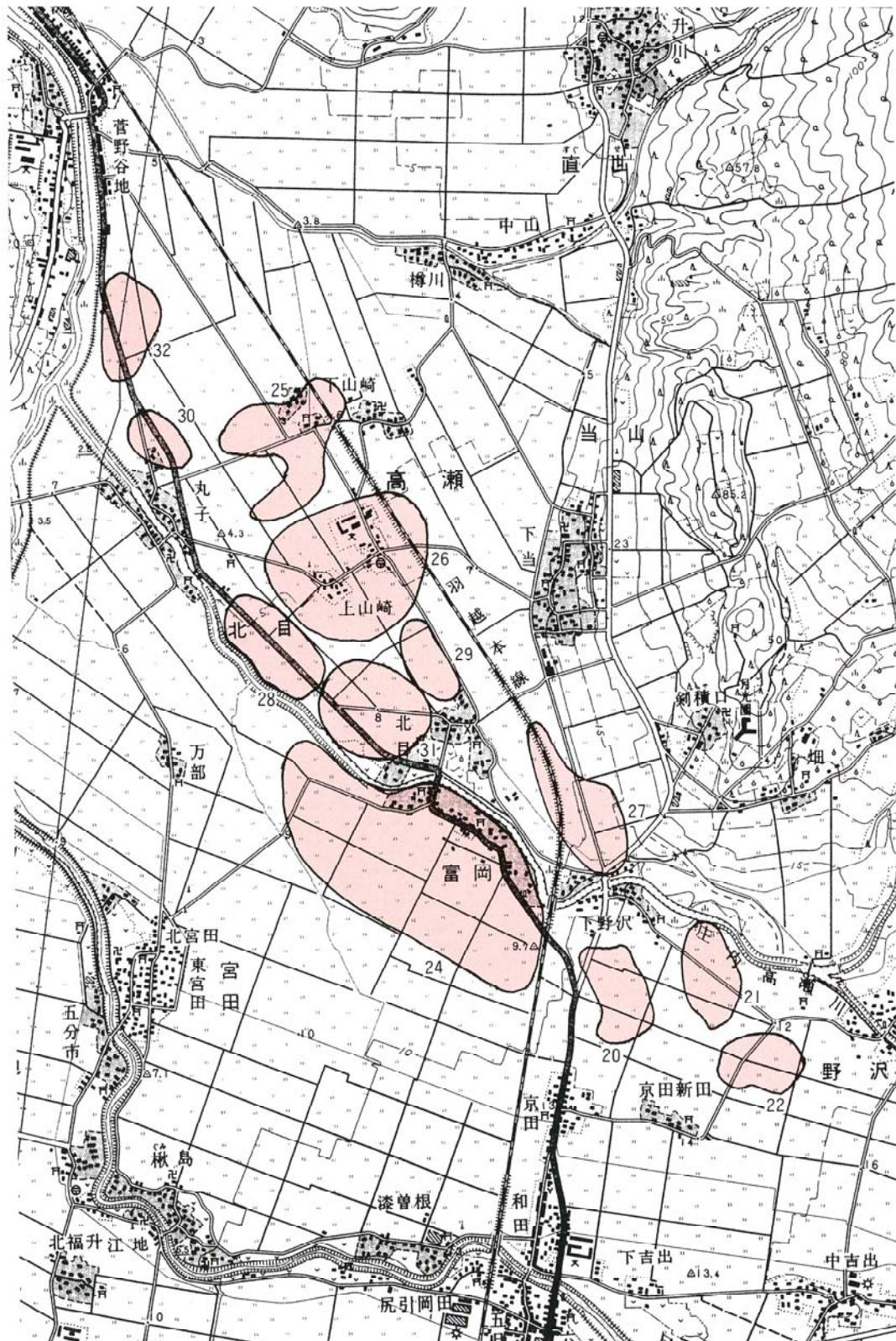


作業状況（北から）



出土遺物

図版36 栗山遺跡(2)



第35図 月光川・高瀬川流域遺跡分布図

(20) 石田遺跡 (遺跡番号2108)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字石田

調 査 員 阿部明彦 伊藤邦弘 高橋 直

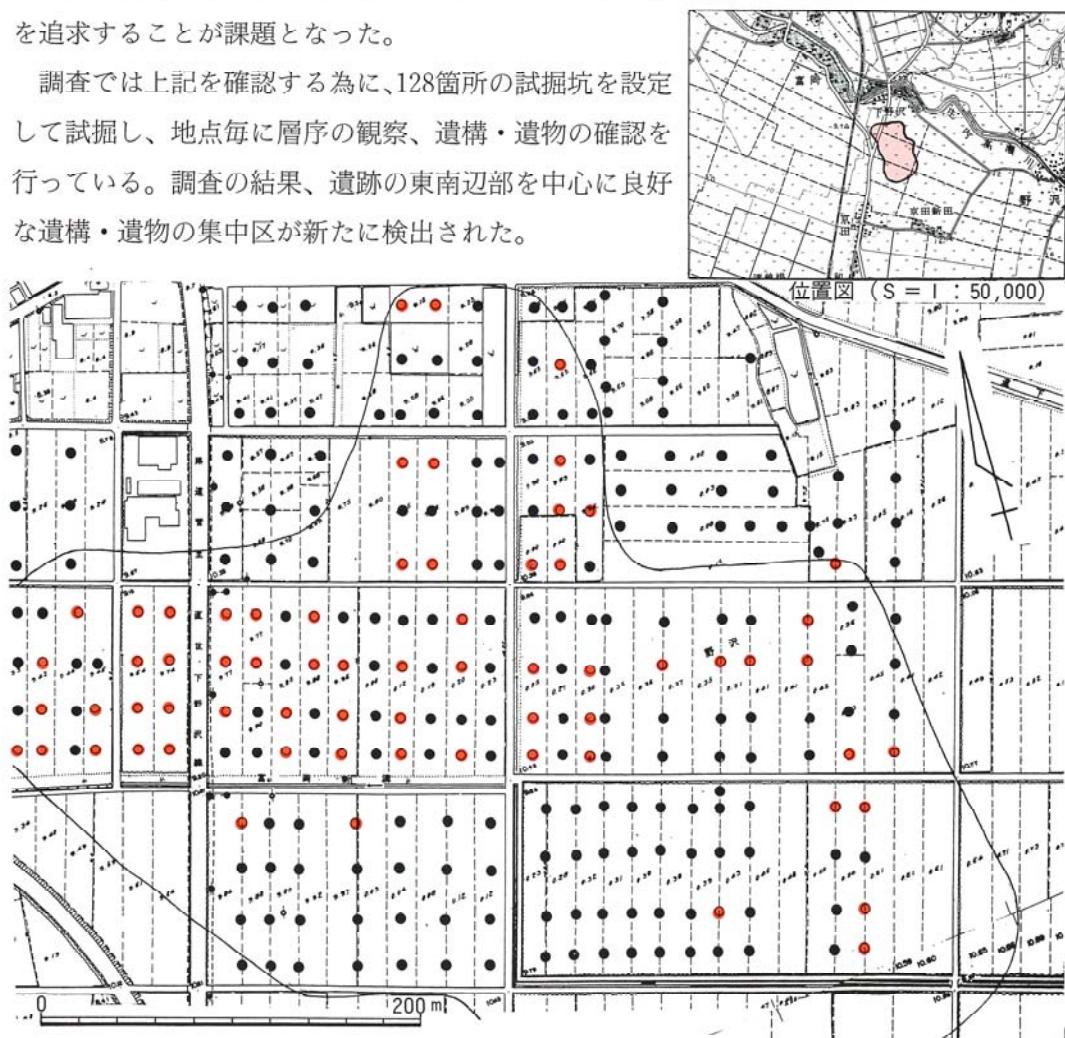
調査期日 B調査 平成3年10月14・15日

調査の概要 昭和63年に本遺跡の北西部を対象として分布調査を実施したが、今回の調査はその南東部分の追加調査である。遺跡は月光川右岸、庄内高瀬川左岸の自然堤防上に位置し、これまでの調査から平安時代、およそ10世紀前後に営まれた集落跡と考えられる。

遺跡の範囲は今回の調査結果も併せれば東西350m、南北400m規模と把握され、幾つかのまとまりからなる規模の大きな遺跡ととらえられた。

今回の遺跡詳細分布調査は、平成4年度に計画される県営ほ場整備（月光川上流地区）との調整に資する目的から実施したもので、従来の周知部分から東部及び南部への広がりを追求することが課題となった。

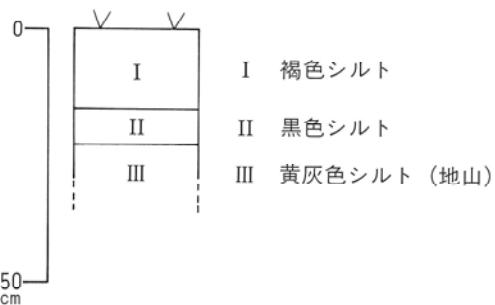
調査では上記を確認する為に、128箇所の試掘坑を設定して試掘し、地点毎に層序の観察、遺構・遺物の確認を行っている。調査の結果、遺跡の東南辺部を中心に良好な遺構・遺物の集中区が新たに検出された。



第36図 石田遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP 56土層柱状図



調査風景（南から）



TP 1 土層断面



出土遺物

図版37 石田遺跡

(21) たくだ
宅田遺跡 (遺跡番号2109)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字宅田 (家の前)

調 査 員 阿部明彦 伊藤邦弘 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年10月15・16日

調査の概要 昭和63年に本遺跡の北半部を対象として分布調査を実施したが、今回の調査はその南部を対象とした補足調査である。遺跡は庄内高瀬川左岸に位置し、地目は一部畠地、および水田である。

本遺跡は昭和57年の河川改修事業に伴って緊急調査された経過があり、時期的に平安時代、9世紀から10世紀前半頃の所産と確認される。遺跡の範囲は今回の調査結果も加味すると東西200m、南北350m規模と把握された。

今回の遺跡詳細分布調査は、平成4年度に計画される県営ほ場整備事業（月光川上流地区）との調整に資する目的から実施したもので、石田遺跡同様、従来の周知部分から主として南側への広がりを確認することが目的となった。

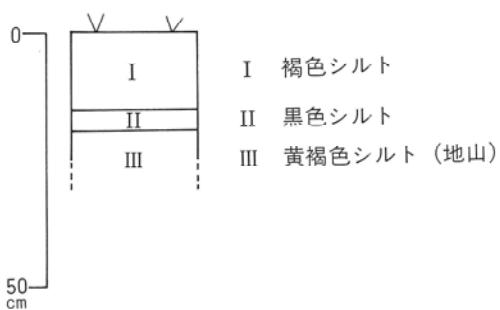
調査では、上記の目的から対象地区について70箇所の試掘坑を設定し、地点毎に層序の観察、遺構・遺物の分布等を確認したが、遺跡範囲の南端と認識した地点数箇所で若干量の遺物出土をみた程度に留まり、地層その他の状態は良くないと判断された。



第37図 宅田遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP 160 土層柱状図



調査風景（南西から）



TP 185 土層断面



出土遺物

(22) 大坪遺跡 (遺跡番号2110)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字大坪

調 査 員 阿部明彦 伊藤邦弘 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年10月16~18日

調査の概要 昭和63年に実施した分布調査から東西・南北ともに約300m規模で広がる規模の大きな集落遺跡と考えられた。その後、広域農道の付設（平成元年度）や遺跡東半域に係る県営ほ場整備事業等に伴って緊急調査（平成2年度）を実施してきた経過がある。これら調査から遺跡は平安時代の集落跡として性格付けることができたが、なお、中心部分には当たらないと理解された。

今回の遺跡詳細分布調査は、平成4年度以降に計画される県営ほ場整備事業（月光川上流地区）との調整に資する目的から実施したもので、石田・宅田遺跡同様に、従来の周知部分からどの様な広がりを持つのかを確認するのが課題となった。

調査では、上記の目的からこれまで調査の成されていない遺跡西側及び南側を主たる対象地区とし、279箇所の試掘坑を設定した。

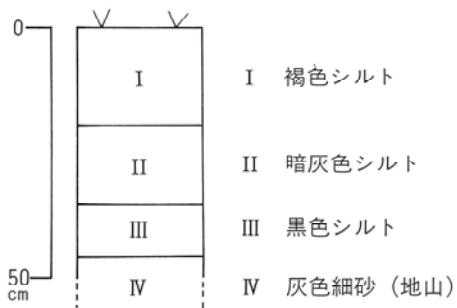
調査の結果、遺跡西辺域で遺物が点々と検出されたが、総じて出土レベルが深く、土層も湿潤・粘質土・泥炭の分布等状況が認められた。南側部分も同様である。



第38図 大坪遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP 367 土層柱状図



TP 257 土層断面



TP 333 土層断面



出土遺物

(23) 北子橋下遺跡 (遺跡番号2129)

所 在 地 山形県遊佐町大字吉出字北子橋下

調 査 員 阿部明彦

調 査 期 日 B調査 平成3年10月17日

調査の概要 昭和63年に本遺跡を対象として分布調査を実施したが、今回の調査はその際に未調査となった部分の補足調査である。遺跡は月光川右岸の上吉出集落北側に位置し、これまでの調査から平安時代から鎌倉時代にかけて営まれた集落跡と考えられる。

遺跡の範囲は東西150m、南北60m程ととらえられ、面積にして約9,000平方mの広がりと把握された。なお遺跡周辺での県営ほ場整備（月光川右岸地区）が大部進行しており、今回の試掘調査もこれら事業との調整に資する目的から行ったものである。

調査は前回の分布調査からはずれた遺跡東南部分の畠地を対象としたもので、3箇所の試掘坑を設定して実施したごく限定的なものである。層序の観察、遺構・遺物の確認を主眼としたが、調査した試掘坑では遺構・遺物は確認されなかった。

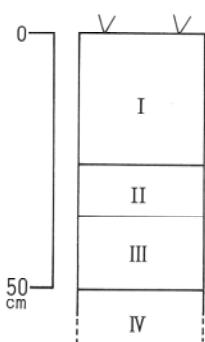
層序はTP1～3ともにほぼ共通で、I層；暗褐色細砂（盛り土）、II層；暗褐色粘土、III層；黄褐色シルト（鉄分多い）、IV層；黄褐色シルトである。なお遺跡周辺の現況は東側での砂利採取や、畠地の開田ほかから以前とは大きく変化していることを付記しておく。



第39図 北子橋下遺跡概要図



遺跡近景（北から）



- I 暗褐色細砂
 - II 暗褐色粘土
 - III 黄褐色シルト
(鉄分多い)
 - IV 黄褐色シルト
(地山)
- TP 2 土層柱状図



TP 1 土層断面

図版40 北子橋下遺跡

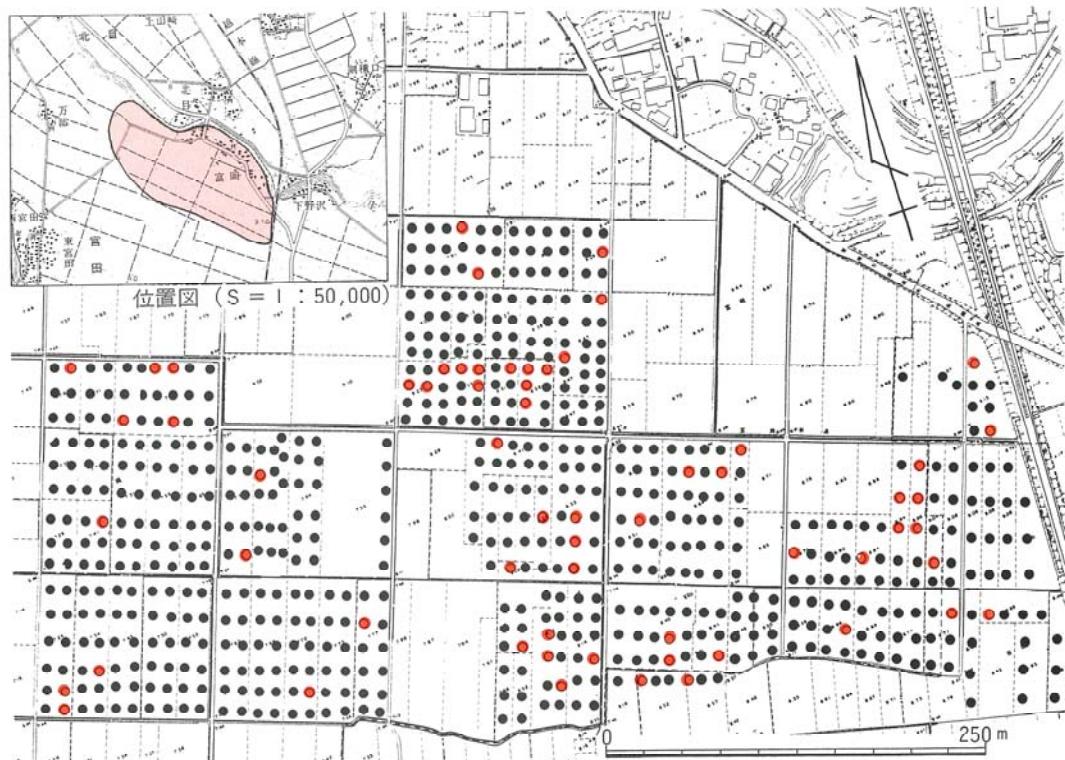
(24) 上高田遺跡 (遺跡番号2080)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上高田

調 査 員 阿部明彦 伊藤邦弘 高橋 直

調 査 期 日 B調査 平成3年10月28~30日

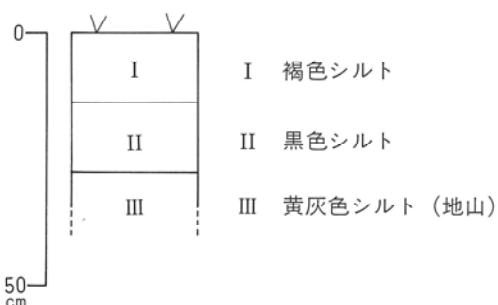
調査の概要 平成元年に実施したほ場整備関連の分布調査から従来知られた道内・木戸下・高田遺跡等を包括する広範な地域で遺物の散布が認められた。規模の大きな集落遺跡の存在があらためて注目されたのである。一方、当該地域に県営ほ場整備や国道の改修計画が予定されるなどの状況から、事前に分布調査を実施して、これら遺跡内容の把握を基にした事前の調整が急務となった。調査は、対象地域が広範で、しかも周知される道内遺跡他の遺跡・地点を多く含む状況から線路西側から順次試掘して、各遺跡毎の範囲あるいは時期他内容を把握して行くこととして進めたのである。途中、試掘調査の同意等問題から割愛した部分もあったが、総数にして667箇所の試掘坑を設定して対象地区の約3分の1の地域を調査し得た。調査の結果、調査地域の南側に行くに従って地盤が下がること、土層の状態もこれに呼応して粘質あるいは泥炭等に変化する様子が認められ、総じて現集落寄りに遺跡が立地すると推測された。しかし、調査は充分と言えず、遺跡範囲を確定するには未調査地区を対象とした追加の調査が今後とも必要である。



第40図 上高田遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



TP 87 土層柱状図



調査風景（南西から）



TP 112 土層断面



出土遺物

図版41 上高田遺跡

(25) 中田浦遺跡 (遺跡番号2136)

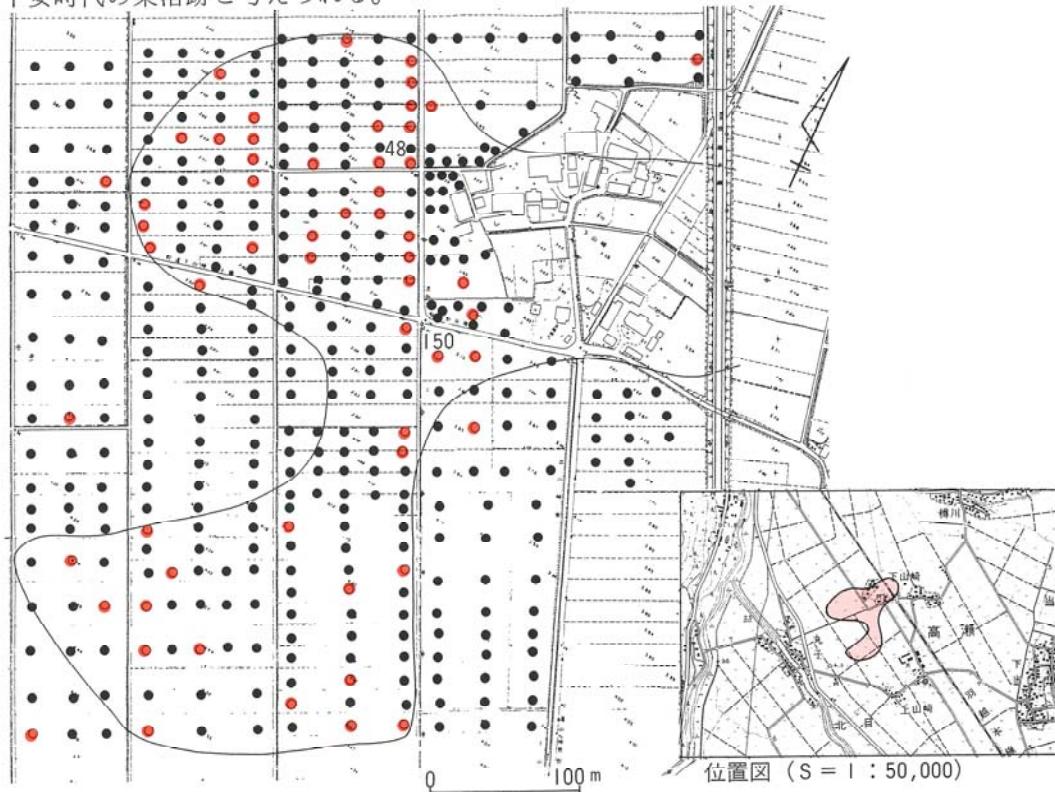
所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字当山字中田浦

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調査期日 B調査 平成3年10月14~30日

調査の概要 遺跡は羽越本線遊佐駅の北西約4kmの下山崎集落周辺の水田中に所在する。標高は4mを図る。従来の遺跡範囲は、集落と線路の間の畠地付近とされていたが、平成2年度に行った表面踏査で遺物の散布が集落の西側及び南側まで広がることがわかった。この遺物散布範囲を中田浦遺跡の広がりと考え、推定遺跡範囲とした。この地区には、平成4年度以降に県営ほ場整備事業（高瀬川地区）が予定されており、今回の分布調査はこの事業との調整に資する目的から実施したものである。

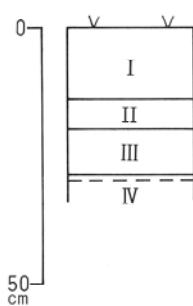
調査は事業区域の推定遺跡範囲内に402箇所の試掘坑（1m×0.5m）を設定し地山面まで掘り下げた。その結果56箇所から遺溝・遺物が検出された。これらの試掘坑は、南北2つの集中箇所を形成しており、本遺跡は当初の遺跡範囲である線路際の畠地と合わせると3つの地区から構成される可能性があることがわかった。検出された遺構には土壙・溝・ピット等があり、遺物には須恵器・赤焼土器・木製品等がある。以上のことから本遺跡は平安時代の集落跡と考えられる。



第41図 中田浦遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP 150 土層柱状図

- I 褐色シルト（表土）
- II 青灰色シルト
- III 暗灰色シルト
(木炭粒多量に混入)
- IV 黄褐色粘土質シルト
(地山)



TP 150 土層断面



TP 48 土層断面（北から）



出土遺物

図版42 中田浦遺跡

(26) 地蔵田遺跡 (遺跡番号2092)

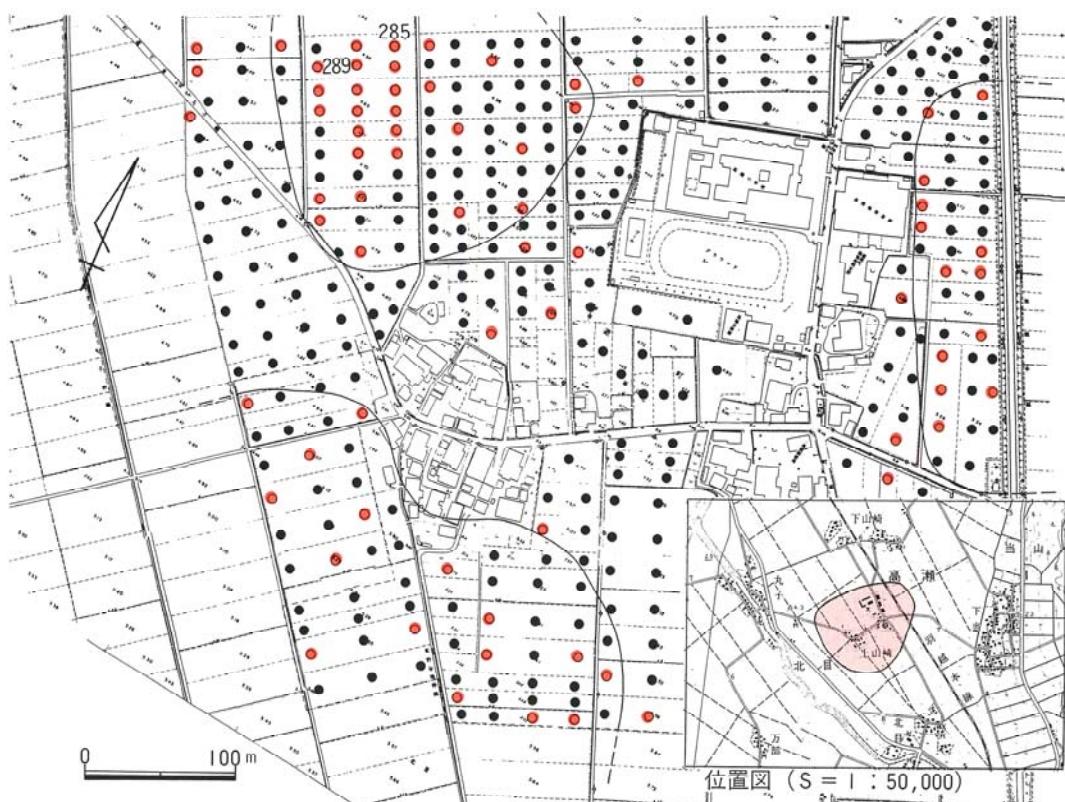
所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字当山字下地蔵田・上山崎・田中・三ツ操

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調査期日 B調査 平成3年10月14日～11月1日

調査の概要 遺跡は羽越本線遊佐駅の北約3.5km、高瀬小学校周辺の水田中に所在する。標高は5mを測る。従来の遺跡範囲は、下地蔵田付近とされていたが、平成2年度に行なった表面踏査で遺物の散布が高瀬小学校周辺まで広がっていることがわかった。この遺物散布範囲を地蔵田遺跡の広がりと考え、推定遺跡範囲とした。この地区では、平成4年度以降に県営ほ場整備事業（高瀬川地区）が予定されており、今回の分布調査はこの事業との調整に資する目的から実施したものである。

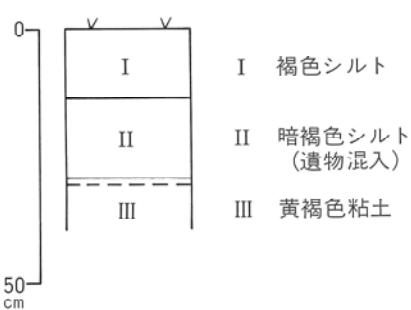
調査は事業区域の遺跡範囲内を対象として387箇所の試掘坑（1m×0.5m）を設定し地山面まで掘り下げた。その結果、71箇所の試掘坑から遺物が出土した。これら遺物の出土した試掘坑は3つの集中箇所を形成しており、遺跡が3つの地区から成ることがわかった。さらに、これらの3つの地区は、調査区の外へも広がる様相を呈している。出土遺物には、平安時代の須恵器・赤焼土器がある。遺構は検出されていない。



第42図 地蔵田遺跡概要図



遺跡遠景（北から）



TP 285 土層柱状図



TP 285 土層断面



TP 289 土層断面



出土遺物

図版43 地蔵田遺跡

(27) 宮ノ下遺跡 (遺跡番号2086)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字宮ノ下・矢口・中瀬

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年10月17~28日

調査の概要 遺跡は羽越本線遊佐駅の北方約2.5kmの水田中に所在する。標高は8.5mを測る。本遺跡の線路東側のTP6以南については昭和63年に試掘調査を実施しており、その際には柱穴跡や平安時代の土器が検出されている。また、平成2年度に行った表面踏査では、線路の西側一帯にも遺物の散布が認められ、遺跡が西側に広がることが予想された。この遺物散布範囲を宮ノ下遺跡の広がりと考え、推定遺跡範囲とした。この地区では、平成4年度以降に県営ほ場整備事業（高瀬川地区）が予定されており、今回の分布調査はこの事業との調整に資する目的から実施したものである。

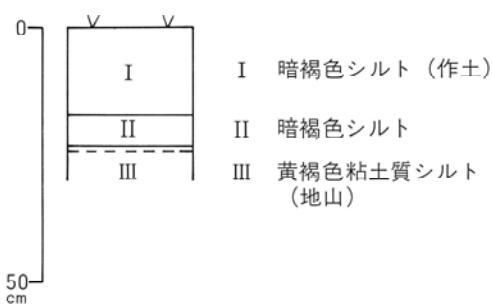
調査は、事業区域の推定遺跡範囲内に184箇所の試掘坑（1m×0.5m）を設定し地山面まで掘り下げた。その結果、26箇所の試掘坑から遺構・遺物が検出された。検出された遺構には柱穴等がある。遺物は平安時代の須恵器・赤焼土器がある。以上のことから、宮ノ下遺跡は、平安時代の集落跡と考えられる。



第43図 宮ノ下遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP 144 土層柱状図



TP 144 土層断面



TP 176 土層断面



出土遺物

図版44 宮ノ下遺跡

(28) 北目長田遺跡 (平成3年度登録)

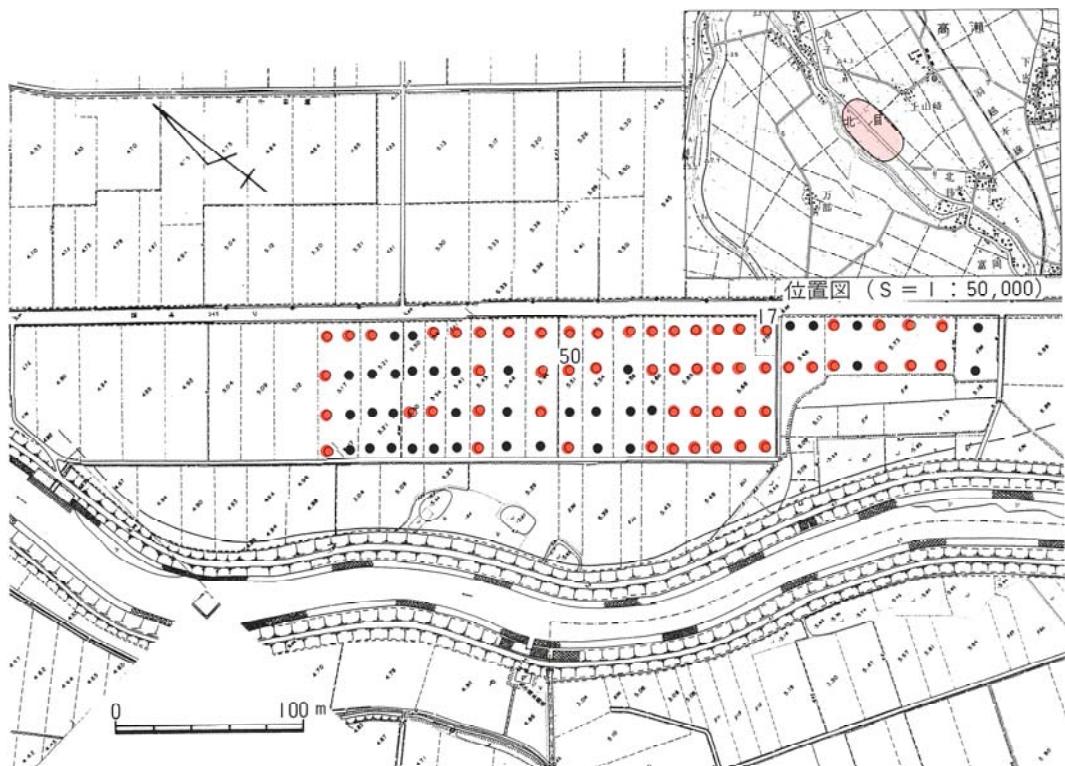
所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字長田

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調査期日 B調査 平成3年11月8日

調査の概要 遺跡は羽越本線遊佐駅の北方約3kmの高瀬川右岸水田中に所在する。標高は5mを測る。

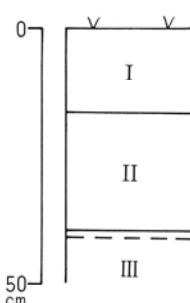
今回の分布調査は、平成4年度以降に予定される県営ほ場整備事業（高瀬川地区）との調整に資する目的から実施したものである。本遺跡は、平成2年度に表面踏査を行った際に、広範囲に遺物が散布していたことから、遺跡としての可能性がある場所として認識されたものである。この地区を対象として、92箇所の試掘坑（1m×0.5m）を設定し、地山まで掘り下げた。このうち、57箇所から遺構遺物が検出された。遺構には、土壙・柱穴等があり、遺物には平安時代の須恵器・赤焼土器がある。遺物は、ほとんどの試掘坑から出土しており、遺跡範囲がさらに拡大することは確実であろう。また、地山面は安定した箇所が多いが、地表面からの深さは40cm以上と比較的深い傾向にある。以上のことから、本遺跡は平安時代の集落跡であることが確認された。



第44図 北目長田遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



I 褐色一青灰色シルト
（表土）

II 暗灰色シルト

III 黄灰色粘土（地山）

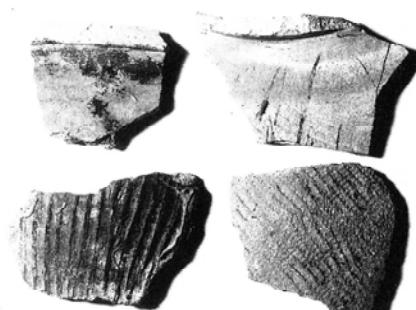
TP 50土層柱状図



TP 50遺構検出状況



TP 17遺構検出状況



出土遺物

(29) 堂田遺跡 (遺跡番号2085)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字堂田11・30・31

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年11月5～6日

調査の概要 遺跡はJR東日本羽越線遊佐駅の北方約3km、北目地区の北に位置し、穂待遺跡の東に隣接する。標高7mを測り、地目は水田である。

今回の遺跡詳細分布調査は平成5年度以降に予定される県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整に資する目的から実施したもので、平成2年度に実施した分布調査時に遺物の散布が確認された区域を主な対象としている。調査では1m×0.5mの試掘坑247箇所を設定し、基盤層までの掘り下げを行なった。そのうち35箇所から遺構・遺物を検出した。遺物の出土状況は調査対象範囲西部に集中する傾向がみられ、東部では耕作土に遺物が流れ込んでいるものと考えられる。その結果遺跡の範囲は東西145m、南北340m程度の規模が推測される。

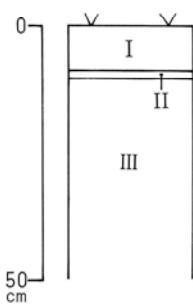
遺物包含層は田面下16cm前後の層序に認められ(II層)、平安時代の赤焼土器や須恵器等の包蔵がみられた。遺構はTP132から小ピット1基を検出している。以上のことから本遺跡は平安時代の集落跡と考えられる。



第45図 堂田遺跡概要図



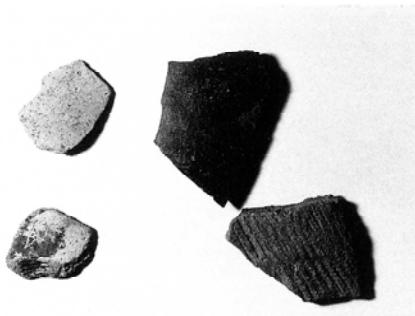
遺跡近景（南西から）



T P 132 土層柱状図



T P 132 遺構検出状況（南から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(30) のせ 野瀬遺跡 (平成元年度登録)

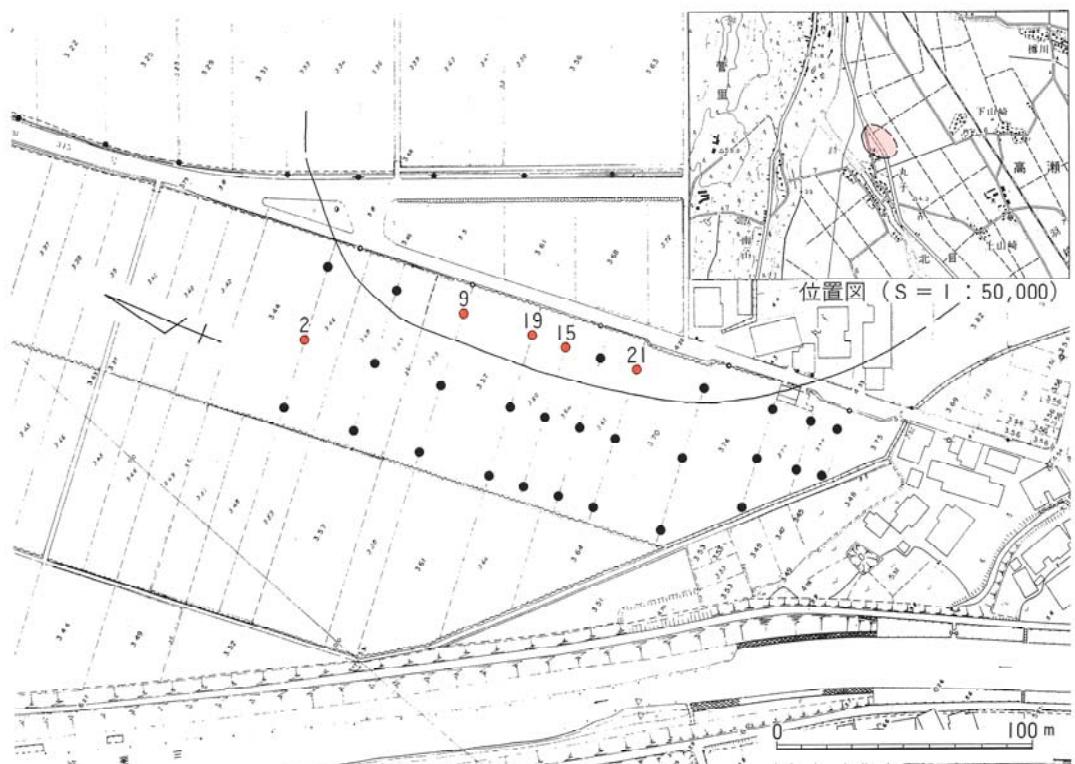
所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字野瀬

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年10月17日

調査の概要 遺跡はJR東日本羽越線遊佐駅の北北西約3.7kmに位置し、丸子集落の北に隣接する。高瀬川右岸のほぼ平坦な沖積地に立地し、地目は水田である。本遺跡は平成元年度に実施された国道345号線道路改良事業に関連する遺跡詳細分布調査により発見、登録された。平成2年度には同事業に伴う範囲確認調査及び立会い調査が行なわれた。その結果平安時代の遺構5条、柱穴1基の他、平安時代の土器を含む河川跡が検出され、良好な遺存状態を示す集落跡であることが確認されている。

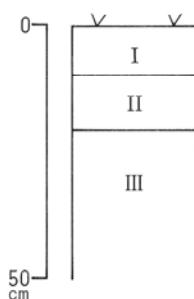
今回の試掘調査は、平成4年度に実施される県営ほ場整備事業（高瀬川地区）との調整に資する目的から実施したもので、平成2年度立会い調査区域の西側一帯にあたる。調査では平成4年度事業実施予定区域内に1m×0.5mの試掘坑31箇所を設定し、基盤層までの掘り下げを行なった。その結果5箇所の試掘坑から遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。遺物包含層は表土下10cm前後の暗青灰色砂質シルトである。基盤層までの深さは表土下20～40cmを測るが、西に向かうに従いその状態は悪くなる。



第46図 野瀬遺跡概要図



遺跡遠景（北から）



I 褐色シルト（作土）
II 暗青灰色砂質シルト
(遺物混入)
III 黄灰色砂質シルト

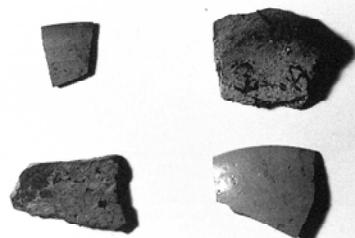
TP 9 土層柱状図



TP 9 土層断面



TP 15 土層断面



出土遺物

そりまち
(31) 橋待遺跡（平成3年度登録）

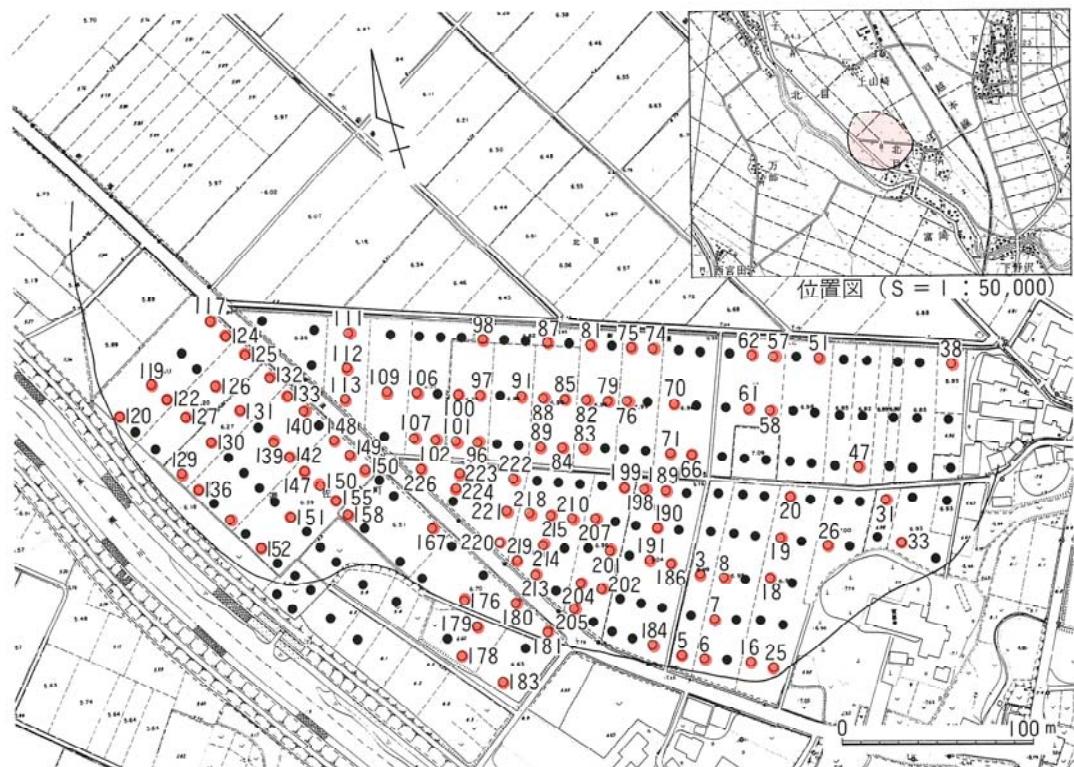
所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字橋待

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年11月6・7日

調査の概要 遺跡は高瀬川右岸の自然堤防上に立地し、北目集落北西側の水田中に広がっている。標高6mを測る。本遺跡は、平成2年度に実施された遺跡詳細分布調査において遺物の散布が認められ、遺跡である可能性を持つ区域として認知されていた。今回の試掘調査は平成5年度以降に実施される県営ほ場整備事業（高瀬川地区）の施工に先立って、事業側との調整に資する目的から遺跡そのものの存在の確認をも含めて行なわれたものである。

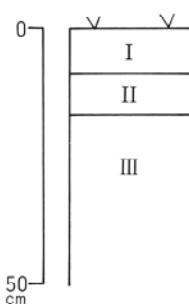
調査では試掘範囲内に1m×0.5mの試掘坑を222箇所設定し、基盤層までの掘り下げを行なった。そのうち106箇所から遺構・遺物を検出した。遺物包含層は田面下16cm前後の層序に認められ、平安時代の赤焼土器、須恵器等の包蔵が確認された。表上から基盤層までの深さには地点によりばらつきが認められるが、検出された土壌、溝跡等の遺構の遺存状態は概して良好であった。以上のことからこの区域は東西180m、南北480m程度の規模をもつ集落跡と考えられ、更に東に向かって遺跡範囲が広がることが予想される。



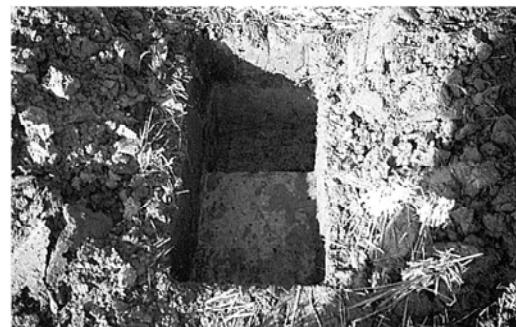
第47図 橋待遺跡概要図



遺跡遠景（北から）



I 褐色シルト（作土）
II 暗灰色シルト
III 黄灰色粘土（地山）



TP 85 土層断面



TP 204 遺構検出状況



出土遺物

図版48 橋待遺跡

(32) 筋田遺跡 (平成3年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字筋田

調 査 員 黒坂雅人 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年10月16・17日

調査の概要 遺跡は丸子集落の北約800mに位置し、高瀬川右岸の標高3mを測る自然堤防上に立地する。地目は水田である。

本遺跡は平成2年度の遺跡詳細分布調査において遺物の散布が認められ、遺跡である可能性をもつ区域として認識されていた。今回の試掘調査は平成4年度に実施される県営ほ場整備事業（高瀬川地区）の施工に先立ち、事業側との調整を図る目的から、遺跡そのものの存在の確認をも含めて行なわれたものである。

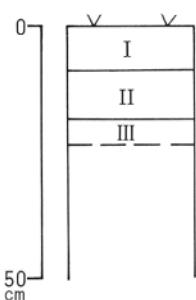
調査は試掘範囲内に1m×0.5mの試掘坑を125箇所設定し、基盤層までの掘り下げを実施した。そのうち28箇所からピット、溝跡等の遺構及び須恵器、赤焼土器等の遺物を検出した。それらは概ね4地点に集中する傾向がみられる。また試掘範囲東側では田面から基盤層までの深さが50cm以上となる箇所が多く、土質も粘性が強く不安定となる傾向が窺える。以上のことより、この区域は東西約240m、南北約450mの範囲をもつ平安時代の集落跡であることが理解される。



第48図 筋田遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



- I 褐色一青灰色シルト
(作土)
- II 暗褐色シルト
- III 黒褐色シルト
(遺物多量に混入)
(遺構覆土)

TP 17土層柱状図



TP 17土層断面



TP 41土層断面



出土遺物

図版49 筋田遺跡

(33) 土崎遺跡 (遺跡番号2027)

所 在 地 山形県酒田市大字土崎字屋敷添

調 査 員 阿部明彦 須賀井新人

調 査 期 日 B調査 平成3年11月27~29日

調査の概要 平成元年に実施したほ場整備関連の分布調査（A）から鎌倉時代以降近世にかけての遺跡として確認され、土崎集落東側一帯に遺物の散布が認められるとされた。

当該地域では近年から県営ほ場整備事業が進められ、さらに高速道路の計画が進行する等の開発が予定されるため、事前に分布調査を実施して、遺跡内容の把握を基にした調整が急務となった。

調査では、遺物の散布したとされる土崎集落東側を対象とし、遺構・遺物の確認を目的として試掘坑 156箇所を設定している。

調査の結果、TP30の表土下30cm (II層) から珠洲焼の摺鉢片1点、TP35で遺構と考えられる小ピット1基を検出したにとどまり、予測された広範な集落等の存在を推測し得る状況はない。小規模な範囲に遺構・遺物のみられる地点が存在するものと考えられよう。

但し、遺跡のデータを記した遺跡の個票には、「柱根が4・5本一直線になって出土し、須恵器も広範に分布している」との記載があり、事実関係の確認が必要である。



第49図 土崎遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP 48土層柱状図



TP 48土層断面



TP 35遺構検出状況



出土遺物

図版50 土崎遺跡

(34) 下川 1 遺跡 (平成 3 年度登録)

所 在 地 山形県鶴岡市大字下川字鞘師・五百刈

調 査 員 佐藤庄一 須賀井新人

調 査 期 日 A 調査 平成 3 年 11 月 19・20 日 B 調査 平成 3 年 12 月 3~6 日

調査の概要 鶴岡市下川地区に、平成 4 年度新規採択予定の県営ほ場整備事業が計画され、県農地建設課より遺跡詳細分布調査の依頼が出された。これを受け、実施予定地区内に遺跡の有無を確認する目的から調査を行った。

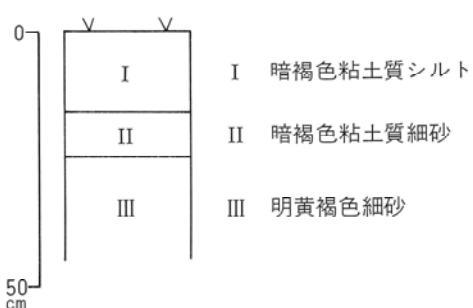
まず、地表面で遺物の散布状況を確かめる A 調査（表面踏査）を 11 月に行った結果、県道酒田・大山線の東側、西郷小学校の南東部に広範な土器片の散布地が認められ、新規の遺跡となる可能性が高まった。さらに、この地域一帯が平成 4 年度事業実施予定区域にかかることから、遺跡範囲の限定を目的とした B 調査（試掘調査）を 12 月に行うこととなった。調査では、20m を単位とする方眼区割りに沿って 256 箇所の試掘坑を設定し、地山までの深さと遺構・遺物の有無を把握した。その結果、54 箇所から遺物が出土し、うち 6 箇所より遺構を検出した。地山面までは平均して表土下 30cm と浅く、包含層が壊されている地点もある。遺跡の範囲は下川集落北東部 1 km の水田中に広がり、東西 490m × 南北 400m の規模になると考えられる。



第50図 下川 1 遺跡概要図



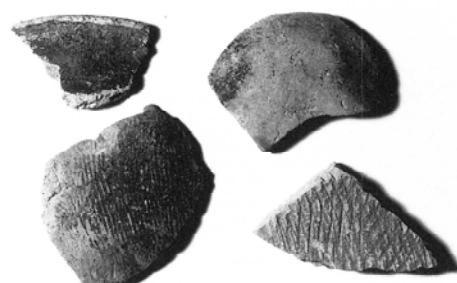
調査風景（南西から）



TP I39 土層断面



TP I55 遺構検出状況



出土遺物

(35) 新田遺跡 (遺跡番号952)

所 在 地 山形県最上郡最上町大字法田字新田

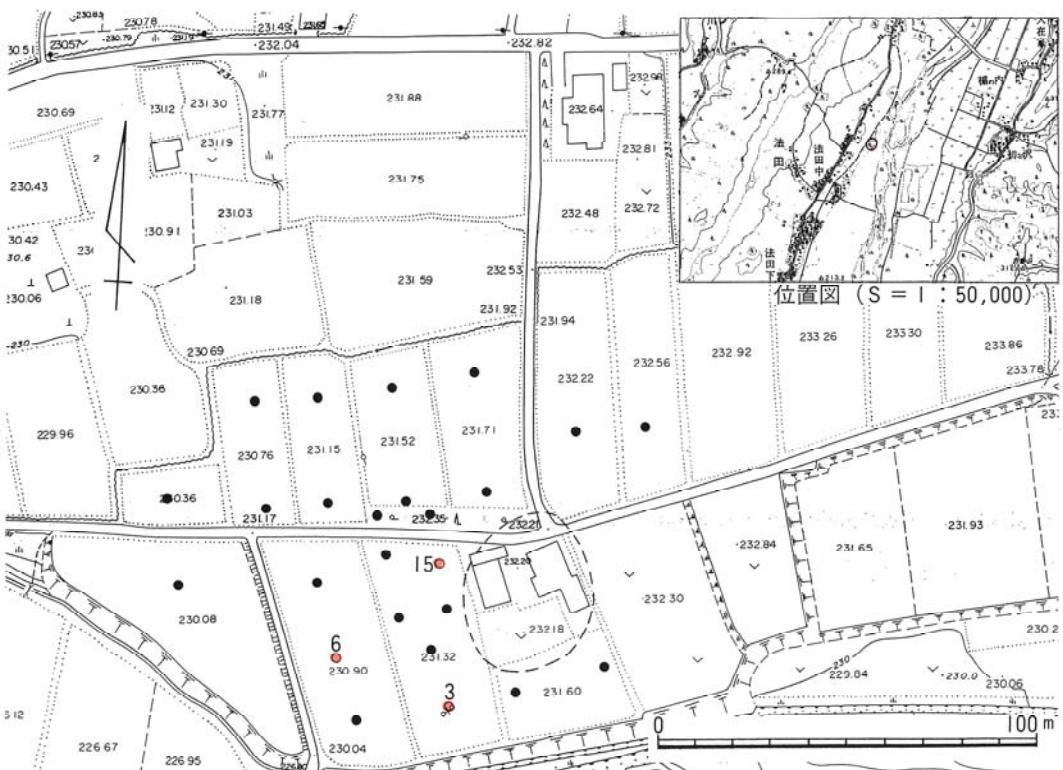
調 査 員 佐藤庄一 斎藤主税

調 査 期 日 B調査 平成3年10月9日

調査の概要 遺跡は陸羽東線大堀駅の北東約2.8km、白川右岸段丘上に所在している。主に、後藤勝見氏宅地南側の畠地に遺物の散布が認められる。標高は229mを測る。

今回の調査は、平成4年度以降に予定される県営ほ場整備事業（最上町西部地区）との調整に資するものである。調査は平成2年度に行なった表面踏査で遺物の散布が認められた後藤勝見氏宅地周辺を対象に行なわれた。25箇所の試掘坑（1m×1m）を設定し地山面まで掘り下げたところ、3箇所から剝片が4点出土した。この他に石匙・剝片・縄文土器が宅地内の畠地から表面採取された。これらの遺物から遺跡は縄文時代（後期？）と推定される。

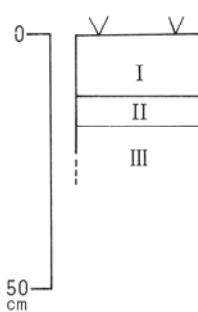
以前は遺跡付近は荒地であったということから、遺跡範囲も現在より広範囲であったと推定される。しかし、昭和50年代初頭に重機械を使用して、水田を開墾したということから、遺跡の大部分が破壊され、現存しているのは宅地付近のみとなったものであろう。



第51図 新田遺跡概要図



遺跡近景（南から）



I 黒色シルト
II 黒色シルト（礫多）
III 黄褐色粘土（礫多）

T P 6 土層柱状図



T P 6 土層断面



出土遺物

表面採取遺物

図版52 新田遺跡

(36) 里向山C・D遺跡 (昭和53年度登録)

所 在 地 山形県村山市大字富並字鷺ノ倉

調 査 員 阿部明彦 黒坂雅人

調 査 期 日 B調査 平成3年10月7～9日

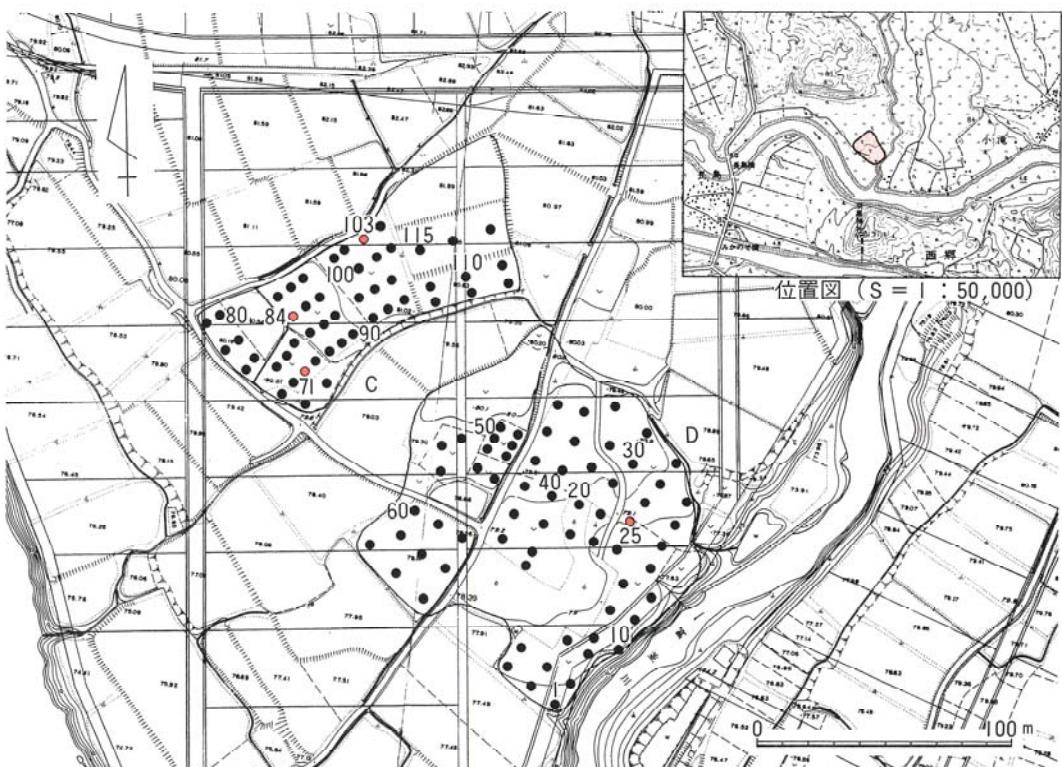
調査の概要 本遺跡は昭和53年度に実施した北村山広域農道関連の分布調査（A）で縄文時代の遺跡として登録された。採集遺物は若干の剝片類で範囲は不明とされている。

当該地域では数年前から県営ほ場整備事業が継続して進められ、川口遺跡や西海渕遺跡の緊急発掘調査が既に実施された経過がある。

今回の遺跡詳細分布調査も平成4年度に予定される県営ほ場整備事業（富並地区）との調整に資するもので、遺跡範囲その他の内容を把握することに主眼を置いた。

調査では、以前に遺物の散布が確認された各遺跡・地点周辺を対象とし、そこでの遺構・遺物の確認を目的として試掘坑 115箇所を設定した。

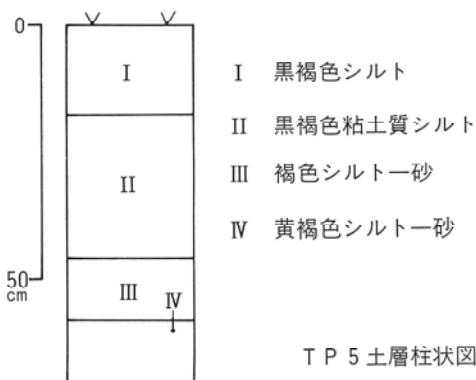
調査の結果、里向山C遺跡は旧河川の右岸段丘上に主体があると考えられ、現況畠地や荒地となる小範囲に若干の遺物が認められた（TP84）。また、里向山D遺跡は標高80mラインで囲まれる小高い範囲が主体らしくTP25から縄文土器の破片1点を検出している。しかし両遺跡共に開墾等による搅乱が著しく、すでに大方が破壊されたと推測される。



第52図 里向山C・D遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP 5 土層断面



TP 43遺構検出状況



出土遺物

図版53 里向山 C・D 遺跡

(37) 名木沢橋跡 (遺跡番号735)

所 在 地 山形県尾花沢市名木沢字上ノ原

調 査 員 佐藤庄一

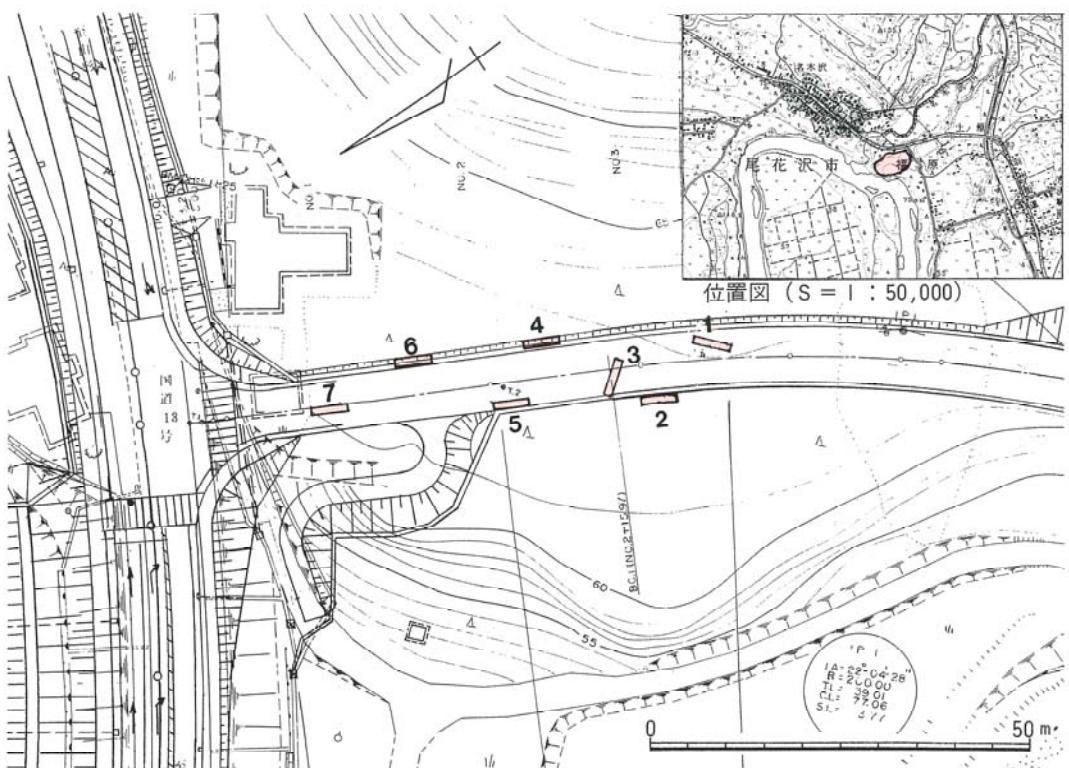
調 査 期 日 A調査 平成3年10月1日 B調査 平成3年10月22・23日

調査の概要 遺跡はJR奥羽本線芦沢駅の北西900mに位置し、最上川と名木沢川に囲まれた標高60~76mの丘陵上に立地する。丘陵の西から南斜面にかけては、二重の空濠と土塁が良好に残っている。

今回の調査は、農免農道舟戸地区が本橋跡の西端に建設されることになったため、遺跡の範囲や性格を明らかにして事業計画との調整を図る目的で実施した。

調査は農道新設予定地部分に限定し、計画のセンター杭や幅杭を基準としながら5m×1mの試掘坑を7箇所設定した。調査の結果、各試掘坑から隅丸方形ないし楕円形の柱穴や土壙が検出され、中世から近世にかけての陶磁器も20片程発見された。遺構は4層のパミス層を掘り込んでいるものが多いが、一部2層のクロボク土から掘り込んでいるものも認められる。

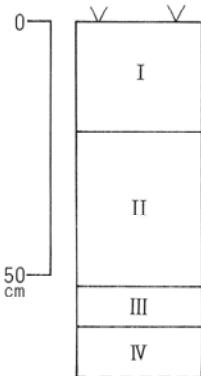
農道予定地から西側にかけては、緩やかな斜面が舌状に張り出している場所に当たるため橋跡にかかる施設の存在が予測される。



第53図 名木沢橋跡概要図



名木沢橋跡遠景（南東から）



I 暗褐色腐植土（表土）
II 黒褐色クロボク土
III 明黒褐色砂質土
(漸移層)
IV 暗黄褐色バミス
(地山)

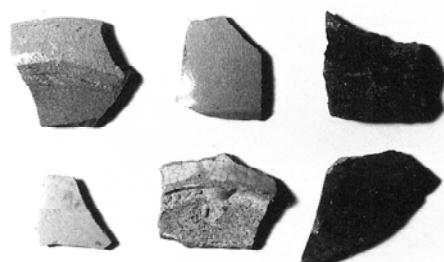


TP I 土層柱状図

近景（東から）



遺構検出状況（東から）



出土陶磁器

図版54 名木沢橋跡

(38) 郡之神遺跡 (1508)

所 在 地 山形県西置賜郡飯豊町椿字郡之神2,591の1外

調 査 員 渋谷孝雄

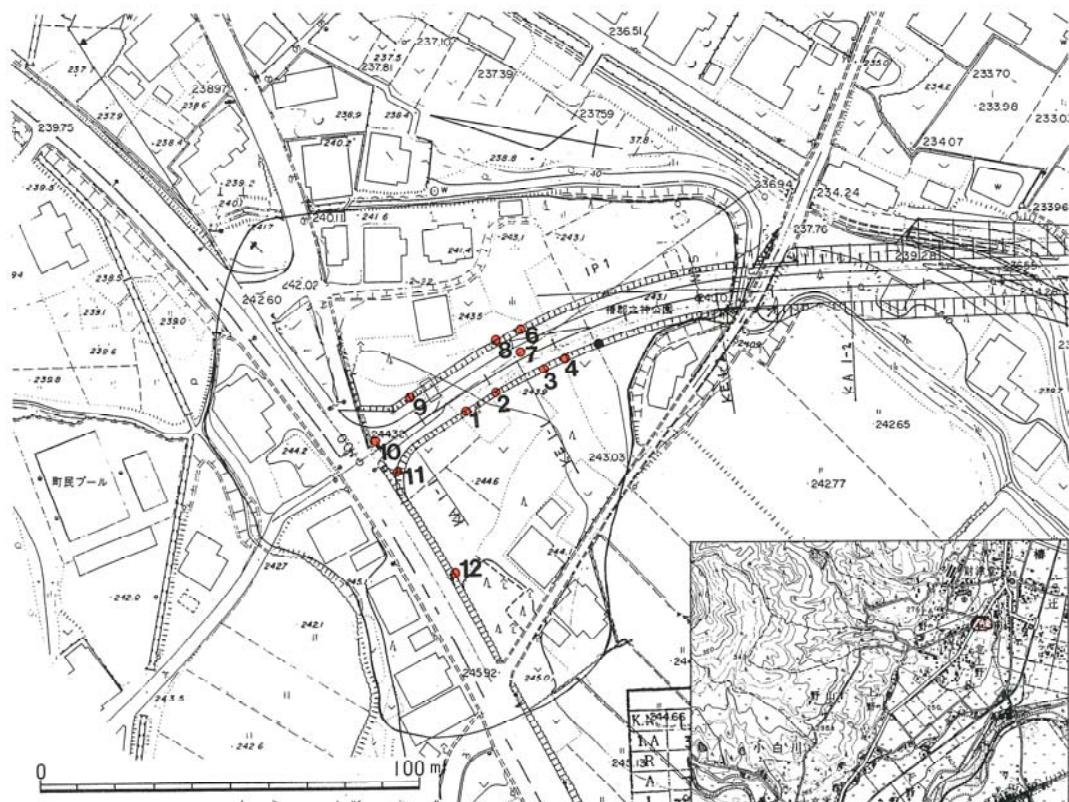
調 査 期 日 B調査 平成3年10月7・8日

調査の概要 遺跡はJR羽前椿駅の西方約400mに位置している。白川の第1段丘上にあたり、標高243mを測る。現況は畠地、公園、宅地である。畠地に若干の剝片、土器片が散布しているのが確認された。

昭和52年に県道長井飯豊線特殊改良第1種工事にかかる緊急発掘調査が行われた。調査では縄文時代中期末から後期初頭の土壌や配石遺構、中世の塚などが検出された。*1

今回の調査は一般県道椿川西線の道路改良が本遺跡の範囲内で実施される見込みとなつたため、その調整に資する目的で行った。予定路線内に1m四方、1m×2m、2m四方、1m×3mの試掘トレンチを合わせて12ヶ所設定し、人力で地山まで掘り下げ、遺構遺物の有無を確認した。その結果、TT5を除く11のトレンチから遺構や遺物が検出された。出土した遺物は前回の調査と同様の縄文時代中期末から後期初頭のものであり、今回の道路予定地まで集落の広がりが確認されることになる。

*1 山形県埋蔵文化財調査報告書第23集「郡之神遺跡・周辺遺跡発掘調査報告書」



第54図 郡之神遺跡概要図

位置図 (S = 1 : 50,000)



遺跡近景（南西から）



TT 3 土層断面



TT 10 土層断面



出土遺物

(39) 赤土場遺跡 (平成2年度登録)

所 在 地 山形県西置賜郡白鷹町大字佐野原字赤土場

調 査 員 渋谷孝雄

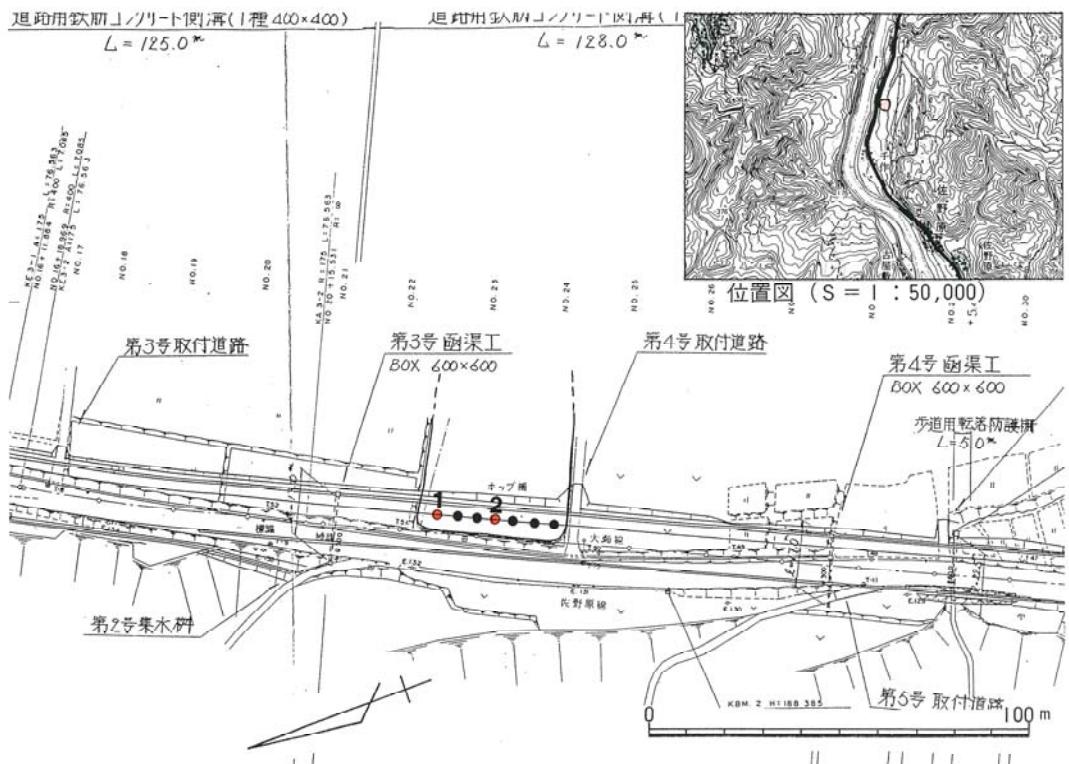
調査期日 B調査 平成3年10月15日

調査の概要 フラワー長井線荒砥駅の北5kmに位置し、北流する最上川が置賜盆地から村山盆地に抜ける狭索部である、五百川峡谷右岸の段丘上に立地する。東千作遺跡の北方約180mにあたる。標高は180m程で、現況はホップ畑となっている。最上川に沿って国道287号線が走っている。

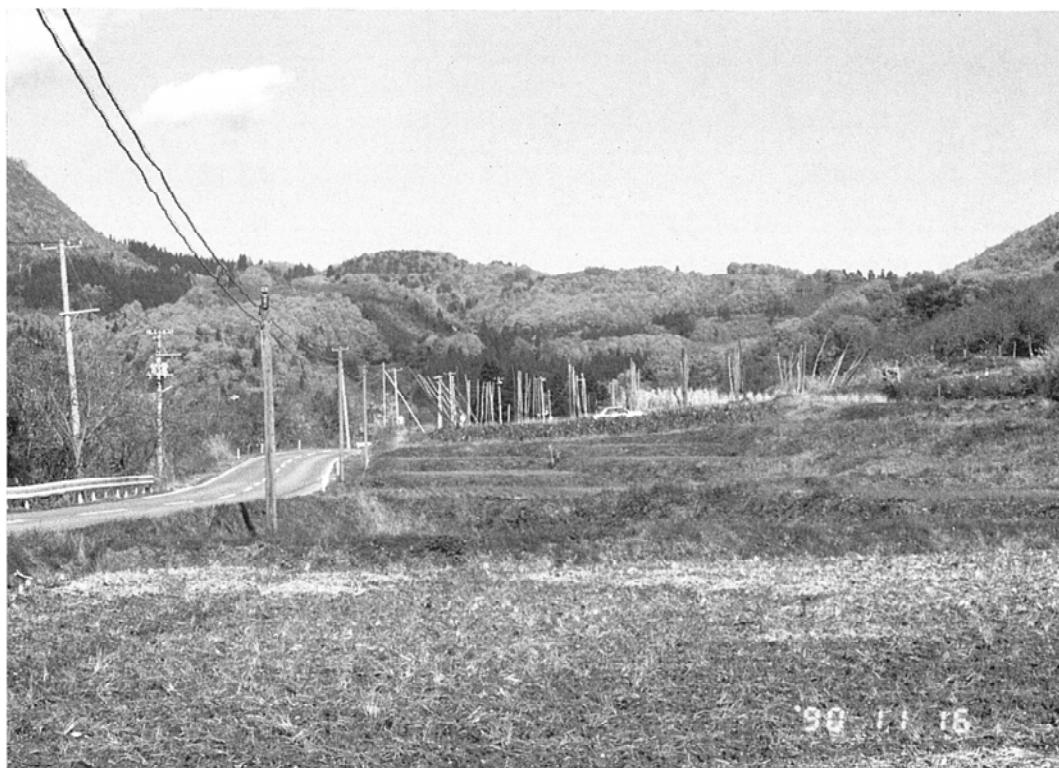
本遺跡は平成2年度に山形県教育委員会が実施した国道287号線の凍雪害防止工事(佐野原地区)に伴う遺跡詳細分布調査で発見・登録された遺跡で、今回の調査は工事との調整に資するために行ったものである。

調査は道路拡幅予定地のセンターに、5mおきに1m方形の試掘坑を7ヶ所設定し、手掘りで地山面まで掘り下げ、遺構遺物の検出に勤めた。

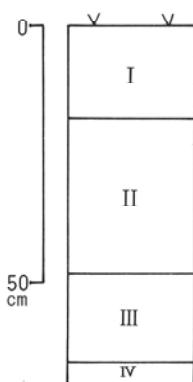
調査の結果、TP1からチップが1点だけ出土し、TP4でピットが1基検出されたがそのほかの試掘坑からは遺構遺物とも検出されなかった。全体的にその分布は散漫であり、調査地点は遺跡の周辺部にあたると考えられる。



第55図 赤土場遺跡概要図



遺跡近景（南から）



I 暗褐色シルト
II 暗褐色シルト
III 黒褐色粘土質シルト
IV 黄褐色シルト(地山)

TP 5 土層柱状図



TP 5 土層断面



TP 6 土層断面



出土遺物

図版56 赤土場遺跡

(40) 東千作遺跡 (平成2年度登録)

所 在 地 山形県西置賜郡白鷹町大字佐野原字東千作

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成3年10月16日

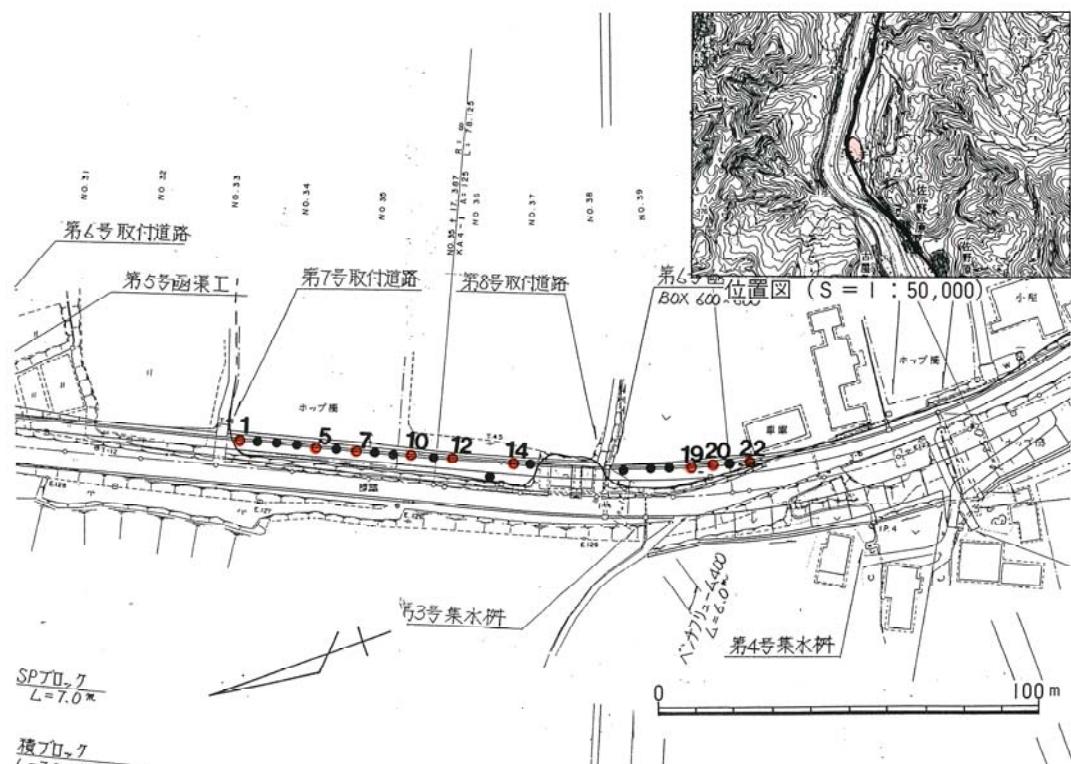
調査の概要 フラワー長井線荒砥駅の北側約5kmに位置し、最上川が北流する山間の右岸の段丘上に立地する。赤土場遺跡の南方約180mにあたる。標高は180m程で、現況は宅地、畠地、ホップ畠となっている。最上川に沿って国道287号線が走っている。

本遺跡は平成2年度に県教育委員会が実施した、国道287号線の凍雪害防止工事(佐野原地区)の事業計画に伴う遺跡詳細分布調査によって発見・登録された。今回の調査はその調整に資するために行ったものである。

調査は道路拡幅予定地のセンターに、5mおきに1m方形の試掘坑を22ヶ所設定し、手掘りで地山面まで掘り下げ、遺構遺物の検出に勤めた。

その結果、TP1、5、7から石核、剝片、チップが出土し、TP7、10、14、19、20で土壌等の遺構の一部が検出されたが、遺構の時期を確定できる遺物の出土はなかった。

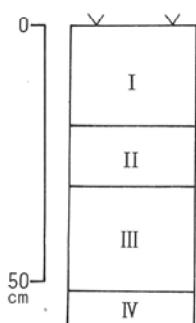
今回の調査区は、遺物の数量も少なく、今回の調査区は遺跡の周辺部に当たるものと推定できる。



第56図 東千作遺跡概要図



遺跡近景（東から）



I 暗褐色シルト
II 暗赤褐色シルト
III 黒褐色シルト
IV 黄褐色粘土質シルト

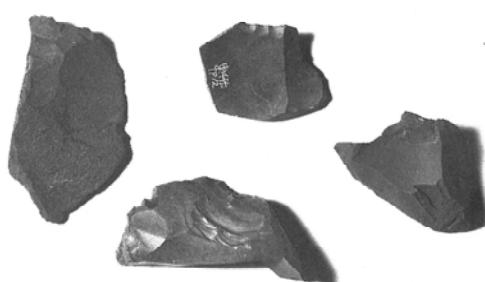
TP 7 土層柱状図



TP 7 土層断面



TP 14 土層断面



出土遺物

図版57 東千作遺跡

(41) 藤島城跡 (遺跡番号1716)

所 在 地 山形県東田川郡藤島町大字藤島字古楯跡

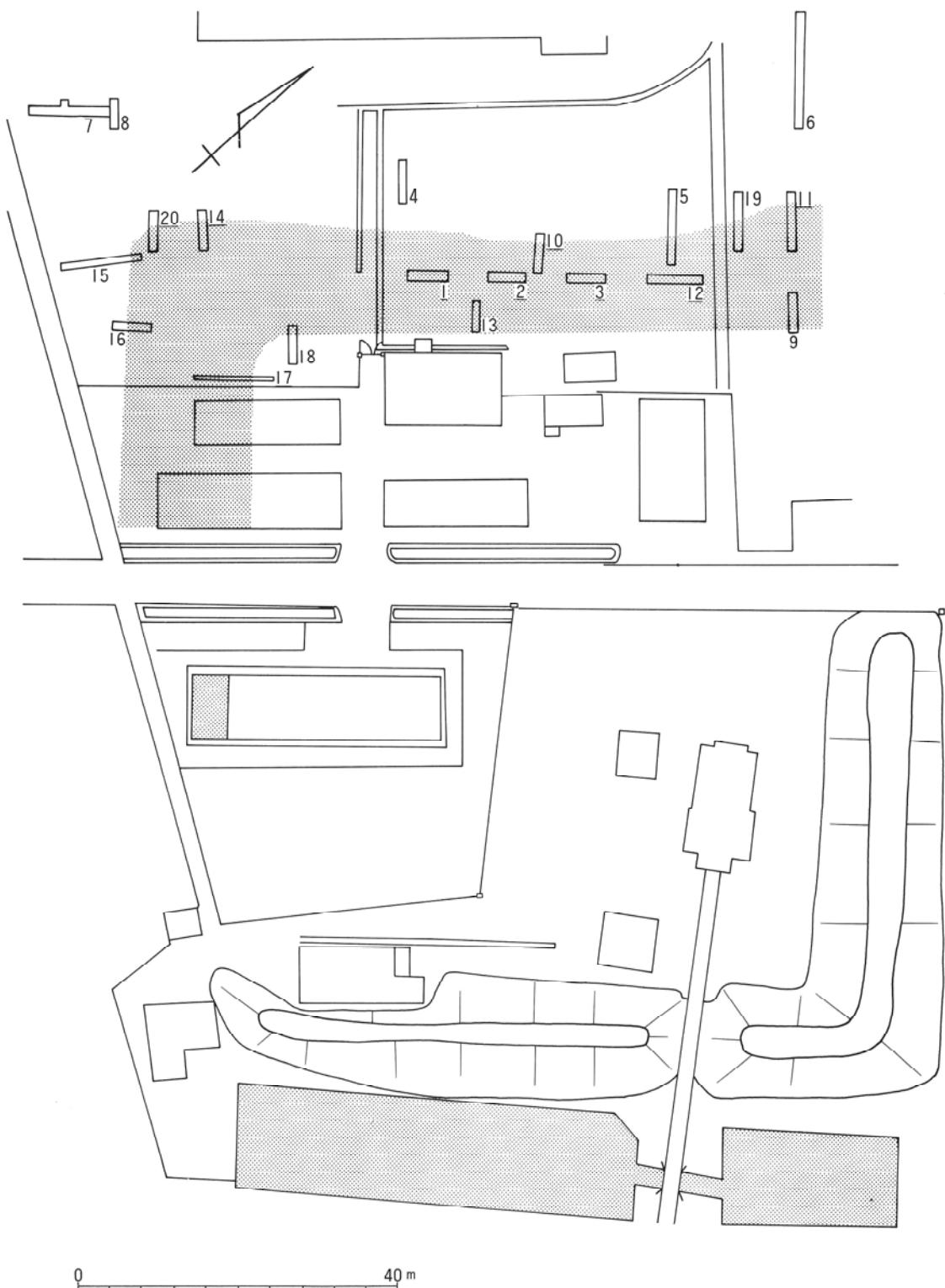
調 査 員 渋谷孝雄 伊藤邦弘

調 査 期 日 B調査 平成3年10月22~25日

調査の概要 藤島城跡は平成3年までに4次にわたる発掘調査が行われている。その都度発見された遺構や遺物により、15~16世紀代に最も充実した時期があったことが確認されている。今回の試掘調査は、県立庄内農業高等学校の農場再編にともない現在の果樹園に温室等の施設が計画されていることから、事前に遺構・遺物の状況を把握するために行ったものである。調査は果樹園全体を対象としたが、これまでの発掘調査の結果から当地区には本丸堀跡が巡ることを推定しているため、1m×5mを基本とするトレンチを20本設定し、その確認に重点をおいた。調査の結果、10本のトレンチから幅約12mと推定される堀跡際の落ち込みが見られた。3・4次調査で検出された堀跡と八幡神社前に現存する堀、さらに今回確認された堀跡により本丸内は一辺約95mの規模を要し、ほぼ方形を呈するものと考えられる。また他のトレンチからは表土下25~50cmのIII層上面に柱跡・溝跡等の遺構が見られ、遺存状況は良好と見られる。出土遺物は珠洲系陶器・越前焼・瀬戸焼・青磁等であり、これまでの調査で検出されたものと同種である。



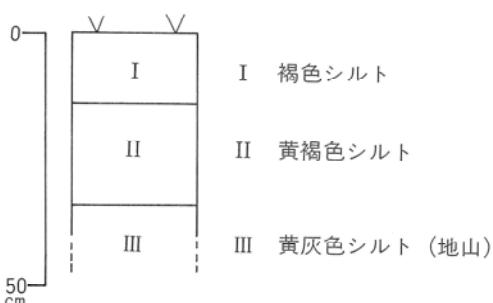
第57図 藤島城跡概要図



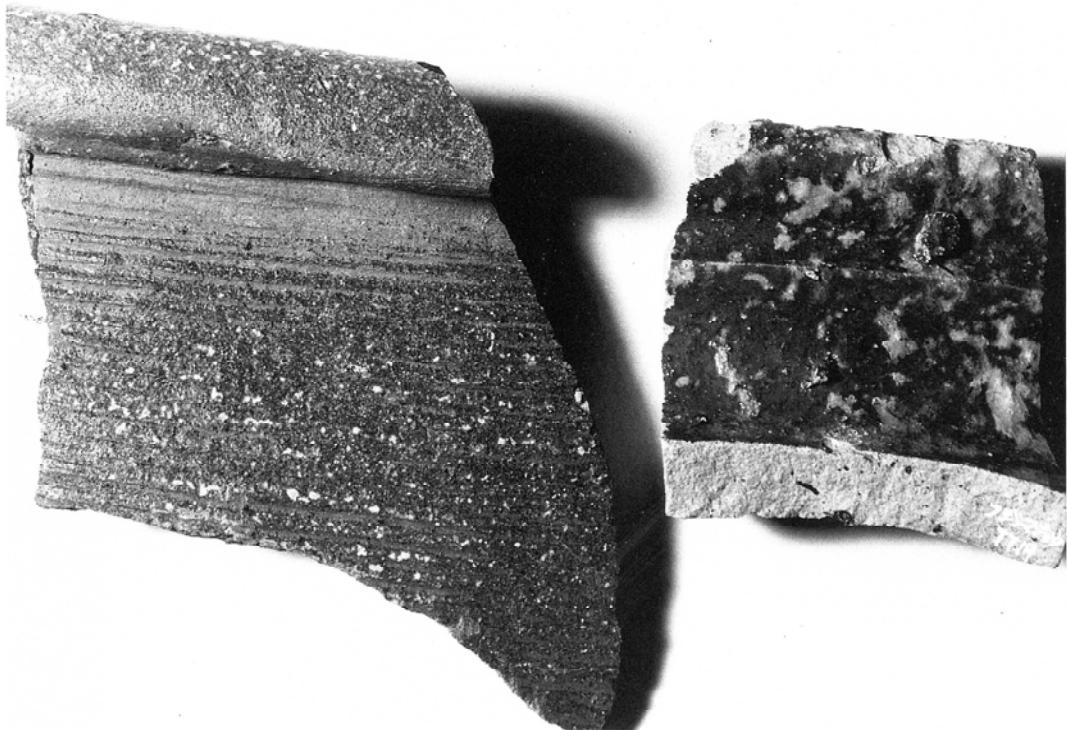
第58図 藤島城跡調査概要図



調査区近景（南西から）



図版58 藤島城跡(Ⅰ)



出土遺物（陶器）



出土遺物（磁器）

図版59 藤島城跡(2)

(42) いまづか
今塚遺跡 (遺跡番号136)

所 在 地 山形県山形市大字今塚字檀の前

調 査 員 渋谷孝雄 黒坂雅人 伊藤邦弘

調査期日 B調査 平成3年12月16日

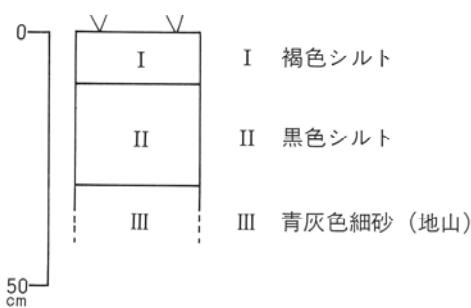
調査の概要 今塚遺跡は、今塚の集落南西部の水田に立地し、以前に採収された石包丁から弥生時代後期に位置付けられてきた遺跡である。また、水田耕作時に柱や土器が出土した例が知られていた。今回の調査は今塚地区に係る住宅団地分譲事業の計画に伴い、遺跡の規模、性格等を確認するために行ったものである。調査にあたっては、試掘調査未同意地区を除いて遺跡全体を覆う様に44箇所の試掘坑を設定し掘り下げた。その結果、5箇所から土壌・柱穴等の遺構が、23箇所から土師器・須恵器・赤焼土器等の遺物が出土した。遺構は表土下25~30cmの3層上面で確認される。遺物は、II層目の黒色シルト内に含まれる。遺構・遺物とも極めて良好に遺存すると考えられる。遺跡の広がりは今塚集落寄りに集中して見られ、南へ行くほど深く、泥炭質の土壤になることから、北側に広がっていることが推測され、現在の宅地の方まで含むものと考えられる。遺跡の性格は、今次調査を見る限りでは従来考えられてきた弥生時代を示すものは認められず、検出した遺構や遺物から平安時代の集落跡と考えられる。



第59図 今塚遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP 10 土層柱状図



TP 24 土層断面



出土遺物



出土遺物

図版60 今塚遺跡

3 記録保存調査・立会い調査の概要

(1) 重倉遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県飽海郡八幡町升田字重倉

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 立会い調査 平成3年7月29日～8月9日

調査の概要 遺跡は北青沢から升田に通じる町道のやや升田よりの所から谷川沿いに切られた林道を、東方に約1kmほど上がった山中に位置している。南東から北西方向に延びる頂部幅8m程の痩せ尾根上に立地する。標高は344mを測る。地目は山林と原野である。

平成元年度の国営農地開発事業（鳥海南麓地区）に伴う遺跡詳細分布調査で発見、登録した縄文時代の包蔵地である。試掘調査では、尾根からやや下がった山腹斜面の試掘坑で同一母岩の剝片9点が出土したが遺構の発見はなく、小規模なキャンプサイト的な性格が推定された。この調査の結果に基づき、事業主体の東北農政局鳥海南麓開拓建設事業所と協議を行った結果、遺跡範囲がきわめて小さいことから、工事実施に先だって小規模な記録保存発掘調査を実施することで合意をみた。

今回の調査は、試掘調査で遺物が出土した山腹とその上位の尾根に合わせて5ヶ所の調査区を設定し(第60図)、手掘で調査を進めた。調査面積は合わせて186平方mであり、第

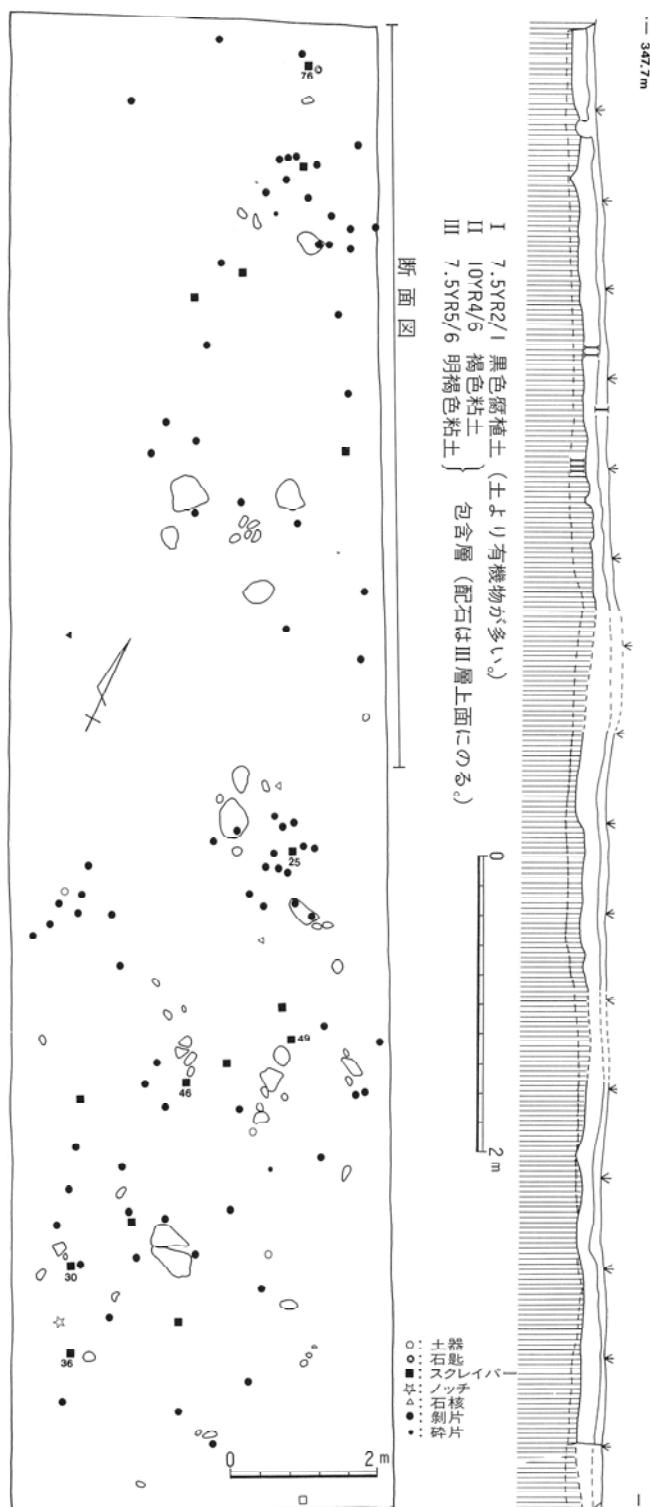


第60図 重倉遺跡概要図

5トレンチを除く各トレンチから遺物が出土したが、その大半は2・3トレンチからの出土である（第61図）。また、2・3トレンチでは配石遺構が認められた。

遺物の出土層準は、II層の褐色粘土とIII層の明褐色粘土の上部であるが、この層は上からの腐植の浸透の差によると考えられ、土質は同一である。なお、配石はIII層上面にのっている。

出土した遺物は土器片2点、石匙1点、石箆1点、スクレイパー18点、ノッチ1点、加工痕ある剝片1点、使用痕ある剝片2点、石核2点、剝片76点、碎片3点の合計107点である。土器はいずれも細片であるが1点には沈線が明瞭に観察され（第62図1）、縄文時代早期の所産と考えられる。石箆も早期の特徴をもつ。組成からは、土器が極めて少ないと、植物質食料の調理に使われた礫石器が皆無であること、ナイフとしての機能が考えられるスクレイパーが多いことが指摘でき、狩猟、解体等のキャンプサイトとしての性格が想定できる。



第61図 重倉遺跡2・3トレンチ遺物分布図・断面図



遺跡遠景（南東から）



遺跡近景（北から）



1 トレンチ発掘前（南から）

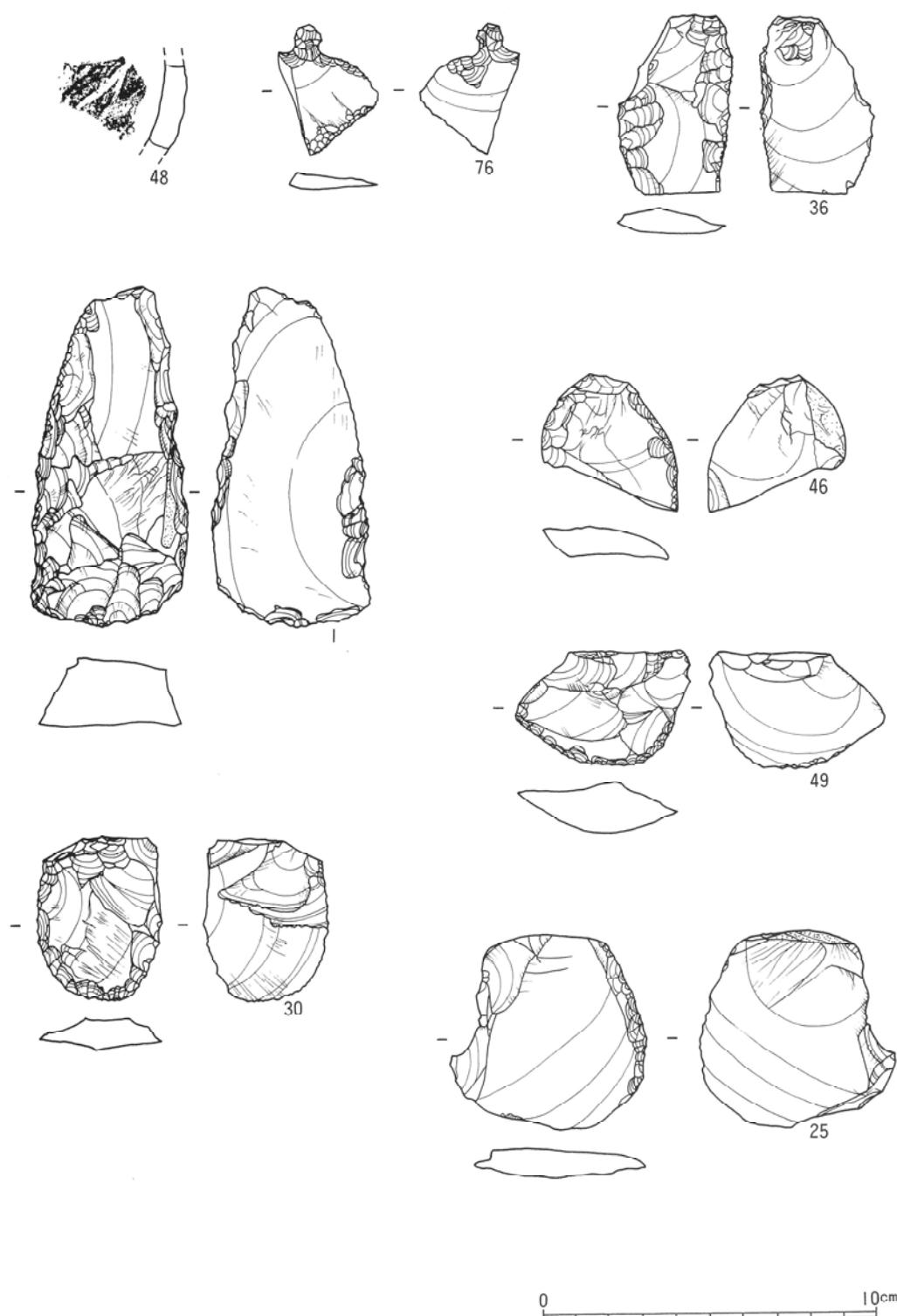


1 トレンチ発掘状況（北から）



4 トレンチ発掘状況（南から）

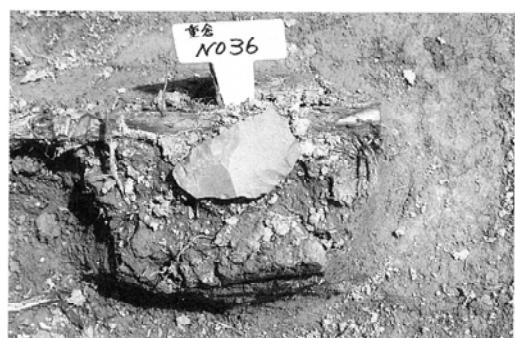
図版61 重倉遺跡(1)



第62図 重倉遺跡出土遺物拓影図・実測図



土器出土状況（南から）



石器出土状況（南から）



石器出土状況（南から）



石器出土状況（西から）



石器出土状況（西から）



土層断面（南から）



2・3 トレンチ完掘状況（南東から）



5 トレンチ完掘状況（北から）

図版62 重倉遺跡(2)



縄文土器



石匙・石鎧



スクレイパー（1）



スクレイパー（2）



スクレイパー（3）

スクレイパー（4）



スクレイパー（5）

剥片・石核

(2) 松原遺跡 (遺跡番号2251)

所 在 地 山形県飽海郡八幡町下黒川字松ヶ峰30-6外

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 立会い調査 平成3年9月2~6日

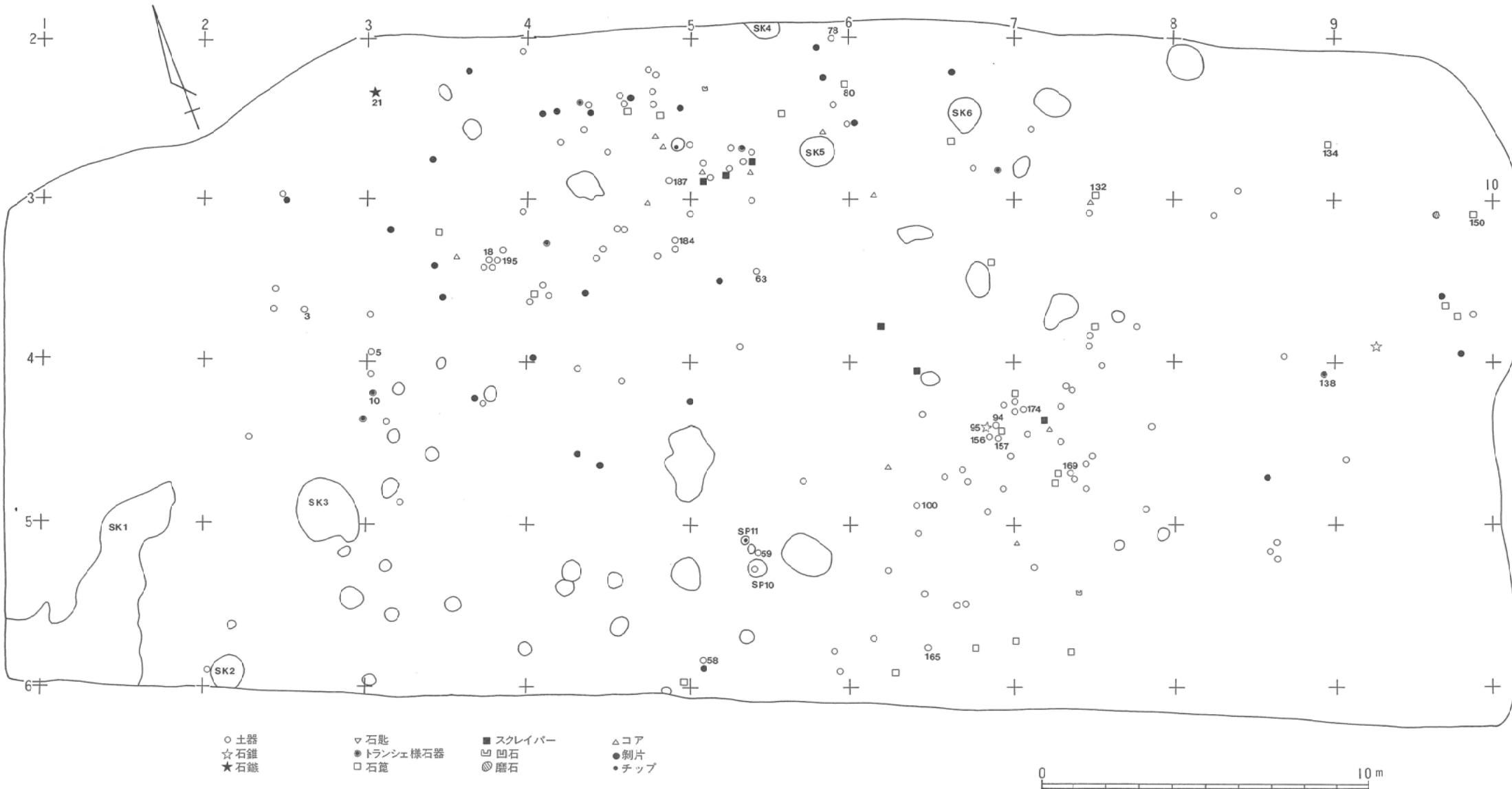
調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約5km、標高180mの台地上に立地する。地目は畠地で部分的に柿が植えられている。台地の南側を日向川が西流し、西側は不動沢で限られている。沖積面との比高差は約80mを測る。遺跡の東側には江戸時代に開田された水田が草津まで広がっている。

今回の調査は、国営農地開発事業（鳥海南麓地区）下黒川工区の施工に伴い、記録保存を目的として行なったものである。これに先立つ平成2年11月の試掘調査では6ヶ所の試掘坑から縄文土器片1点と、剝片数点が出土したが、表土直下が黄褐色粘土の地山となる地点が多いことから、長年の耕作による土壤の搅乱が著しく、遺跡は相当破壊が進んでいると判断され、小規模な発掘調査で十分記録保存が図れると考えられた。

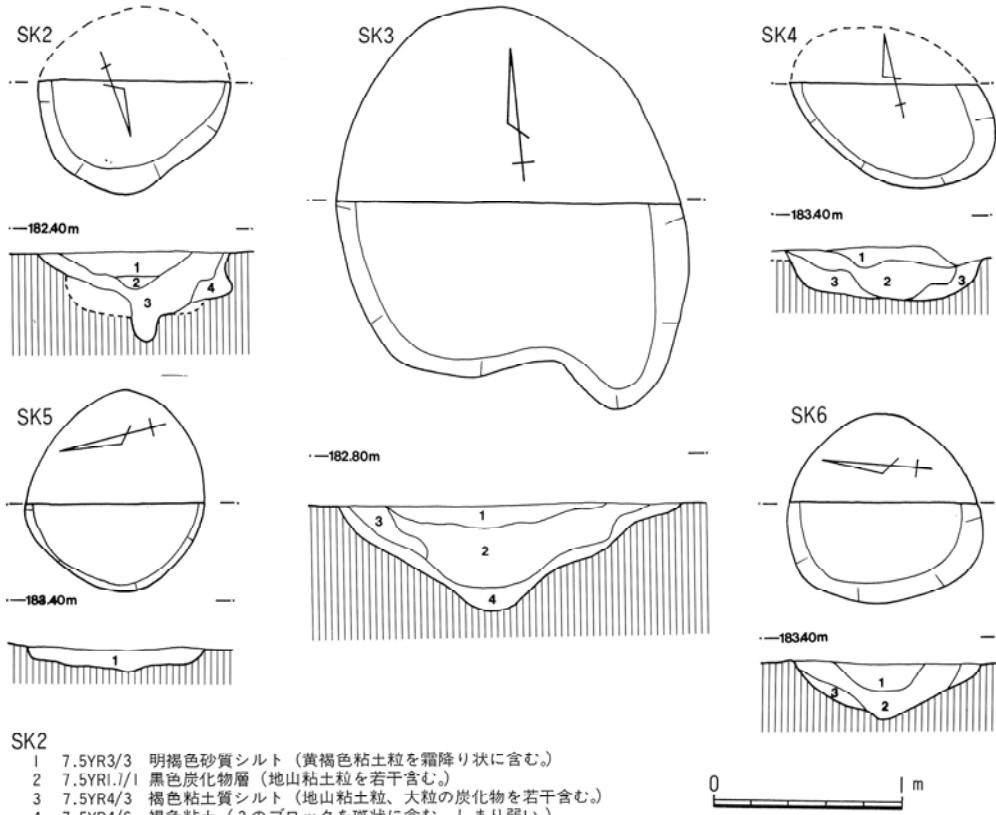
この試掘調査の結果をもとに東西50m、南北20mの範囲を調査区として設定し、重機により表土除去を行った。その後、地山まで人手で掘り下げ遺構、遺物の検出を行い、遺構の掘り下げ及び記録作業を行った。



第63図 松原遺跡概要図



第64図 松原遺跡遺構遺物分布図



0 1 m

SK3

- I 層 : 7.5YR3/2 黑褐色シルト (地山粘土粒を霜降り状に含む。)
地山 : 7.5YR5/6 明褐色粘土

SK4

- I 層 : 5YR3/3 暗赤褐色粘土質シルト (焼土)
2 7.5YR4/4 暗褐色粘土質シルト (7.5YR5/6 明褐色粘土の大ブロックを含む。)
3 7.5YR4/6 暗褐色シルト質粘土 (炭化物を若干含む。)

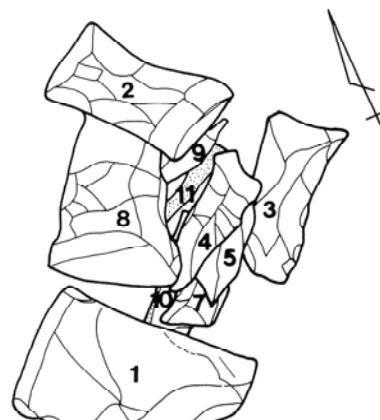
SK5

- I 層 : 7.5YR4/6 暗褐色粘土 (微細炭化物を若干含む。)

SK6

- I 層 : 10YR2/3 黑褐色シルト (炭化物を多量含む。)
2 7.5YR3/4 暗褐色砂質シルト (地山粘土粒を霜降り状に含む。)
3 7.5YR4/4 暗褐色シルト質粘土 (2のブロックを含む。やわらかい。)

I 層 : 7.5YR3/2 黑褐色シルト (地山粘土粒を霜降り状に含む。)
地山 : 7.5YR5/6 明褐色粘土



0 10 cm

第65図 松原遺跡遺構平面・断面図

遺跡の層序は試掘調査の結果と同様、地山の粘土粒を霜降り状に含む黒褐色シルトの表土の直下が地山の明褐色粘土となり、遺物は明褐色粘土の最上部から出土し、遺構の確認面も地山面である。以下に検出した遺構と遺物の概略を述べる。

検出遺構（第65図）

地山面で確認された土色変化は多いが、その多くは堆積土が柔らかく、近年の搅乱によるもので縄文時代の所産と断定できるものは少ない。

SK2は調査区の南西2—5区で検出された径1m程の円形プランの土壌で確認面からの深さは45cmを測る。底面は凹凸があり一部でオーバーハングしている。堆積土のIV層からNo153の土器が出土した。

SK3は2—4・5区で検出された径1.8m程の不整円形のプランを持つ土壌で確認面からの深さは55cmを測り、底面は中央部が摺り鉢状にくぼんでいる。

SK4は5—1・2区で検出された長径1.1mの楕円形のプランを持つ土壌で、確認面からの深さは28cmを測り、ほぼ平坦な底面から急角度で立ち上がっている。

SK5は5—2区で検出された径0.9mの円形のプランを持つ土壌で、底面はやや凹凸がある。深さは10cm、堆積土は1層で遺物の出土はない。

SK6は6—2区で検出された径1m弱の略円形のプランをもつ土壌で、底面はやや凹凸が認められる。確認面からの深さは30cmを測る。

土壌の他8—4区から興味深い遺構が検出された。No138として登録した石器の集中地点である。12点からなり、この中にはトランシェ様石器が4点含まれ（第67図138—2,7他）接合する縦長剝片4点もある。デポ、キャッシュと呼ばれる遺構であろう。

出土遺物

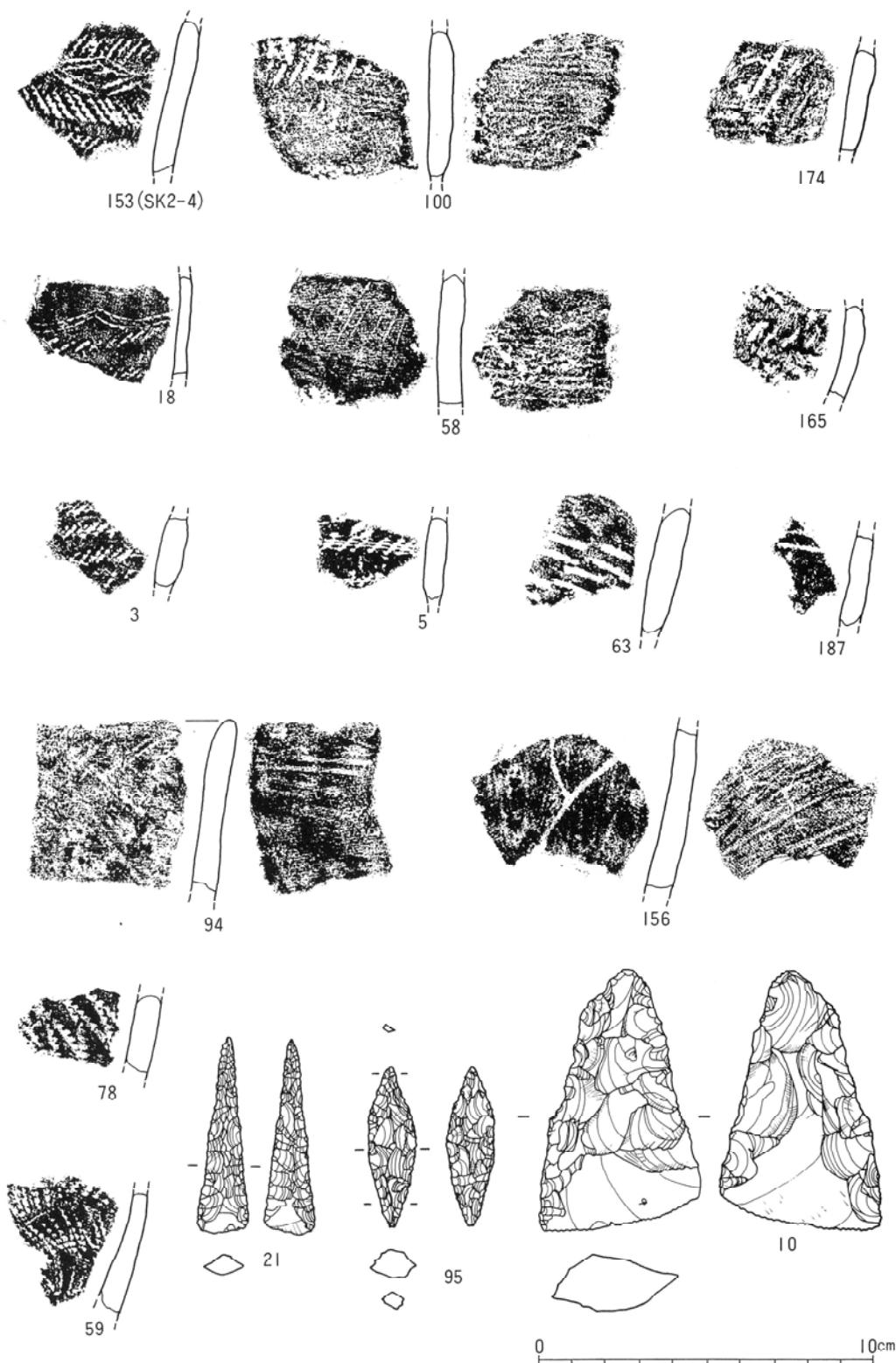
本遺跡からは整理箱にして2箱の遺物が出土した。このうち152点を登録して取り上げた。土器片が74点、トランシェ様石器13点、石籠14点、石鏃1点、石錐1点、スクレイバー6点等がある。

土器は貝殻腹縁圧痕文、条痕文、沈線文で文様が描かれており、大きく縄文時代早期の田戸上層式の範ちゅうで理解できるが、より北方からの影響が強いと考えられる。

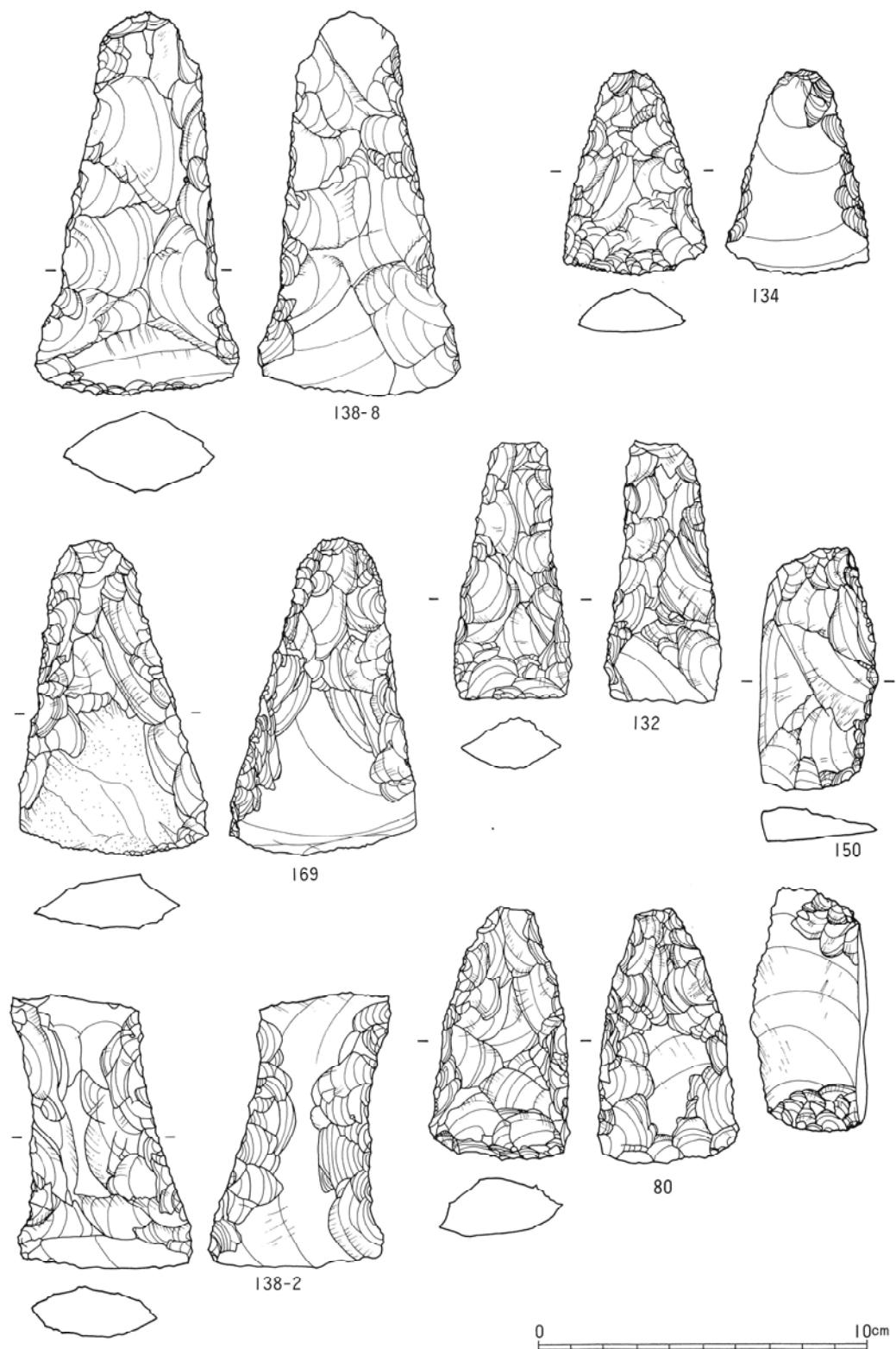
石器も当該期の特徴を反映しており、トランシェ様石器、石籠がその組成の多くの部分を占めている。

まとめ

本遺跡は縄文時代早期の集落跡で遺物の出土範囲等から東西50m、南北20m程の規模を持っていたと推定される。遺跡は後世の搅乱等で保存状況は良くなかったが、当該期の遺跡の発掘調査は庄内地方で初めてであり、貴重な資料になると思われる。



第66図 松原遺跡出土遺物拓影図・実測図



第67図 松原遺跡出土遺物実測図



遺跡近景（西から）



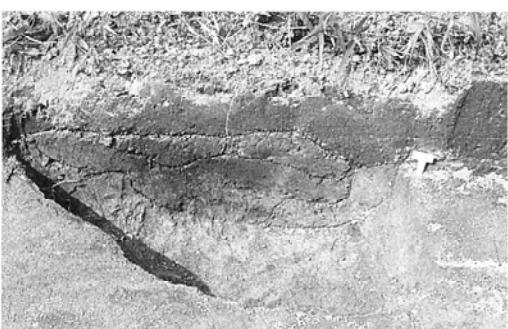
作業状況（西から）



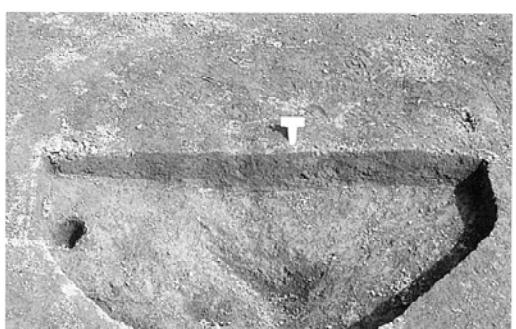
調査終了状況（西から）



SK 2半截状況（南から）



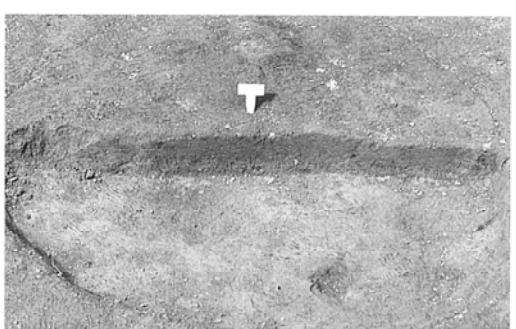
SK 4半截状況（南から）



SK 5半截状況（西から）



SK 6半截状況（西から）



SK 7半截状況（南から）

図版64 松原遺跡(Ⅰ)



土器出土状況



土器出土状況



石鏸出土状況



トランシェ様石器出土状況



トランシェ様石器一括埋納（1）



同左（2）



石籠他出土状況



トランシェ様石器出土状況

図版65 松原遺跡(2)



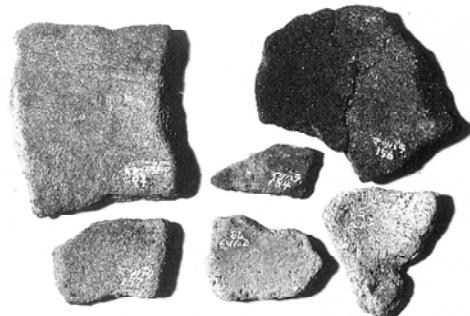
出土土器（1）



出土土器（2）



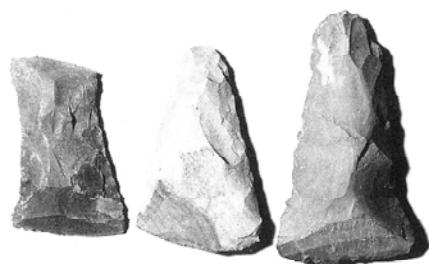
出土土器（3）表



出土土器（3）裏



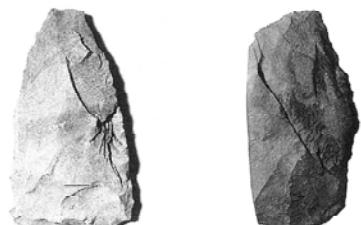
出土石器（1）



出土石器（2）



出土石器（3）



出土石器（4）

(3) 三田遺跡 (遺跡番号2127)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町吉出字三田・下長沢・扇田

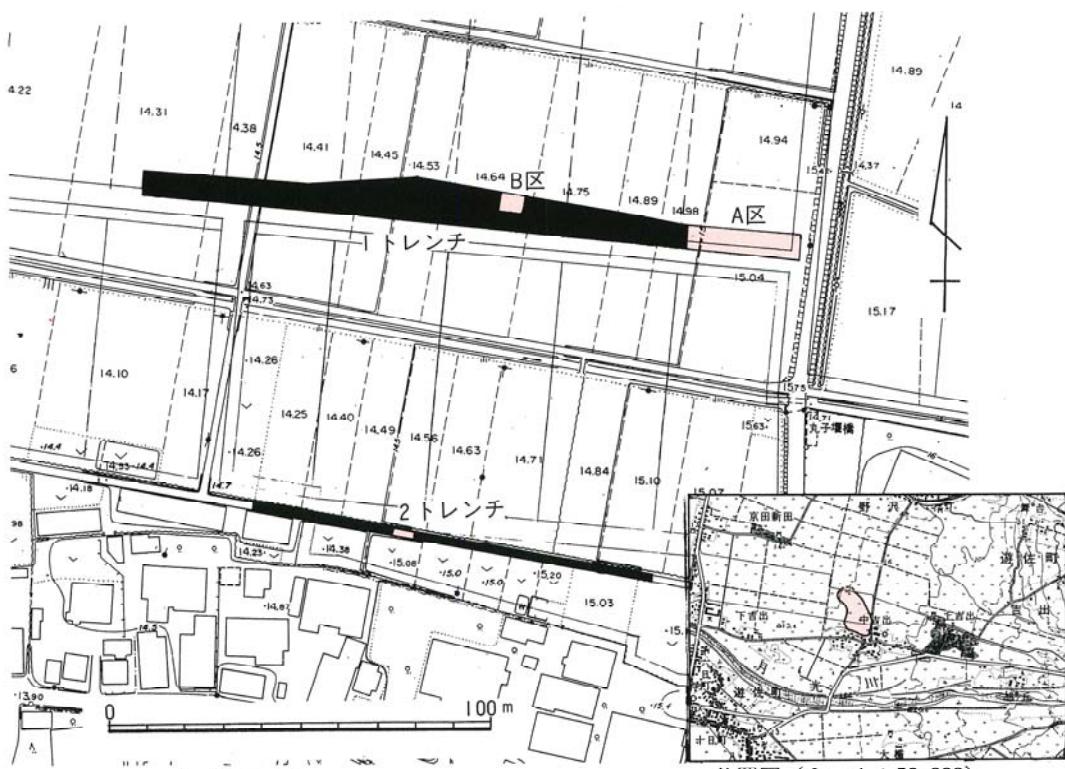
調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 立会い調査 平成3年7月8~12日

調査の概要 遺跡はJR遊佐駅の北東約1.5km、中吉出の集落の北側の水田中に位置する。現在は平坦化したが月光川右岸の自然堤防上の立地が考えられ、標高は14mを測る。

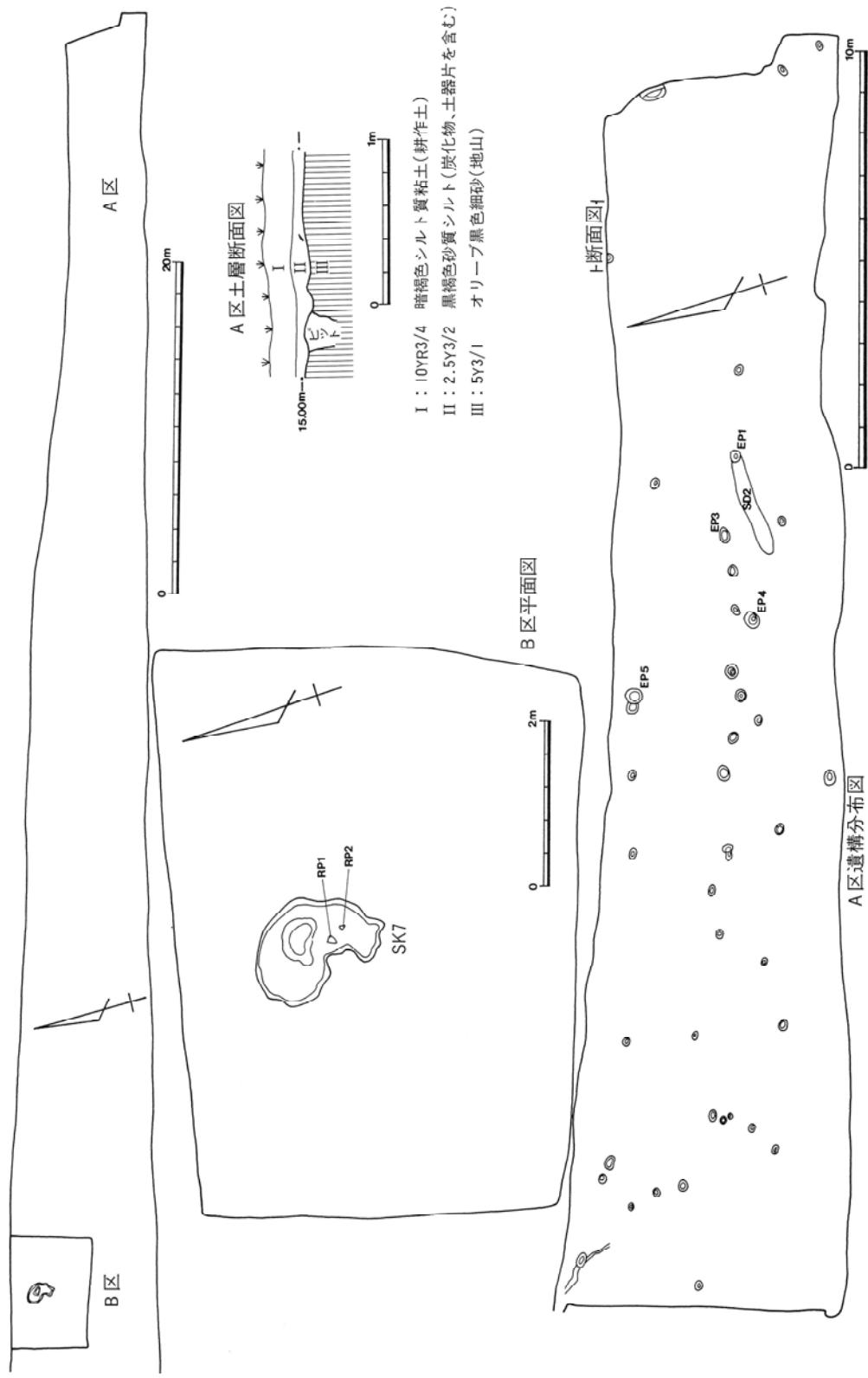
今回の調査は、県営ほ場整備事業（月光川右岸地区）に伴う立会い調査で、ほ場整備事業によって破壊される恐れのある用排水路部分を対象とした。遺跡内を通る用排水路は東西方向の2本で、北側（第1トレンチ）と南側（第2トレンチ）に調査区を設定した。重機械を使用して表土の除去を行い、人力で面整理、遺構検出を行った結果、1トレンチで2カ所、2トレンチで1カ所の遺構分布域を確認した。

1トレンチA区ではピット、溝跡が検出された。ピットの中で番号をふって登録したものは柱穴になる可能性がある。B区では不整なプランの浅い土壤が検出され、底面で赤焼土器坏が出土した（第70図4）。2トレンチでは有機物を含む旧河川跡が検出され、この堆積土から須恵器蓋、坏等が出土した（第71図1~3）。年代的には、1トレンチの出土遺物は10世紀を前後する時期、2トレンチは9世紀前半と考えられる。

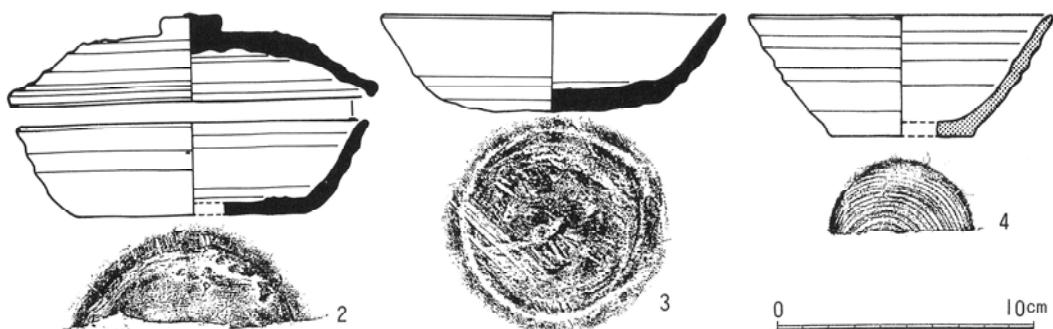


第68図 三田遺跡概要図

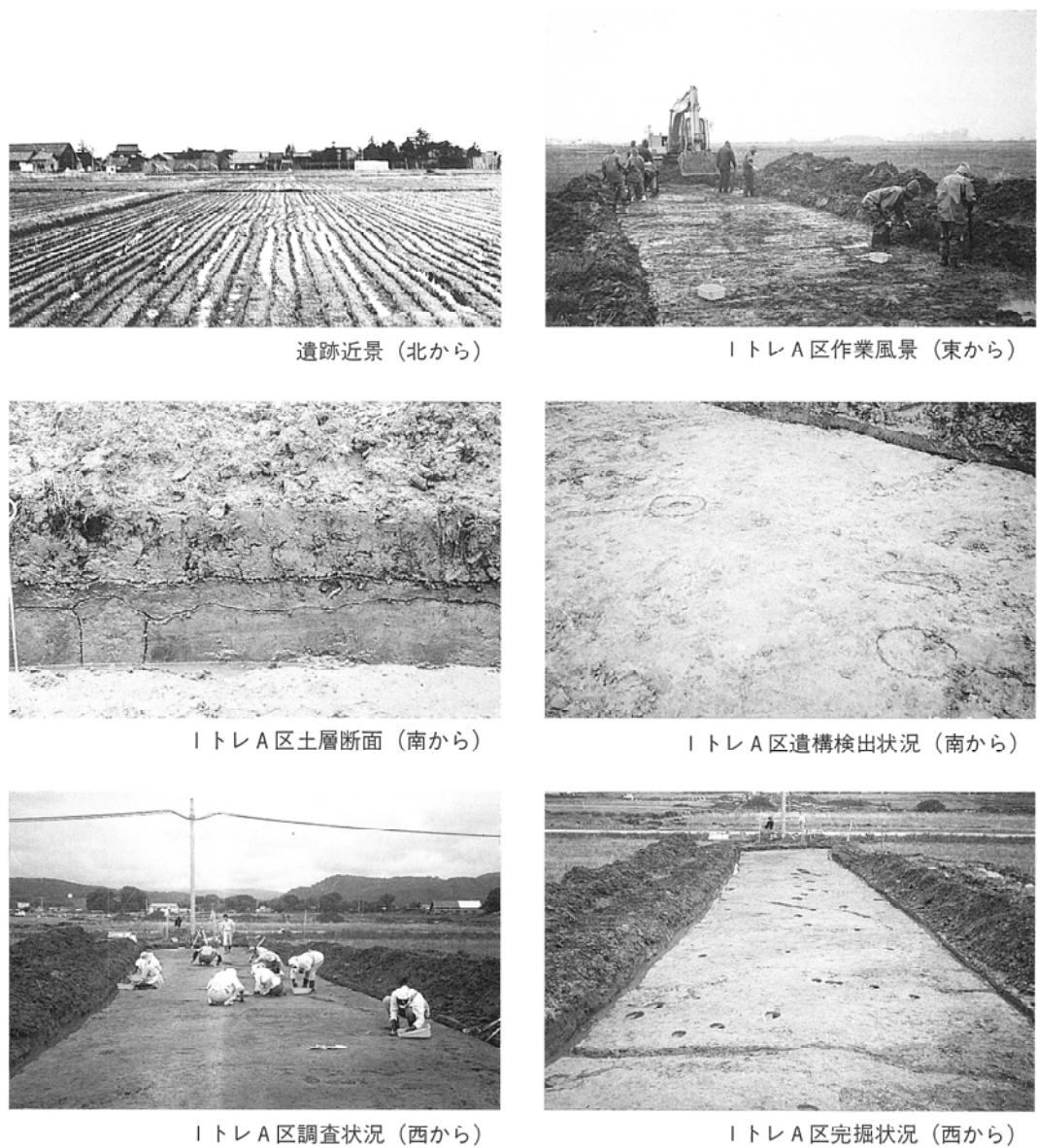
+ I - 8区 + I - 7区 + I - 6区 + I - 5区 + I - 4区 + I - 3区 + I - 2区 + I - 1区 +



第69図 三田遺跡遺構分布図、平面・断面図



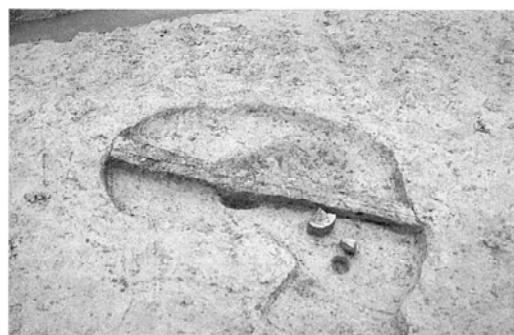
第70図 三田遺跡出土遺物実測図



図版67 三田遺跡(Ⅰ)



IトレA区完掘状況（東から）



IトレB区SK7全景（南から）



2トレ須恵器出土状況



須恵器蓋



須恵器壺(1)



須恵器壺(2)



須恵器壺



赤焼土器壺(RPI)

図版68 三田遺跡(2)

(4) 熊手島遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県酒田市大字熊手島

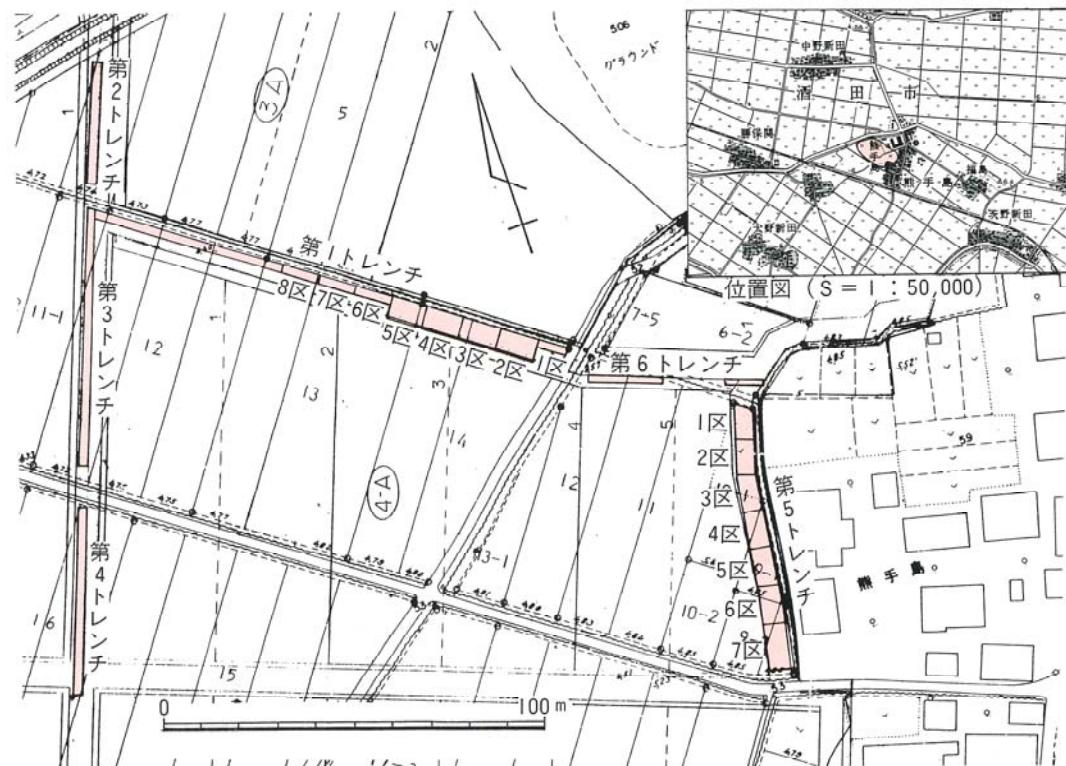
調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調 査 期 日 立会い調査 平成3年8月26~30日

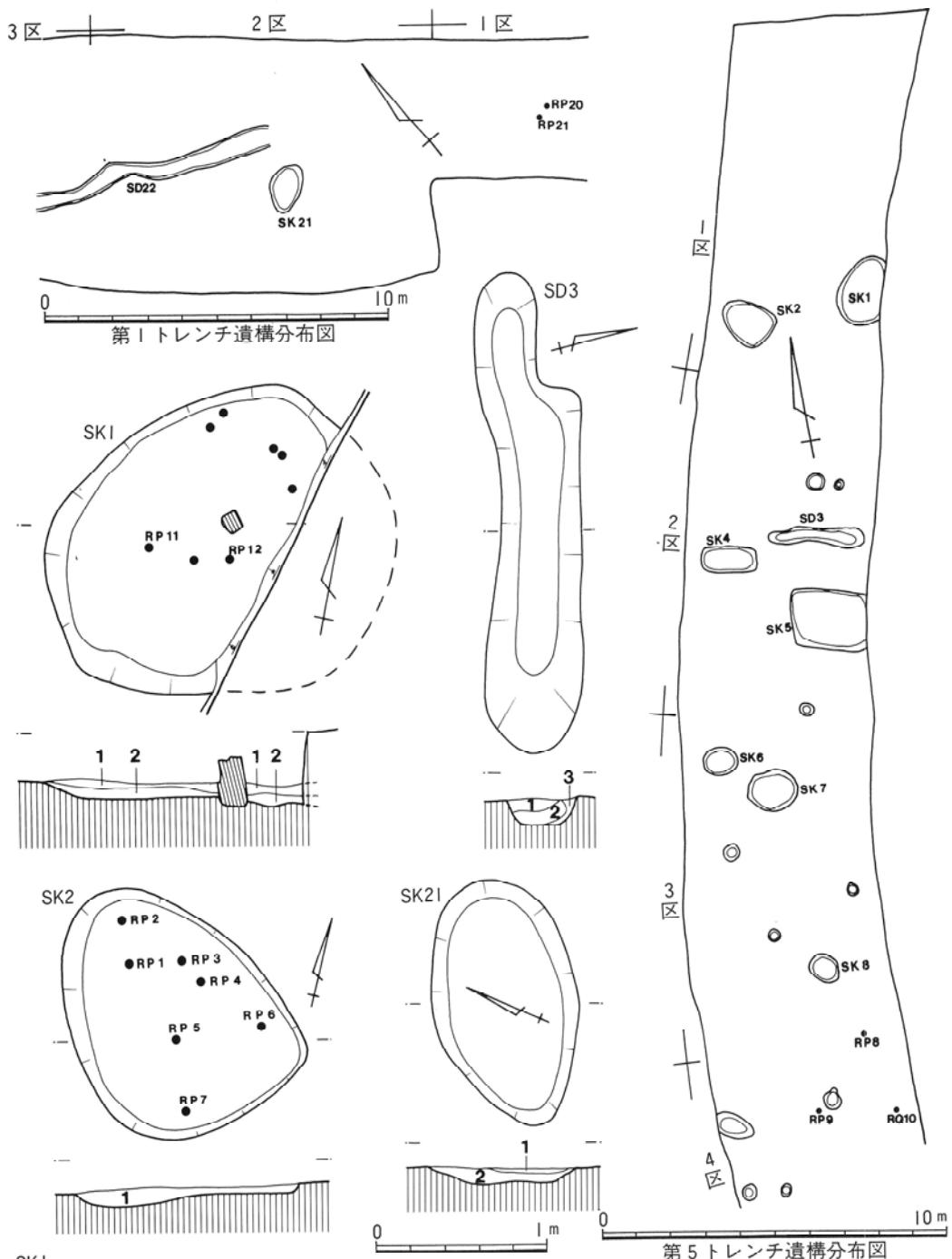
調査の概要 遺跡は酒田市熊手島の、中平田小学校グラウンド西側一帯の水田中に位置している。標高は4.7m前後を測る。地形は北及び西方に若干傾斜する沖積地で、遺跡の立地する範囲は少し高まりがあるところである。熊手島の地名は熊野田、手蔵田、福島の各集落からの分村であったことに由来する。

本遺跡は平成元年11月に県教育委員会が実施した、県営ほ場整備事業（中平田西地区）の採択予定地内の遺跡詳細分布調査で発見・登録された遺跡である。平成2年10月に試掘調査を行い、遺跡の範囲と包含状態等その内容の把握を行った。この資料をもとに県農林水産部と工法等について協議を行い、面工事にかかる大部分は現状保存の見通しが得られたが、掘削を伴う用排水路部分については、立会い調査で記録保存を図ることで合意が得られた。

今回の立会い調査はこの合意事項に基づいて実施したもので、調査は事業対象地区の用排水路施設部分に限定し、この部分に6ヶ所のトレンチを設定した。重機械で表土を除去



第71図 熊手島遺跡概要図



SK1
 1 5GY4/I 暗緑灰色粘土（炭化物若干含む。）
 2 10YR1.7/I 黒色シルト質粘土（有機物、木灰を多量含む。）

SK2
 1 10YR1.7/I 黒色シルト質粘土（炭化物、有機物を多量含む。）

SD3
 1 2層、3層が混り合う。
 2 5Y2/I 黒色粘土
 3 5G4/I 暗緑灰色粘土

SK21
 1 2.5Y3/2 黒褐色シルト質粘土
 2 10YR1.7/I 黒色粘土質シルト（有機物、木灰を多量、5G4/I 暗緑灰色粘土ブロックも多量含む。）

※断面図水準は標高4.80m

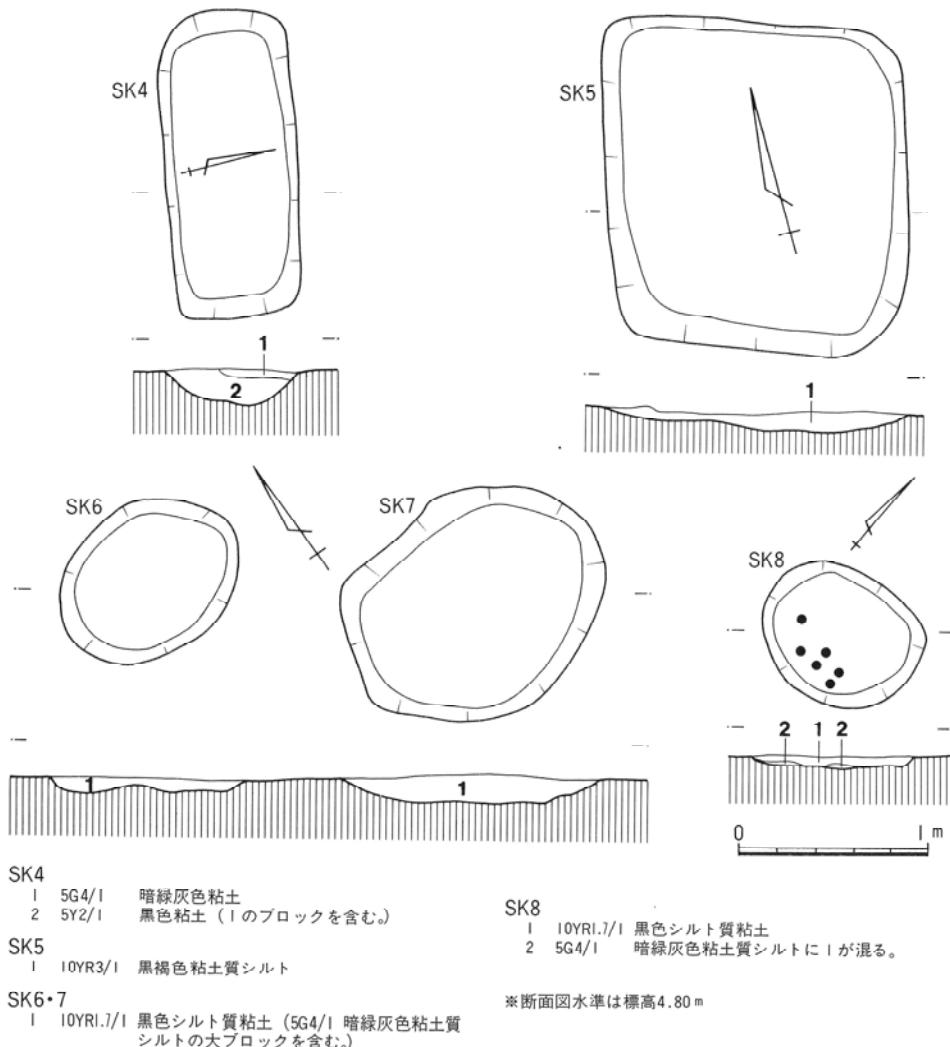
第72図 熊手島遺跡遺構分布図他

した後、遺構検出、精査、記録を実施した、調査した各トレンチから遺物が出土したが5トレンチ、1トレンチ東半部以外は、細片で二次堆積の様相が窺えた。以下に検出した遺構、遺物について略述する。

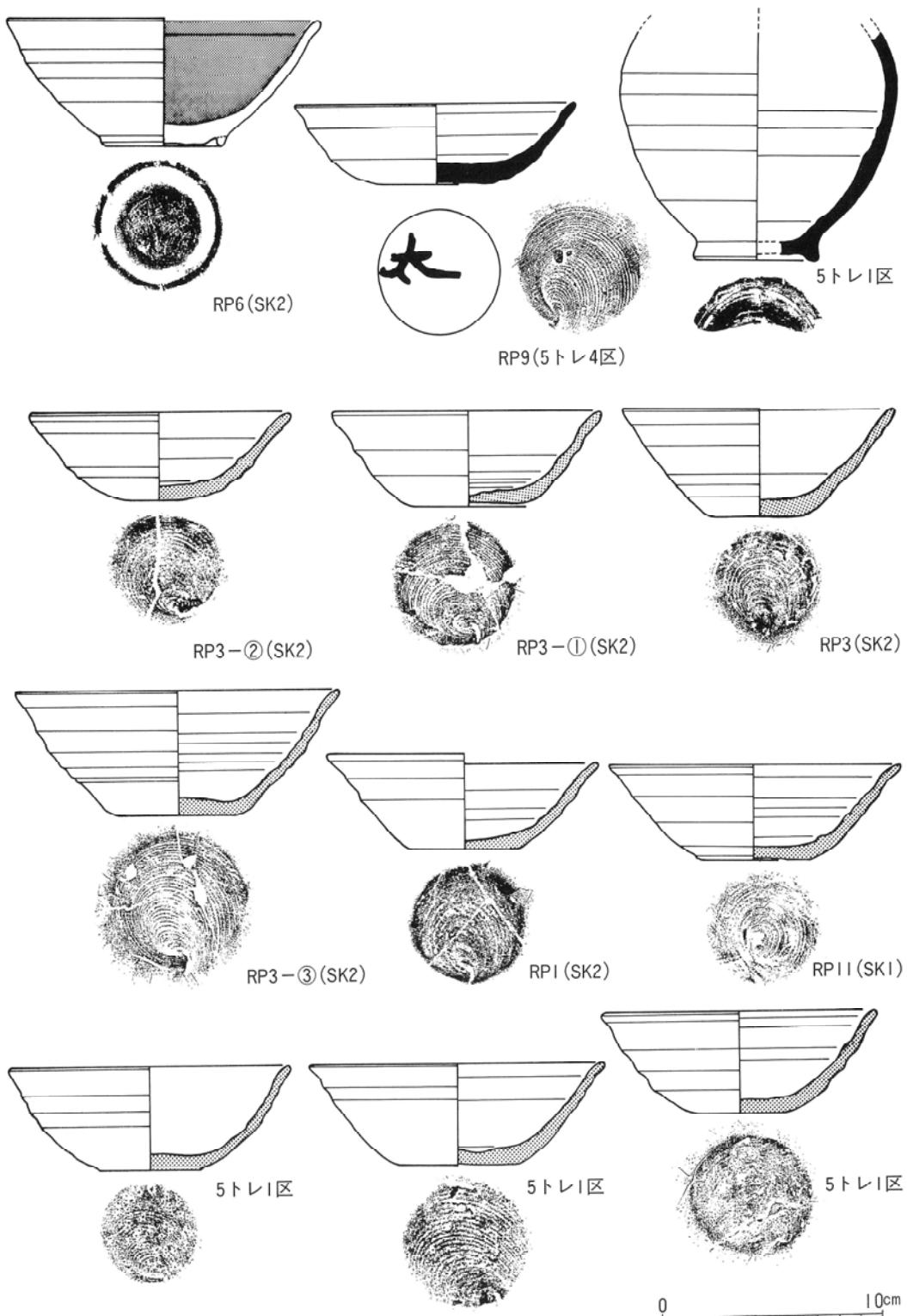
検出遺構

遺構は上述の二ヵ所で検出された。1トレンチではSK21、SD22が検出された。SD22は幅0.4~0.5m深さ3~10cmを測り、延長約10mにわたって検出した（図版69）。

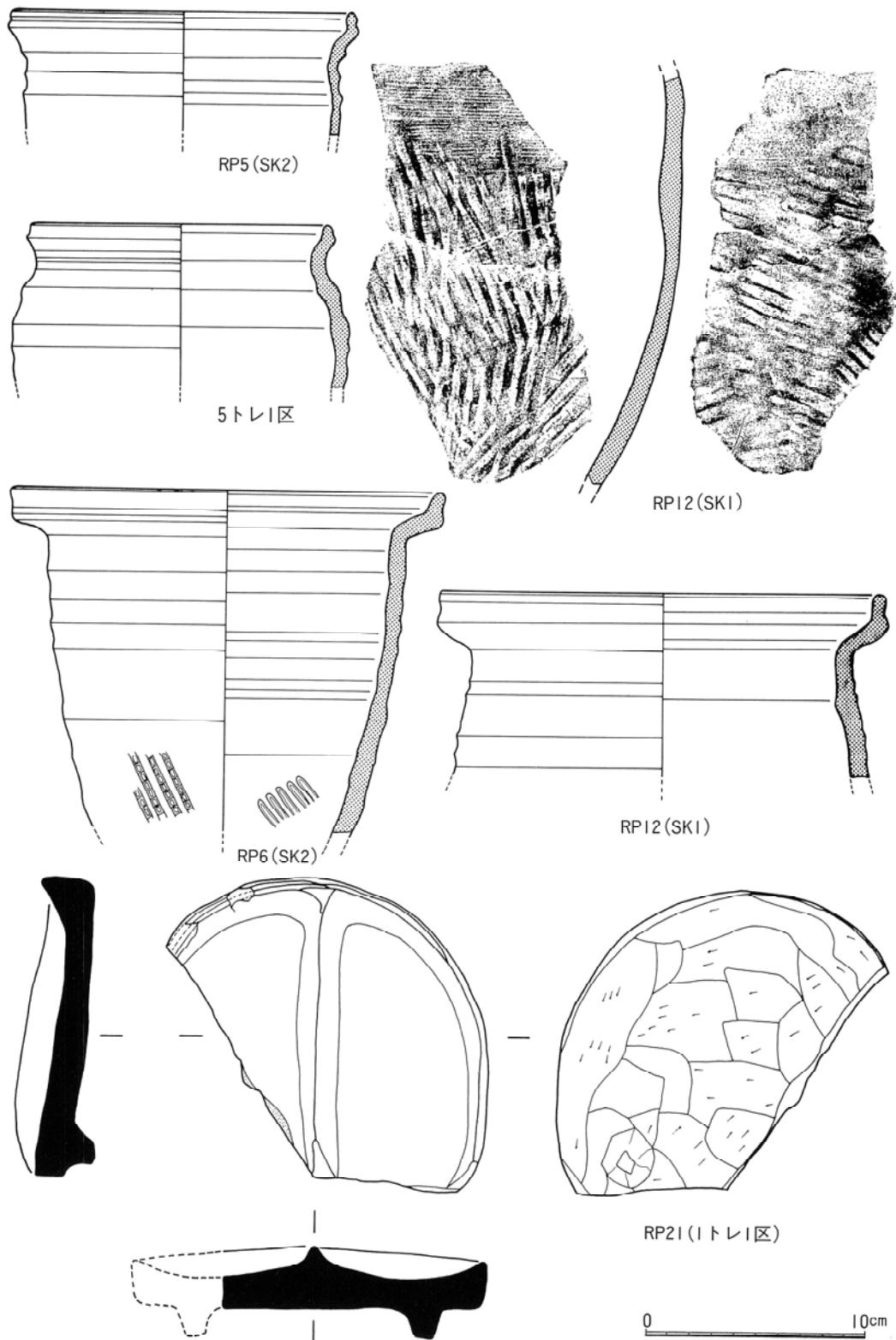
5トレンチでは土壌7基、溝状遺構1条、ピット等を検出した（第72・73図）。土壌のうちSK1、2からは赤焼土器の完形品を含む一括土器が多数出土した。SK6、7、8の各土壌も堆積土から判断して平安時代の所産と考えられるが、SD3、SK4、5は時代が降る可能性がある。



第73図 熊手島遺跡遺構平面・断面図



第74図 熊手島遺跡出土遺物実測図(1)

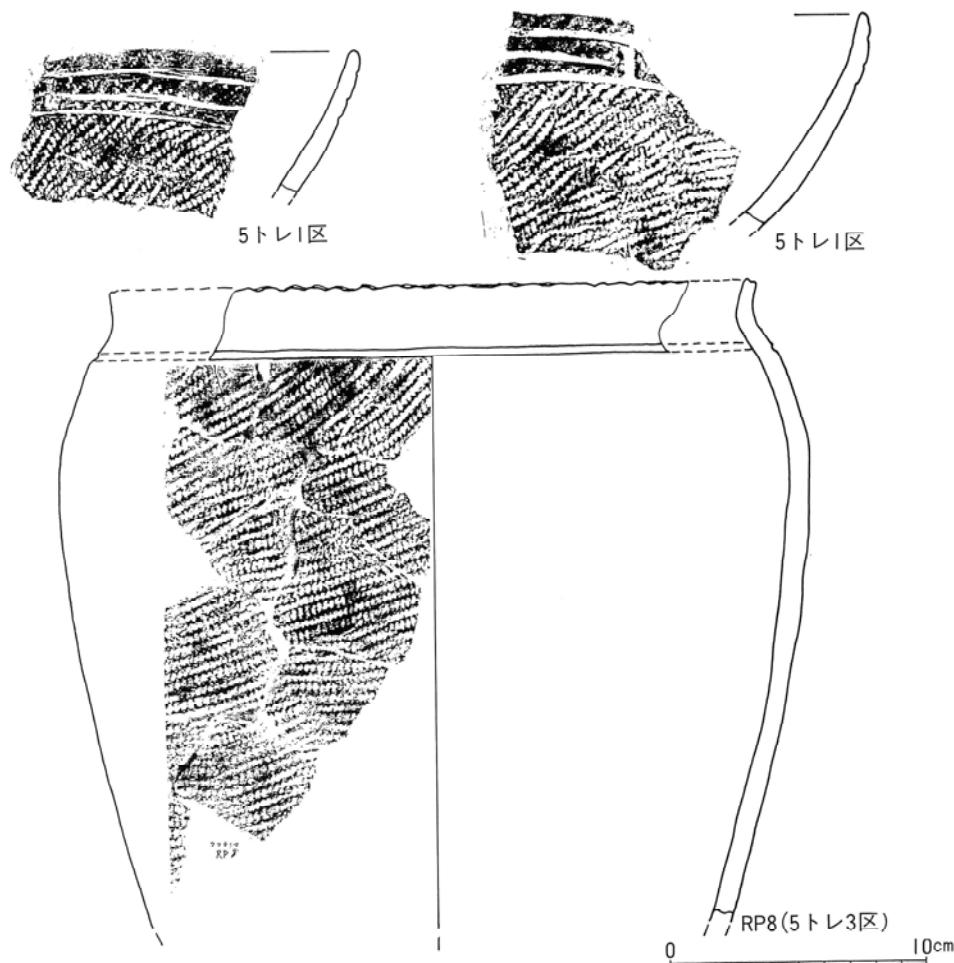


第75図 熊手島遺跡出土遺物実測図(2)

1トレンチ、5トレンチで検出された遺構はいずれも浅く、後世の削平が著しかったものと想定できる。

出土遺物

今回出土した遺物は整理箱で5箱を数え、この大半は1トレンチ、5トレンチから出土している。平安時代の遺物には内黒の土師器壺(第74図RP6)、「太」の墨書銘がある須恵器壺(同RP7)、赤焼土器壺(同RP3他)の供膳器と貯蔵用の須恵器壺(同5トレンチ1区)、煮沸用の赤焼土器甕(第75図RP6、12他)がある。これらのうち、須恵器壺は単独出土であり9世紀初頭頃、その他は9世紀後半頃の所産と考えられる。RP21は二面硯で左側陸部には摩耗はなく、全く使用の痕跡は認められない。壊れてから入手、使用したと考えられる。第76図は5トレ1区及び3区から出土した縄文土器である。工字文が描かれており大洞A式期に相当する。この他凹石が1点出土した。



第76図 熊手島遺跡出土遺物拓影実測図(3)



遺跡遠景 (西から)



トレ観出土状況



SK 21全景 (南から)



トレス D 22全景 (東から)



5 トレ遺構検出状況 (南から)



SK 1 検出状況 (南から)



SK 1 遺物出土状況 (南から)

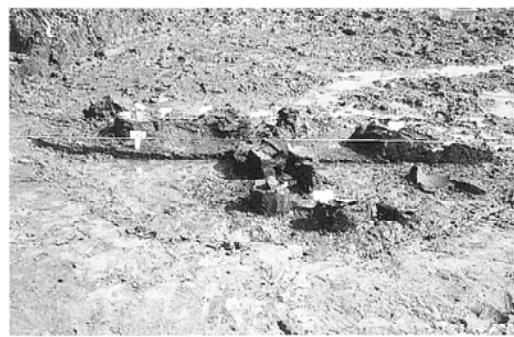


SK 1 全景 (南から)

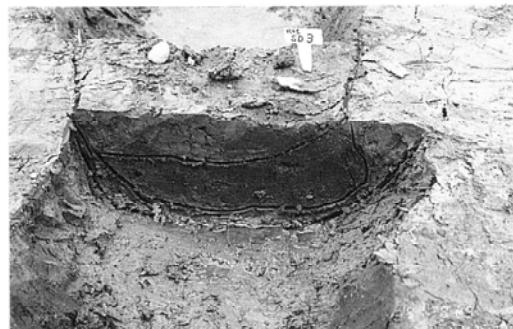
図版69 熊手島遺跡(1)



SK 2 検出状況（南から）



SK 2 土層断面（南から）



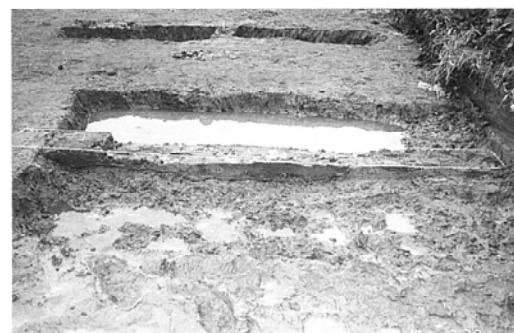
SD 3 土層断面（東から）



SD 3 全景（南西から）



SK 4 土層断面（南から）



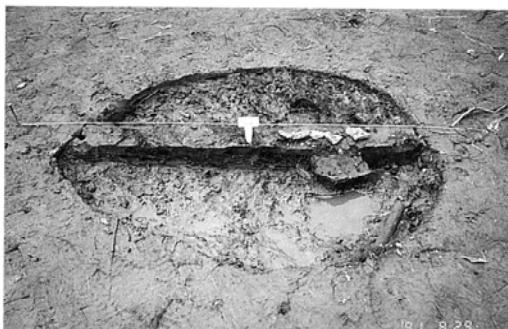
SK 5 土層断面（南から）



SK 6 土層断面（南から）



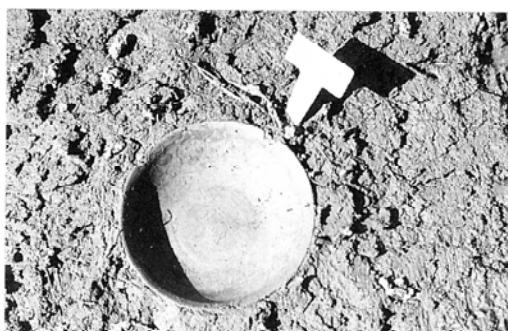
SK 7 土層断面（南から）



SK 8 土層断面（南から）



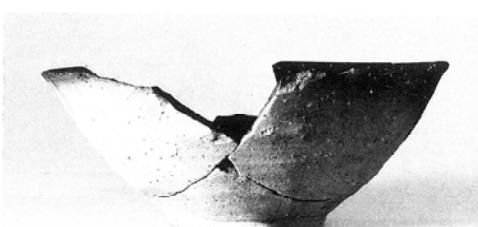
5 トレ全景（南から）



5 トレ須恵器壊 (RP 9) 出土状況（南から）



5 トレ 繩文土器 (RP 8) 出土状況（北から）



RP 6 (SK 2)



RP 9



5 トレ I 区



RP 3 -②



RP 3 -①

図版71 熊手島遺跡(3)



R P II



5 トレイ区



R P I



R P 5



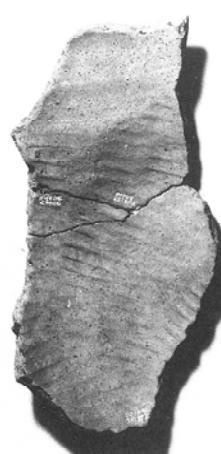
R P 12



R P 6



R P 12



5 トレイ区



図版72 熊手島遺跡(4)



R P 21



R P 8

(5) 外久保遺跡 (昭和63年度登録)

所 在 地 山形県新庄市大字仁間磯の沢321-3外

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 B調査 平成3年4月25・26日 立会い調査 10月31日～11月1日

調査の概要 遺跡はJR新庄駅から南西へ約3kmの、新田川の扇状地上に立地する。標高は87mを測り、地目は畠地、宅地、山林、水田である。

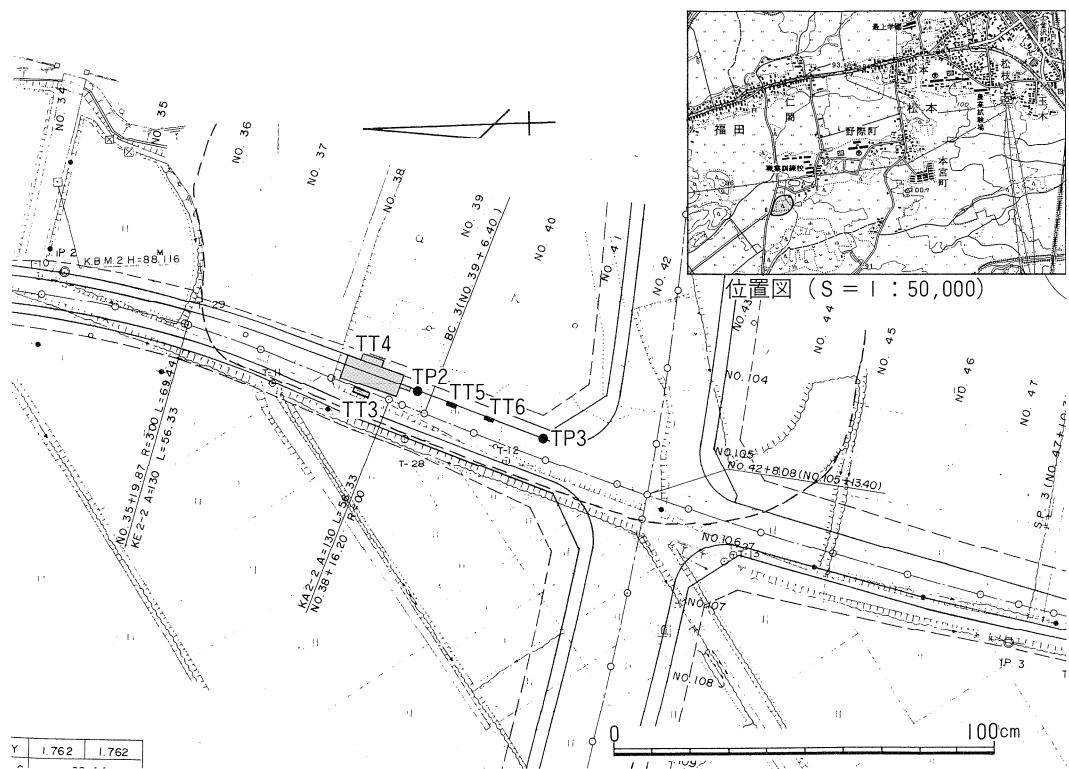
主要地方道新庄・次根子・村山線の現道拡幅の局部改良工事に伴い、その調整に資するため4月に試掘調査を行い、その結果に基づいて11月に立会い調査を実施した。

試掘調査では3カ所の坪掘りと6カ所のトレンチ調査を行い、道路用地内的一部分に縄文時代の遺物包含層が存在することが明かとなった。

立会い調査ではこの地点に東西6m南北17mの矩形の調査区を設定し、重機械を使用して表土の除去を行い、その後手掘りによって包含層の掘り下げを行った。

その結果、予想した通り遺構の検出はなく、III層中から縄文時代の土器片、石器27点を検出して調査を終了した。

縄文土器はいずれも細片で時期決定の根拠を欠くが、第78図6のエンドスクレイパーに類似する搔器の存在から、縄文早期もしくは中期末の年代が考えられる。



第77図 外久保遺跡概要図

(5) 外久保遺跡 (昭和63年度登録)

所 在 地 山形県新庄市大字仁間磯の沢321-3外

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成3年4月25・26日 立会い調査 10月31日～11月1日

調査の概要 遺跡はJR新庄駅から南西へ約3km、新田川の扇状地上に立地する。標高は87mを測り、地目は畠地、宅地、山林、水田である。

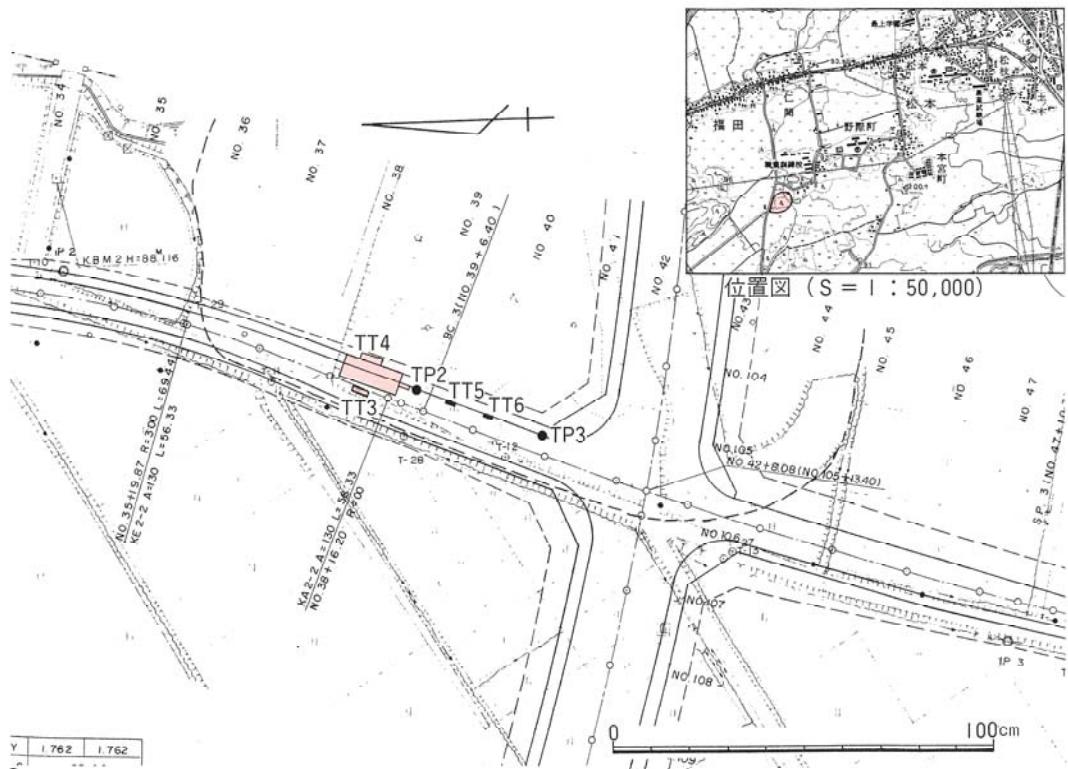
主要地方道新庄・次根子・村山線の現道拡幅の局部改良工事に伴い、その調整に資するため4月に試掘調査を行い、その結果に基づいて11月に立会い調査を実施した。

試掘調査では3カ所の坪掘りと6カ所のトレンチ調査を行い、道路用地内的一部分に縄文時代の遺物包含層が存在することが明かとなった。

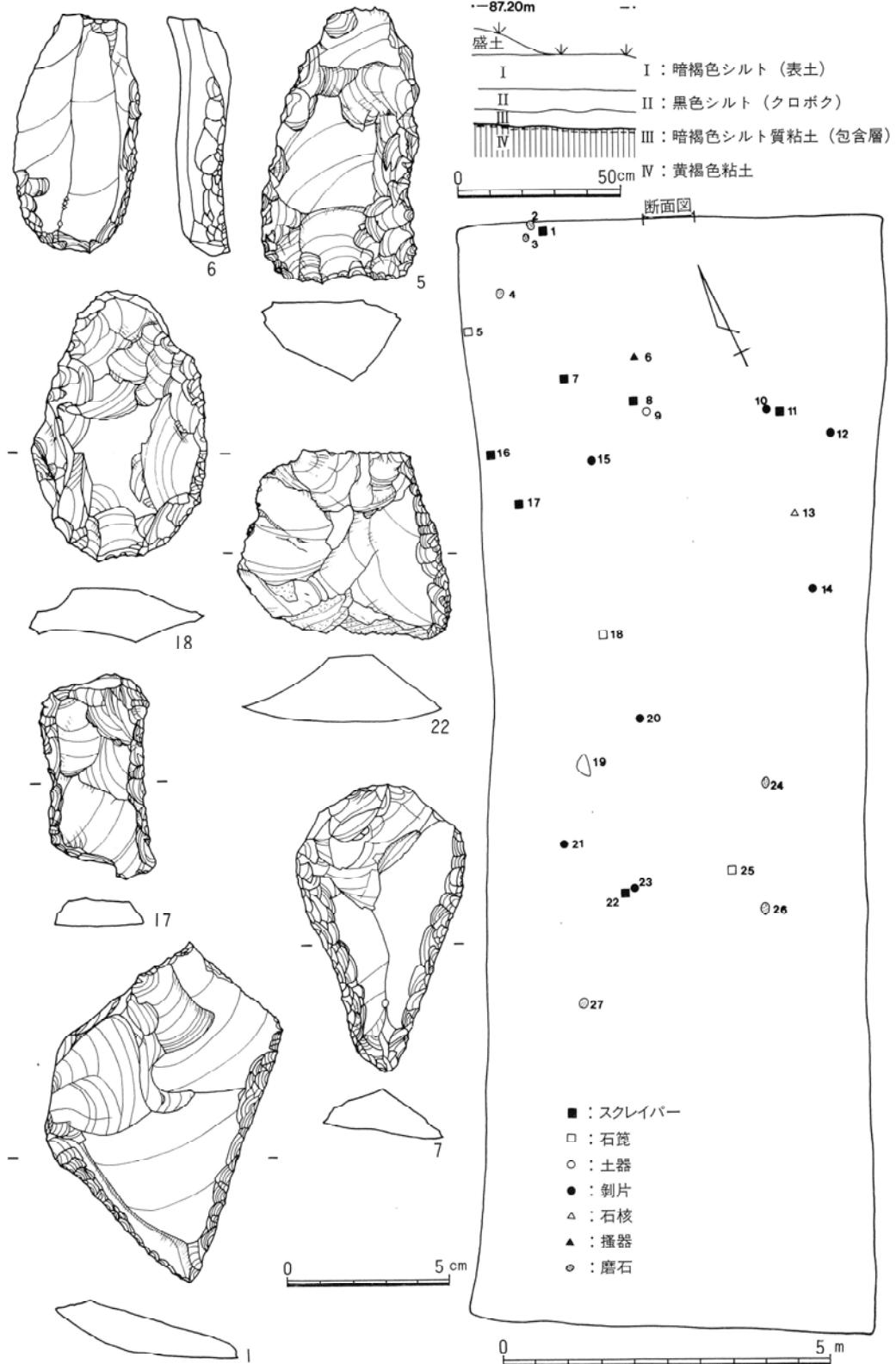
立会い調査ではこの地点に東西6m南北17mの矩形の調査区を設定し、重機械を使用して表土の除去を行い、その後手掘りによって包含層の掘り下げを行った。

その結果、予想した通り遺構の検出はなく、III層中から縄文時代の土器片、石器27点を検出して調査を終了した。

縄文土器はいずれも細片で時期決定の根拠を欠くが、第78図6のエンドスクレイパーに類似する搔器の存在から、縄文早期もしくは中期末の年代が考えられる。



第77図 外久保遺跡概要図



第78図 外久保遺跡遺物分布図・石器実測図



遺跡遠景（西から）



試掘調査状況（北から）



トレンチ全景（北から）



立会い調査表土除去（北から）



立会い調査状況（北から）



土層断面（南から）

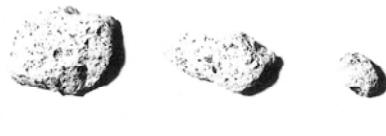


石器出土状況（南から）



立会い調査区全景（北から）

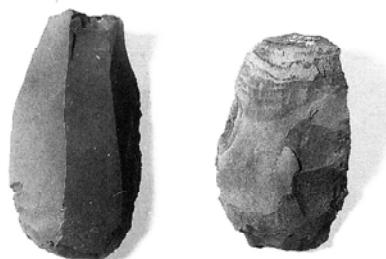
図版73 外久保遺物(1)



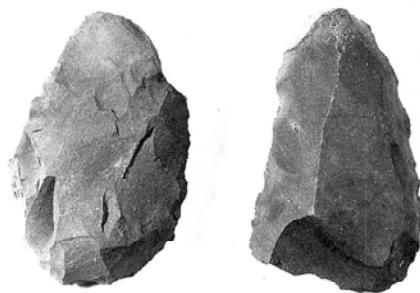
出土土器



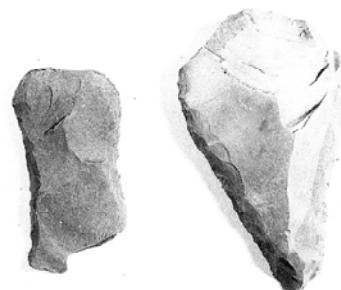
搔器、スクレイパー



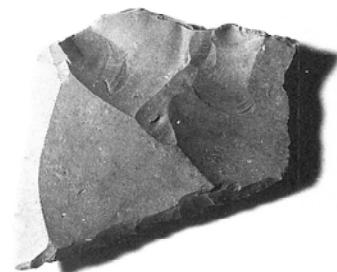
搔器、石箒



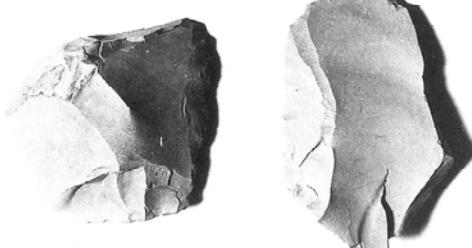
石箒



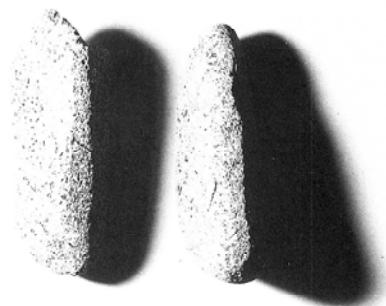
スクレイパー（1）



スクレイパー（2）



スクレイパー（3）



磨石

(6) 堤田遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県西置賜郡小国町大字足野水字堤田

調査員 渋谷孝雄 高橋直

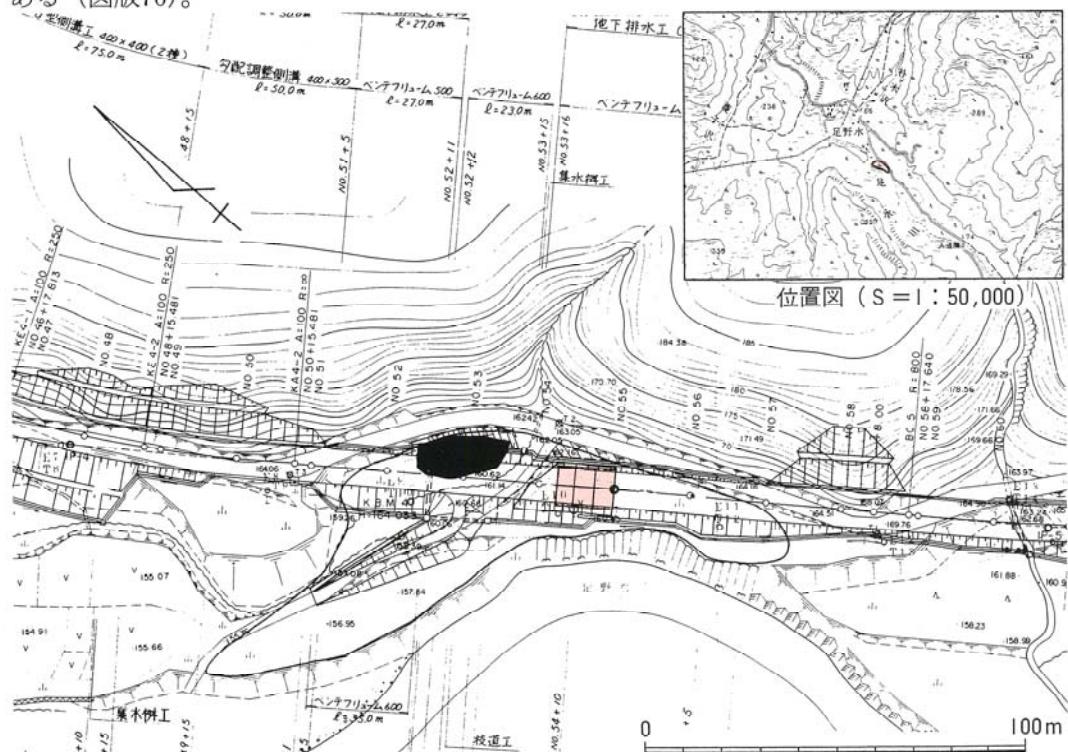
調査期日 立会い調査 平成3年6月17~21日

調査の概要 遺跡は足野水集落の南東約300mに位置する。足野水川の右岸段丘上に立地し、地目は畠地、荒地である。

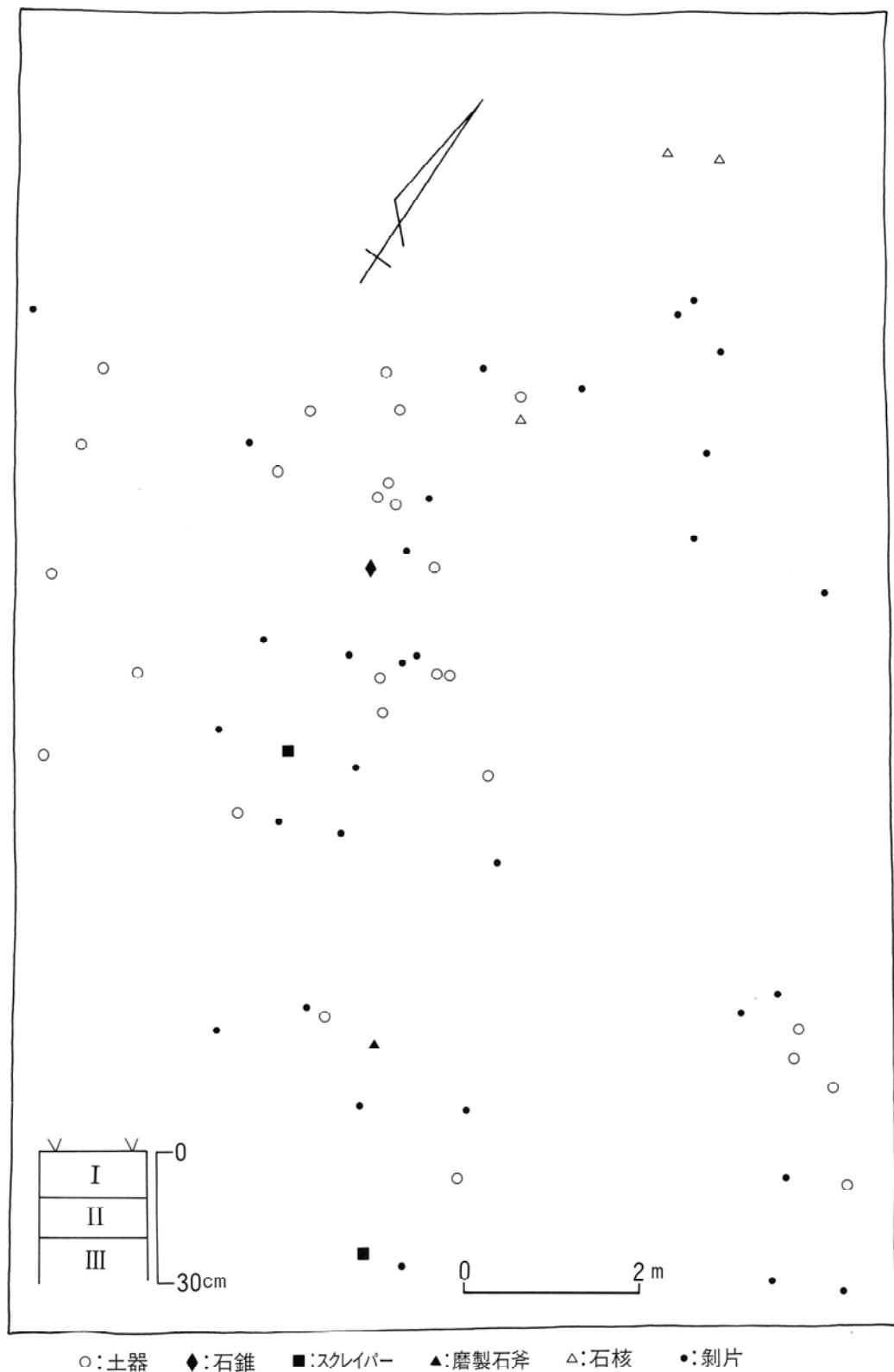
平成元年の一般県道下新田土尾線の凍雪害防止工事（市野沢地区）にかかる遺跡詳細分布調査で発見登録された遺跡で、平成2年10月に同事業との調整を図る目的で試掘調査を実施した。

その結果、縄文時代前期初頭の土器が出土し、一部で遺構とみられる土色変化も確認されたが、分布密度はきわめて低いと判断されたため、工事前の立会い調査で記録保存を図ることとなった。

立会い調査では、農道の東をA区、西をB区として路線内の表土を重機で除去したあと手掘りで地山まで掘り下げた。その結果、B区では遺物も遺構も未検出であり、A区の東西15m南北10mの範囲内から65点の土器片、石器が出土したに留まった。明確な遺構はない。遺物は縄文時代前期の羽状縄文の土器片、石錐、石斧、スクレイパー、石核、剝片がある（図版76）。



第79図 堤田遺跡概要図



第80図 堤田遺跡遺物分布図

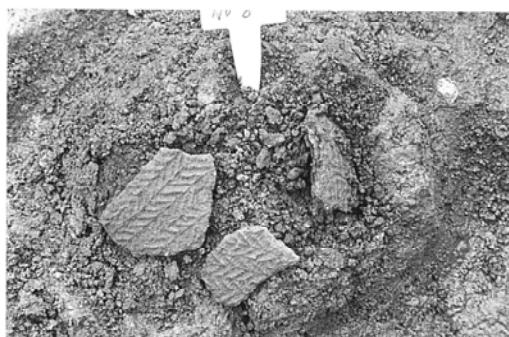


A区表土除去状況（西から）



A区調査状況（西から）

図版75 堤田遺跡(Ⅰ)



A区土器出土状況（1）



A区土器出土状況（2）



A区調査状況（西から）



B区表土除去（東から）



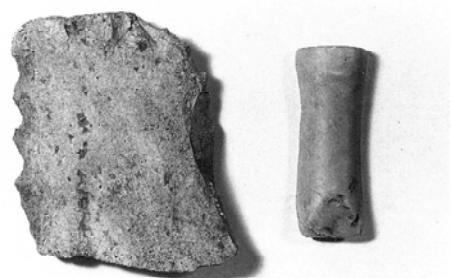
出土土器（1）



出土土器（2）



出土石器（1）



出土石器（2）

(7) しろがね
白金遺跡 (遺跡番号868)

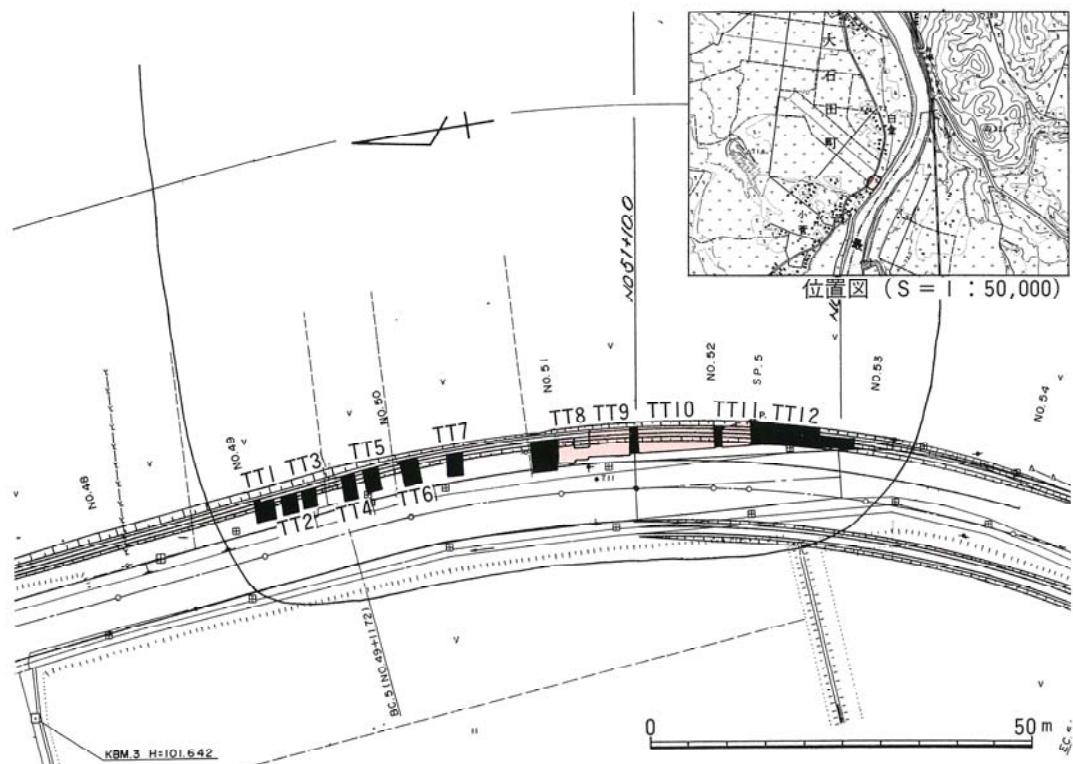
所 在 地 山形県北村山郡大石田町白金

調 査 員 佐藤庄一 阿部明彦 須賀井新人

調査期日 B調査 平成3年10月7~9日 立会い調査 10月15日

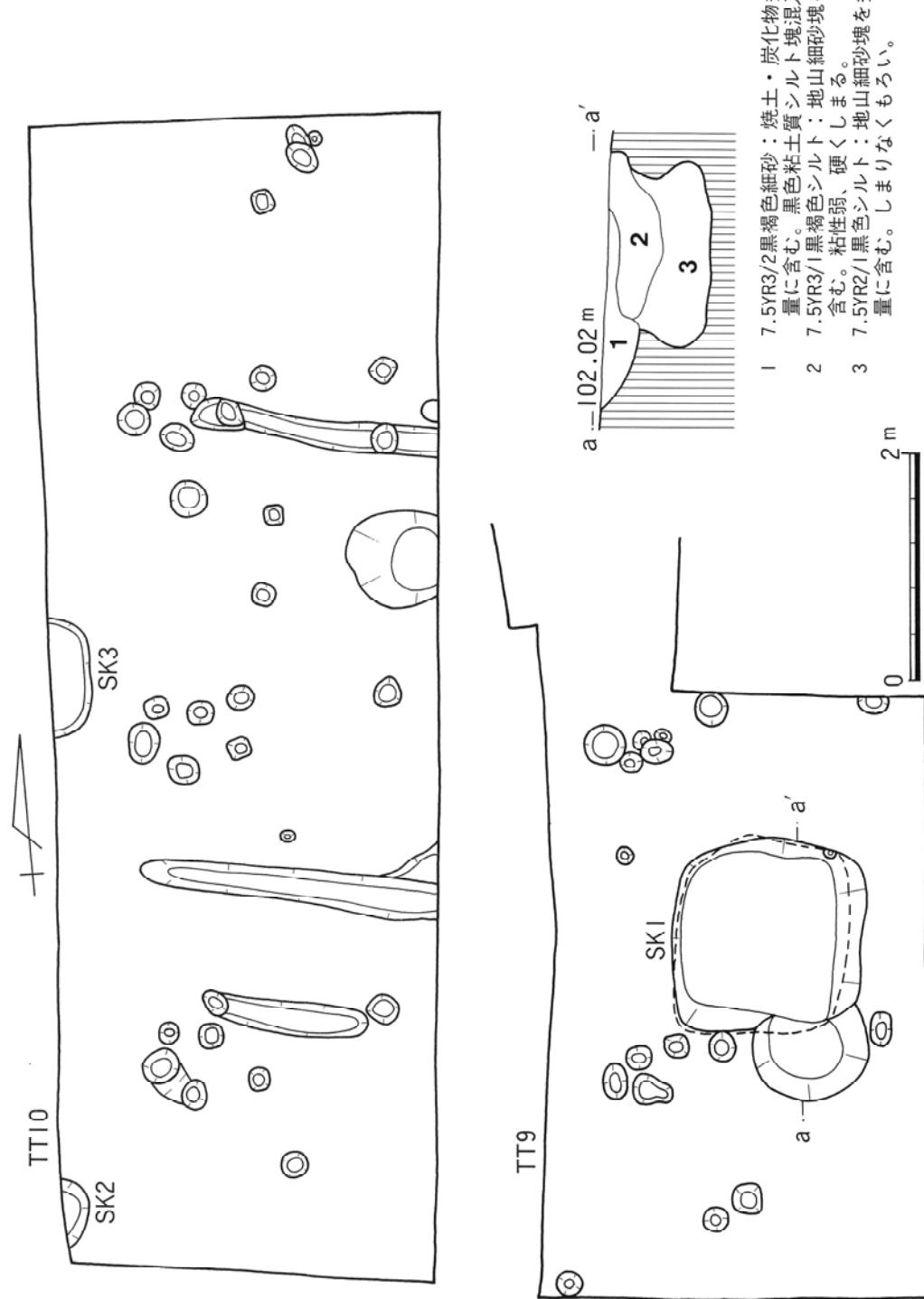
調査の概要 遺跡はJR東日本奥羽線大石田駅の南約3km、小菅集落の北に隣接した位置にある。遺跡の立地は三難所を過ぎて北流する最上川の左岸に発達した段丘線辺部であり、西に向かってなだらかな起伏をもつ水田・畑作地帯が出羽丘陵まで連続する。遺跡の標高は72mを測り、地目は畑地となっている。

今回の調査は、一般県道横山境ノ目線凍雪害防止工事の施工に伴って、範囲確認及び記録保存を目的として行なった。試掘調査に先行して実施した表面踏査では、事業実施予定区域を含む現県道東側で、東西約50m×南北約100mの範囲にわたって多量の土器片、石器、剝片等遺物の散布を確認した。その結果をもとに事業実施区域内に12箇所の試掘トレーンチを設定し、重機による表土剥ぎ取りを行ない、その後遺構検出作業、遺構掘り下げ作業及び記録作業を進めた。調査区内の土層は一見安定した堆積を示すようであったが、表面の遺物散布に比較して出土量が少なく、畑地耕作等による破壊が進行しているものと推測された。遺構・遺物が検出されたのはTT8以南である。



第81図 白金遺跡概要図

第82図 白金遺跡遺構配置図



検出遺構 調査区内における表土からIV層までの土層堆積状況は、調査区南半で20～30cm、北半では80cm～1mと厚くなり、地山面では表土面に比較してかなり起伏のある地形となる。今回の調査で遺構・遺物が検出されたのは南半部分のTT8～11の4箇所である。その内訳は、フラスコ状土壙1基、小土壙4基、溝跡3条、小ピット等である。フラスコ状土壙(SK1a)はTT9～4層上面で検出された。径約1.6mの隅丸方形の平面プランをもつ。堆積土中からは凹石が出土したが詳細な時期決定資料を欠く。SK1bに切られる。TT10検出の3基の土壙はその出土遺物から縄文時代前期初頭に比定し得るが、SK3からは抉入状耳飾1点が出土しており、遺構の平面形からしても墓壙である可能性が強い。溝跡からの出土遺物はないが、付近から須恵器片が出土しておりますいは平安時代のものとも考えられる。小ピットの大半は現道に併行していくつかのブロックが形成されており、堆積土にもしまりがない。ハセ掛けの杭跡と考えられる。

出土遺物 今回の調査では縄文土器片、石鏃、石匙、凹石他の石器、石製品剝片、須恵器、土師器等が整理箱1箱程出土した。調査区内からの出土点数はごくわずかで大半が表採資料である。本遺跡の所属時期が縄文時代早期末葉鶴ヶ島台式併行期から前期初頭大木2a式期、平安時代と豊富な内容をもつことは以前から指摘されていた。しかし調査区内では縄文時代前期初頭及び平安時代が主体となり早期の遺構・遺物は未検出である。



遺跡近景（南から）

図版77 白金遺跡(1)



作業状況（北から）



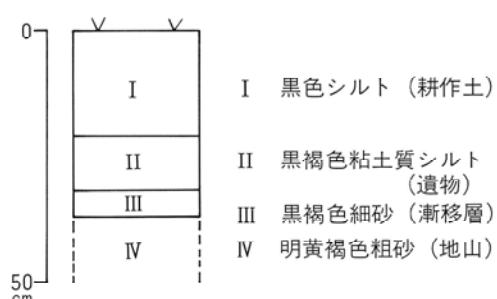
TT 10完掘状況（北から）



SK 1（南東から）



SK 3（東から）



TT 11土層柱状図



TT 7 土層断面（西から）



出土土器



出土石器

図版78 白金遺跡(2)

(8) 渋江遺跡 (しぶえいせき) (遺跡番号160)

所 在 地 山形県山形市大字渋江字田中

調 査 員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 立会い調査 平成3年10月1~3日

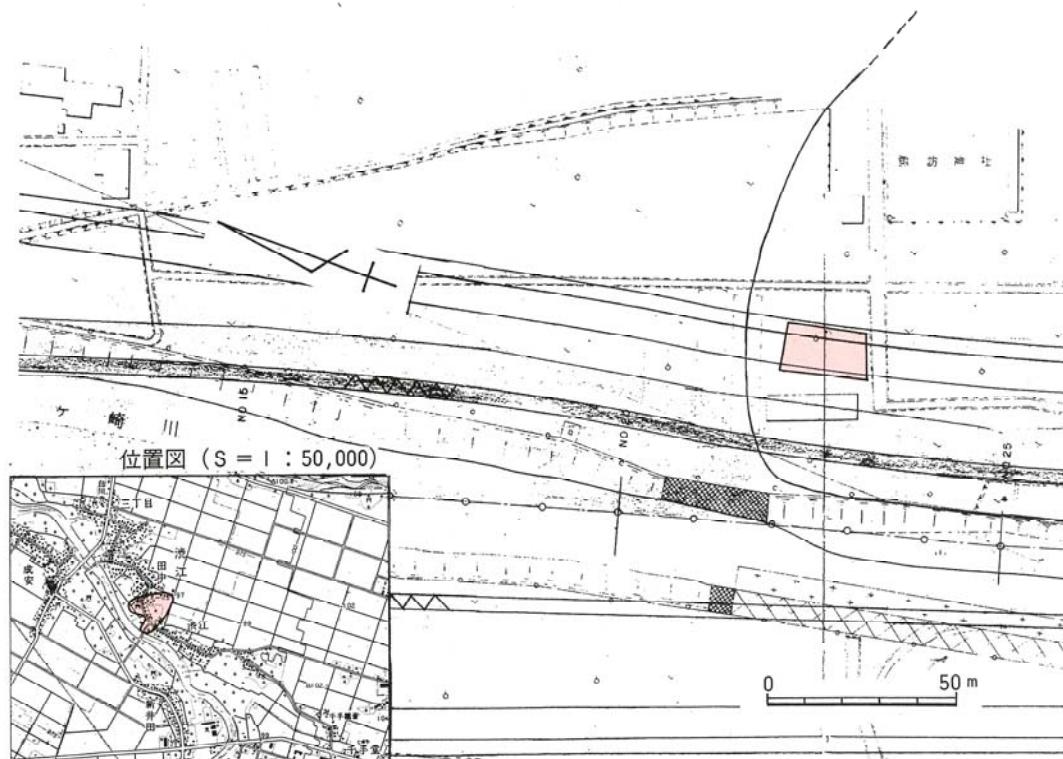
調査の概要 渋江遺跡は、山形市街の北側、田中集落を取り込むように位置し、白川右岸の自然堤防上に立地する。遺跡のすぐ西側を白川が北流している。

遺跡は奈良～平安時代の集落跡と登録されているが、平成2年11月に行った試掘調査では、地表下1.4~1.8mに近世の遺物包含層が確認された。

今回の調査は中小河川改修（馬見ヶ崎川）に伴う立会い調査で、平成2年11月の試掘調査で検出した近世の包含層を対象とした。

調査区は、前回の調査で確認された遺物包含層が良好に残っている地点とした、東西13m南北20mで面積は260平方mである。表土は重機械を使用して遺物包含層直上まで除去し、その後手掘りで面削りを行った。その結果、東西方向の走行を持つ溝跡群と、南北方向の走行を持つ溝群が検出された。このうち南北方向の溝群の堆積土には遺物が含まれていた。

出土した遺物には磁器、陶器、鉄製品があり、磁器の染め付けには輸入コバルトを確認していない（図版80）。



第83図 渋江遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



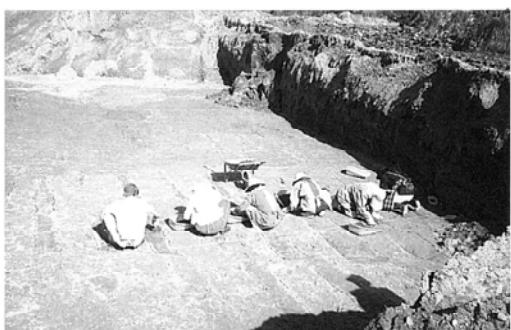
土層断面（北から）



遺構検出状況（北東から）



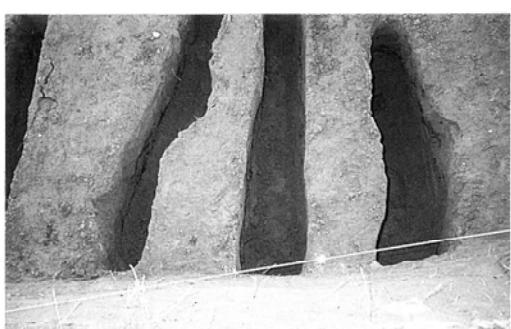
遺構検出状況（北から）



遺構検出状況（南から）



遺構精査状況（西から）



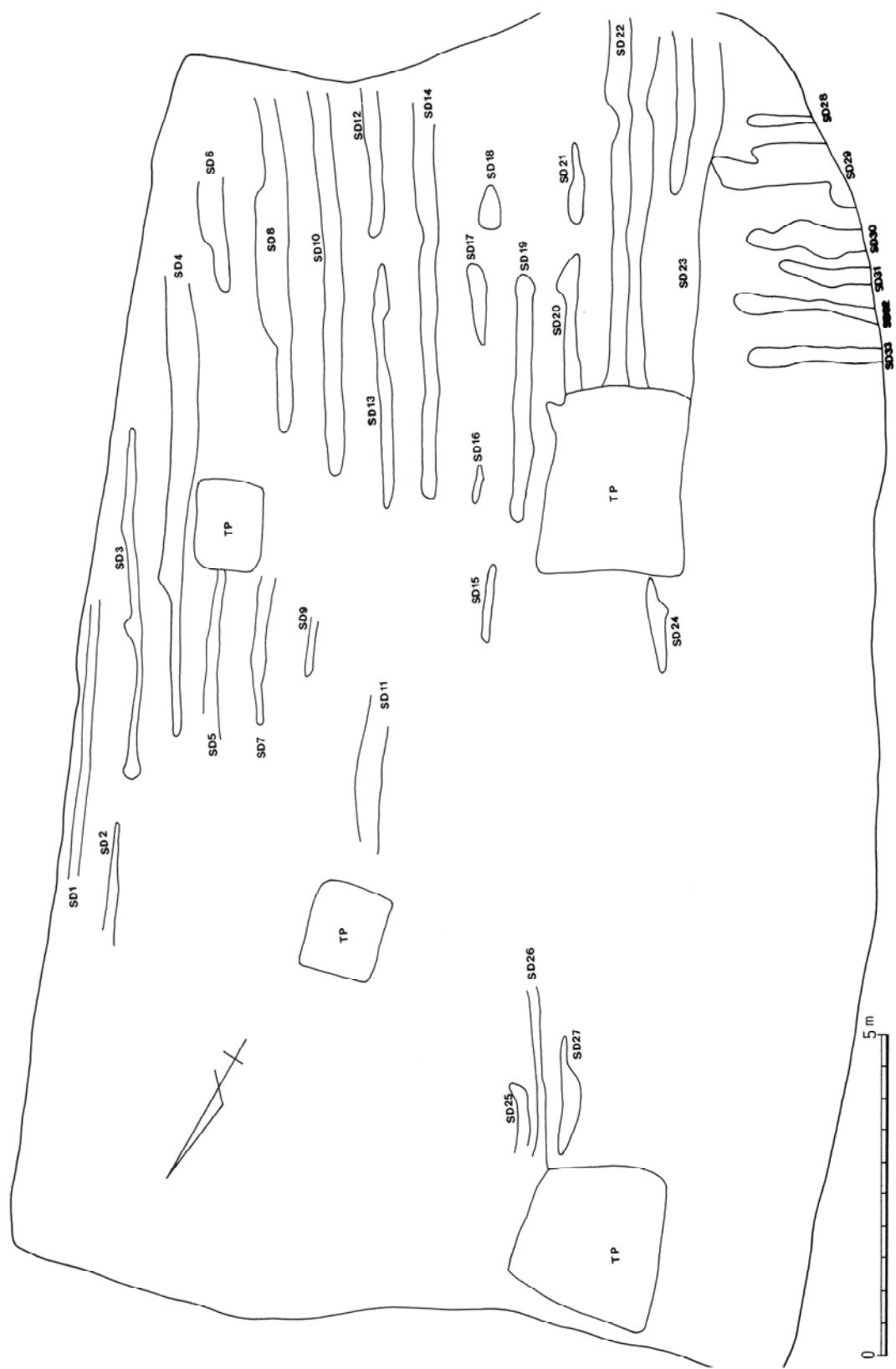
遺構完掘状況（南から）

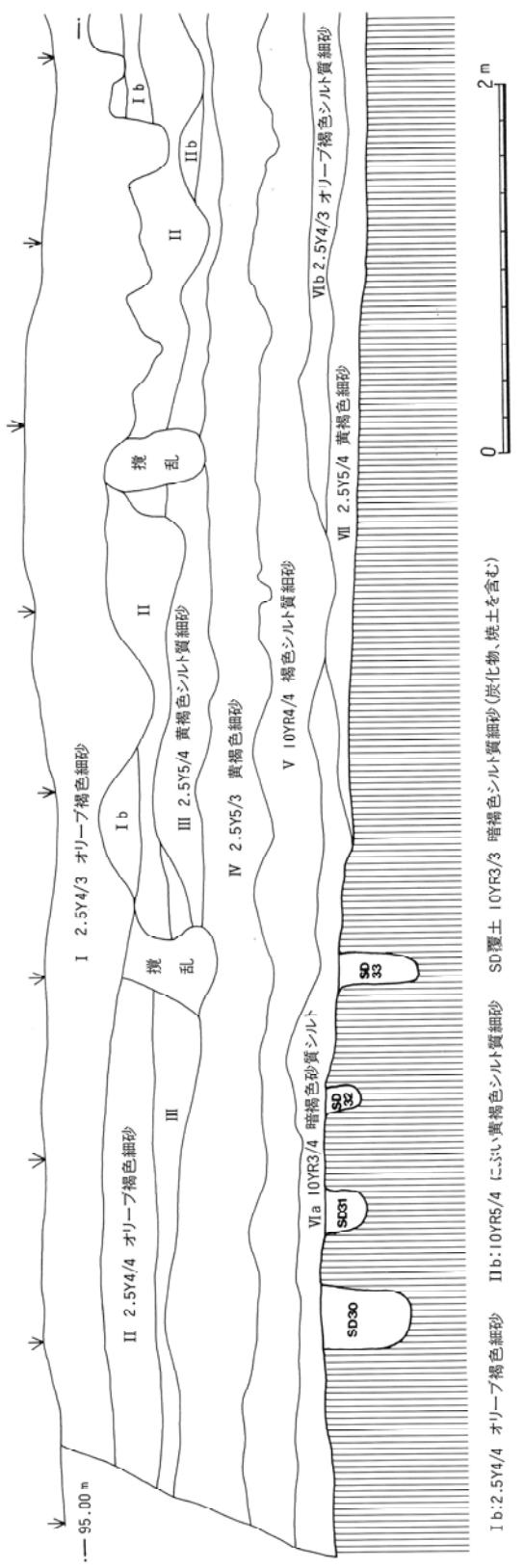


遺構完掘状況（東から）

図版79 渋江遺跡(Ⅰ)

第84図 津江遺跡遺構分布図





第85図 渋江遺跡土層断面図

図版80 渋江遺跡（2）

-163-



出土鉄製品

(9) 二藤袋 樵跡 (遺跡番号778)

所 在 地 山形県尾花沢市大字二藤袋

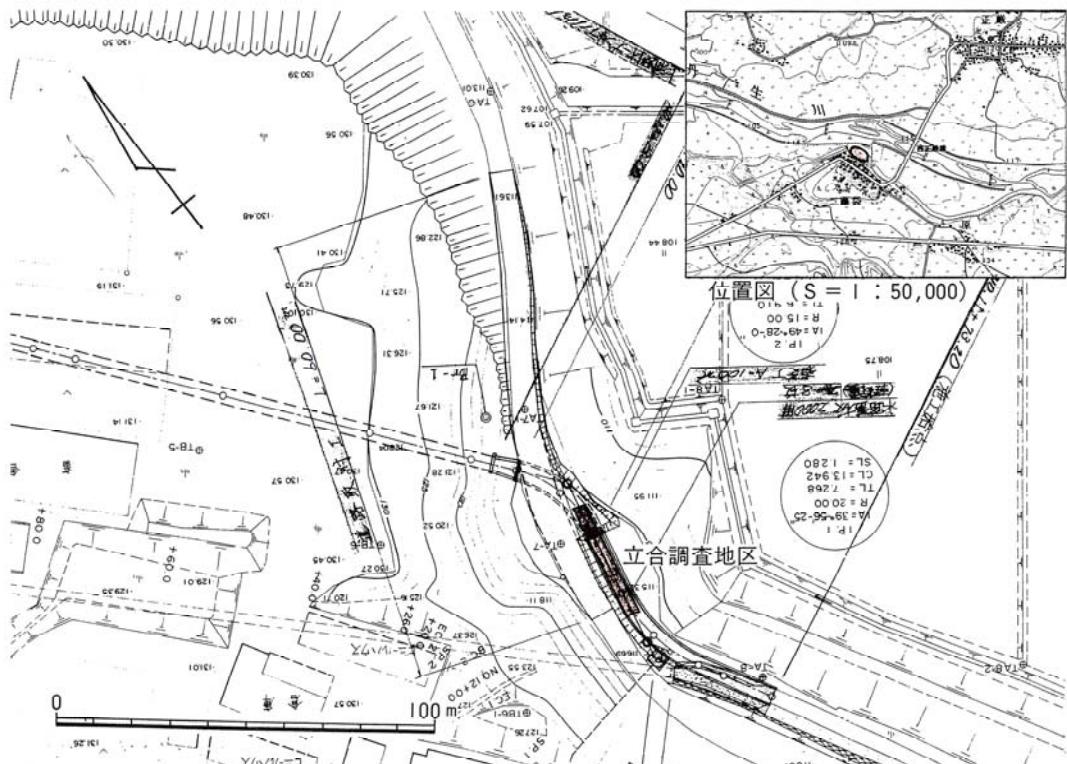
調 査 員 佐藤庄一

調 査 期 日 立会い調査 平成3年10月2日

調査の概要 遺跡は尾花沢市二藤袋地区の北端に位置し、丹生川によって形成された標高115～131mの河岸段丘上に立地する。丘陵の西側には、空濠と土塁が両者合せて15mほどの幅をもって東西に延びている。

今回の調査は、ため池等整備事業（二藤袋地区）の用水路建設にかかわるもので、樫跡本体部分は地下をトンネルで通すため、東側の用水路出口部を対象に立会い調査を実施したものである。立会い調査の面積は、東西2m×南北15.5mの計31平方mである。重機械で表土を丁寧に剥いだ後、地面を整理しながら遺構を確認した。

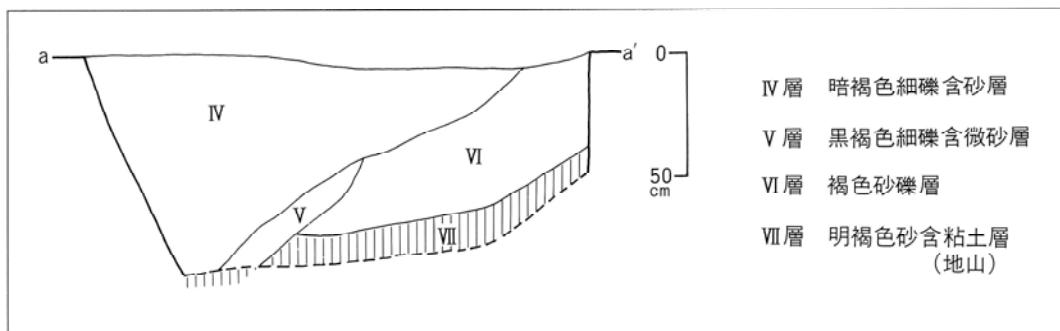
調査の結果、樫跡東側の山側から谷側の斜面にかけて、地山を一度削平したのち深さ90～150cmの整地をしていることが確認された。この整地層はさらに谷側に延びるものと考えられる。また整地層の上面で、直径約30cmの柱穴が2個と、幅40cm・長さ2mの溝状遺構が1条検出された。遺構の覆土は、炭化粒を含む黒褐色粘質微砂である。立会い調査では、遺物は発見されなかった。



第86図 二藤袋櫛跡概要図



立会い調査地区近景（南から）



北壁土層断面



立会い調査状況（北から）



北壁土層断面

図版81 二藤袋橋跡

(10) 石田遺跡 (遺跡番号2108)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字石田

調 査 員 阿部明彦 伊藤邦弘 斎藤主税 高橋 直

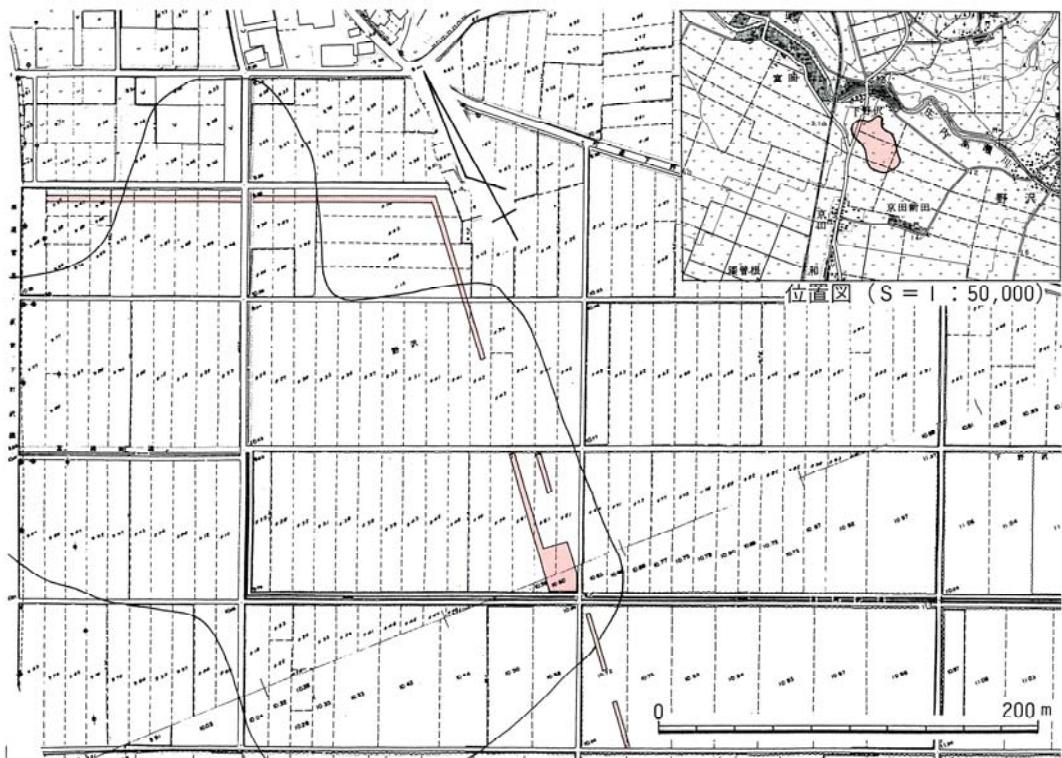
調査期日 立会い調査 平成3年10月31日～11月14日

調査の概要 石田遺跡はJR遊佐駅の東北東約2kmの下野沢集落南方に位置し、高瀬川左岸に程近い自然堤防上に立地している。標高は約10mを測る。

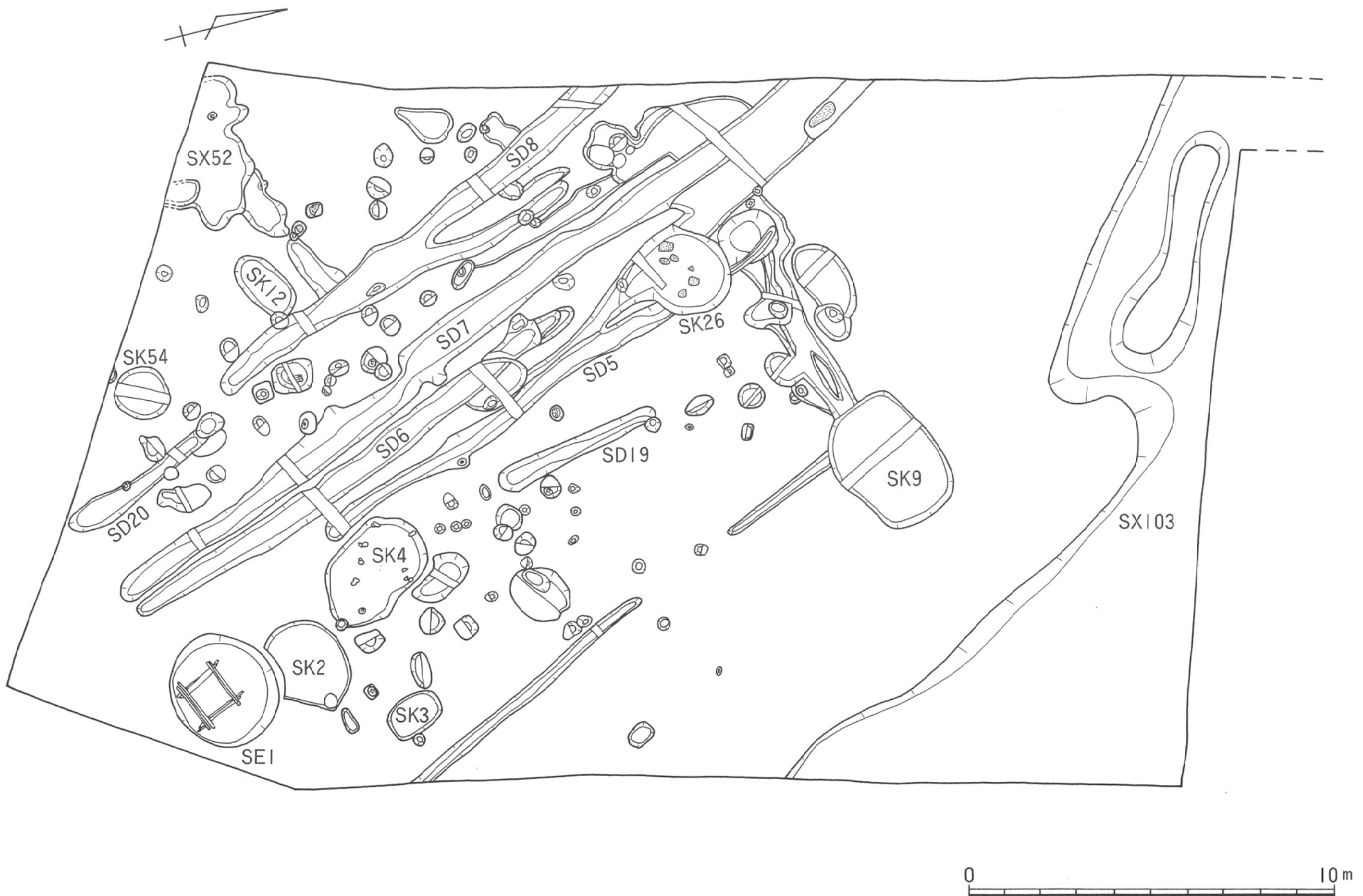
今回の調査は平成3年度秋に施工の予定される県営かん排事業（月光川地区）との調整に資する目的から実施したもので、用水管の埋設設計画路線に沿って幅2m、総延長432mのトレンチを設定して行ったものである。

当初は、事業の計画路線が遺跡範囲のほぼ外郭を通ると予想されたため、遺構・遺物の検出はさほど望めそうもないと予測された。しかし、調査の結果は予想に反してこれまで範囲外と考えられた設置トレンチ東南端部分で遺構・遺物の集中地点に遭遇し、改めて遺跡範囲の見直しや修正が必要とされた。調査は、設置したトレンチの面整理を随時行いながら遺構・遺物を確認する手順で進め、遺跡北辺や北東辺部分のトレンチではその検出が皆無なことを確認している。遺跡の広がりが手前で止まると考えられよう。

以下では遺構・遺物の集中的に認められた東南端部分の拡張区について記していく。



第87図 石田遺跡概要図



第88図 石田遺跡遺構配置図

検出遺構

検出遺構は主に基本層序のIII層上面で確認された。しかし、中には土色変化が不明瞭なためその輪郭が判然としない等の状況が一部あり、未確認のまま過ぎた遺構の存在も幾つかあったと思われる。なお、拡張区の大きさは東西16m、南北25m規模であり、面積にして約400平方m程である。

遺構はS D103・S X10を北限とし、その南側に南北方向を基調として延びる9条の溝跡、大小の土坑多数、井戸跡1基、溝跡に走行の等しい3間以上の掘立柱建物跡1棟以上、性格不明な落ち込みや遺物の集中する土坑（S X10）各1基等がまとまって分布していた。これら遺構群の配置からすれば、その西側及び南北方向により遺構の広がる可能性が強いと指摘できる。

遺構毎の概要を見てみよう。土坑ではSK2・3・4・9・11・12・25・26・54等が径1m以上で規模の大きい、あるいはやや大きめと言える部類のもである。この中で遺物の多くみられたのはSK2～4・9・25等であり、SK2・3等では短期間に廃棄されたあかやき土器杯・内黒有台椀等を主体とする一括土器群が得られている。

溝跡は幅50～60cm、長さ12m以上の規模と推測されるSD5～8・20・21等があり、SD6・20・21の南端が閉じている点は注意される。また、これら検出遺構の中で溝跡SD7の覆土やSK9土坑底面等には火山灰の堆積が認められ、降灰時期と遺構・遺物との関わりが注目された。井戸跡SE1は掘り方径230cm、深さ120cmを測る規模の大きなもので、井戸枠は井桁組による4段の遺存と最上段部の内部への崩落とが確認できた。都合5段である。井戸跡の時期は覆土の堆積状況から火山灰の降灰以前と考えられる。それも既に大方が埋没した段階で降灰があったと判断できること、SD8溝跡等では火山灰がみられないことを考え合わせると、その時期的隔たりは大きいと推測される。なお、井戸基底部では水の浄化を目的として付設されたと考えられる玉砂利と堅炭の層が認められた。

出土遺物

今回の調査では整理箱にして30箱分程の遺物が出土している。調査面積から見ればかなりの量と理解でき、調査地点が遺存良好な集落跡中心部だったことをものがたる。

遺物の種類には主体となる土器のほか、木製品・土製品・石製品等があり、注目できるものに漆紙（SK26）や、巡方の石帶1個、墨書き土器等があげられる。詳細については整理未了のため明らかにし得ないが、時期的にはあかやき土器主体のSD8溝跡等一括遺物の様相は10世紀中葉頃、井戸跡は掘り方内の土器を根拠として9世紀後葉頃の所産と考えられる。以上から、一時期、火山の降灰等に見舞われながらも一定期間継続的に営まれた集落と考えられる。なお本遺跡は平成4年度に緊急調査の予定であることを付記しておく。



調査風景（北から）



SK 26完掘状況（北から）



SE I 検出状況（西から）



SE I 掘り下げ状況（北から）



SK 3 完掘状況（東から）



SK 4 完掘状況（南から）



図版82 石田遺跡(Ⅰ)

完掘状況（南から）



R P 2 (1/3)



R P 13 (1/3)



R P 7 (1/3)



(1/3)



S K 26 Y (1/3)



S K 26 F (1/3)



R P 5



R Q 1 (石帶) 1/2



S D 8 F



S K 26 F (添紙) 1/2

図版83 石田遺跡(2)

ながおかやま
(11)長岡山遺跡（遺跡番号1228）

所 在 地 山形県南陽市字小生堂・金屋神

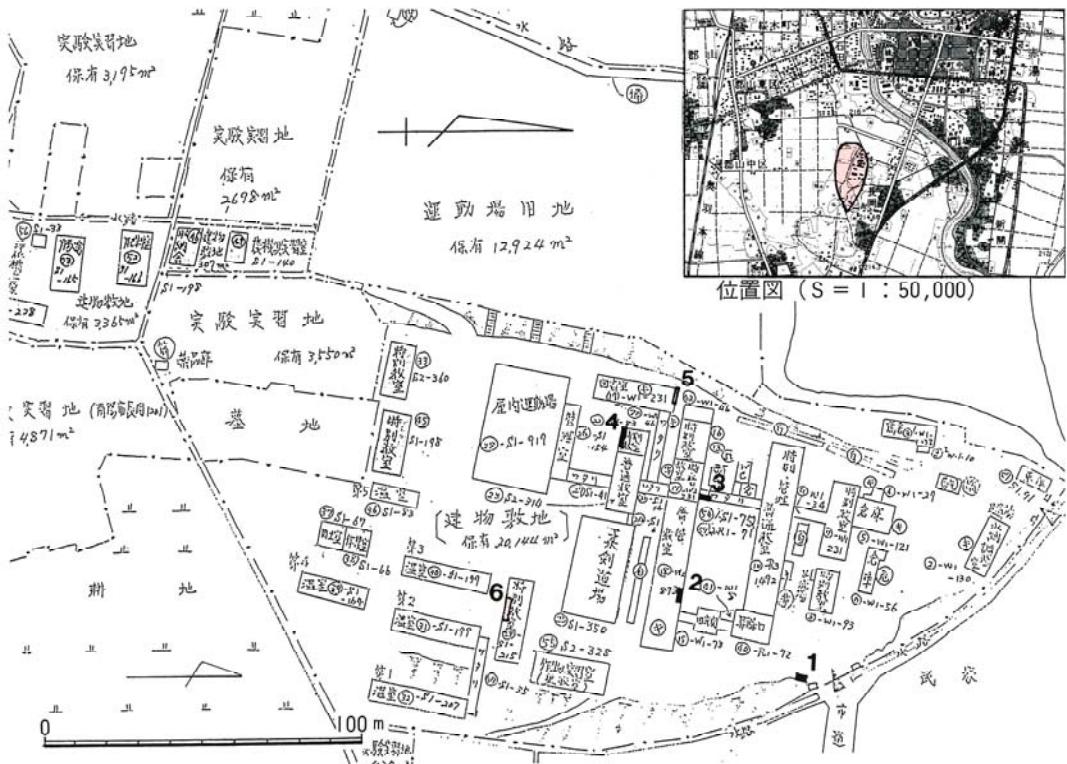
調 査 員 佐藤庄一

調 査 期 日 立会い調査 平成4年1月9日

調査の概要 遺跡は赤湯市街の南西 1.1km、通称長岡山の台地上に立地する。長岡山は標高 220m ほどの洪積台地で、平成2年度まで山形県赤湯園芸高等学校の校舎地として利用されていた。遺跡の発見は古く、昭和初期にはすでに知られており、旧石器時代・縄文時代中期・古墳～平安時代の各時期にわたる遺物が出土している。

今回、県立南陽高等学校の新設・統合に伴ない、土地の管理等の点から旧赤湯園芸高等学校校舎を解体・整地することになったため、校舎の基礎施設の撤去に先立って立会い調査を実施したものである。

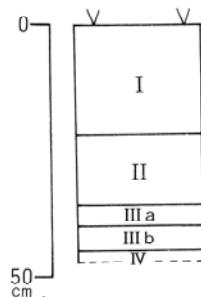
立会い調査は、主たる建物5棟と旧正門近くの水道管撤去工事箇所の6地区について行った。全体的に台地の北半部は、高等学校校舎建設時の整地工事によってかなり削平されているが、旧校舎敷地の西寄り（5トレンチ）には、縄文時代早期～中期の遺物包含層が15～30cmの厚さで良好に残っている。また同敷地の南東寄り（6トレンチ）からも平安時代の竪穴住居跡の輪郭が一部検出されており、敷地の南西部は今後とも保護が必要である。



第89図 長岡山遺跡概要図



立会い調査地区（北東から）



I 盛土 整地層
 II 褐色粘質土
 IIIa 暗赤褐色微砂
 IIIb 明褐色粘質土
 IV 黄褐色粘土（地山）

土層柱状図



遺構検出状況（北から）



出土遺物（1）

出土遺物（2）

図版84 長岡山遺跡

(12) ソリメ A 遺跡 (昭和57年度登録)

所 在 地 山形県尾花沢市大字原田字ソリメ

調 査 員 渋谷孝雄 斎藤主税

調 査 期 日 立会い調査 平成3年1月28・29日

調査の概要 遺跡は、尾花沢市役所から東方へ約5.5km、綱木川右岸段丘上に立地している。地目は畠地・水田で標高は170mを測る。

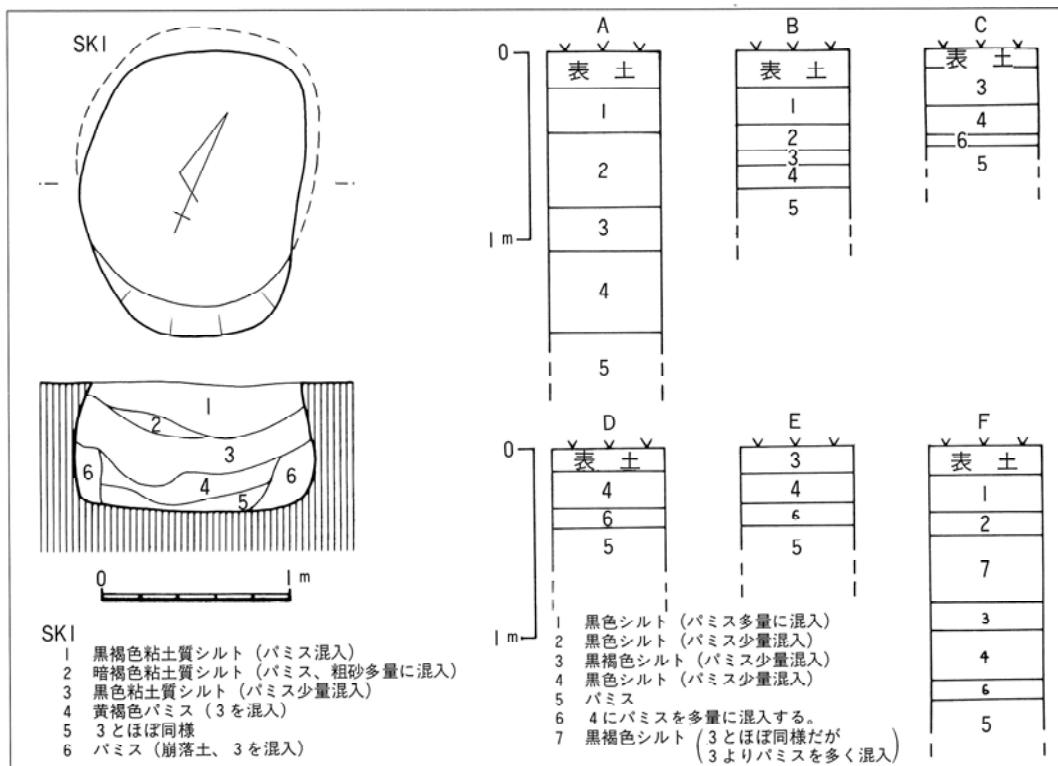
今回の調査は県営かんがい排水事業（村山北部地区）との調整に資する目的から実施したものである。

用水管埋設部分についての調査は遺跡内の全域について行った。バックホーで表土除去しながらパミス直上まで掘り下げるが、遺構・遺物とも未検出であった（1トレンチ）。次に仮設道路部分に幅4m、長さ40mの2トレンチを入れ同様な調査を実施した。この結果、縄文土器・石器が出土し、パミス直上でフラスコ状土壙1基（SK1）を検出した。遺物包含層は、4層のパミスを少量混入する黒色シルト層及び、6層のパミスが多量に混入する黒色シルト層である。遺物の時期は、縄文時代早期末、前期初頭である。また、SK1を精査したところ、底面付近より縄文時代晩期の土器片1点が出土した。

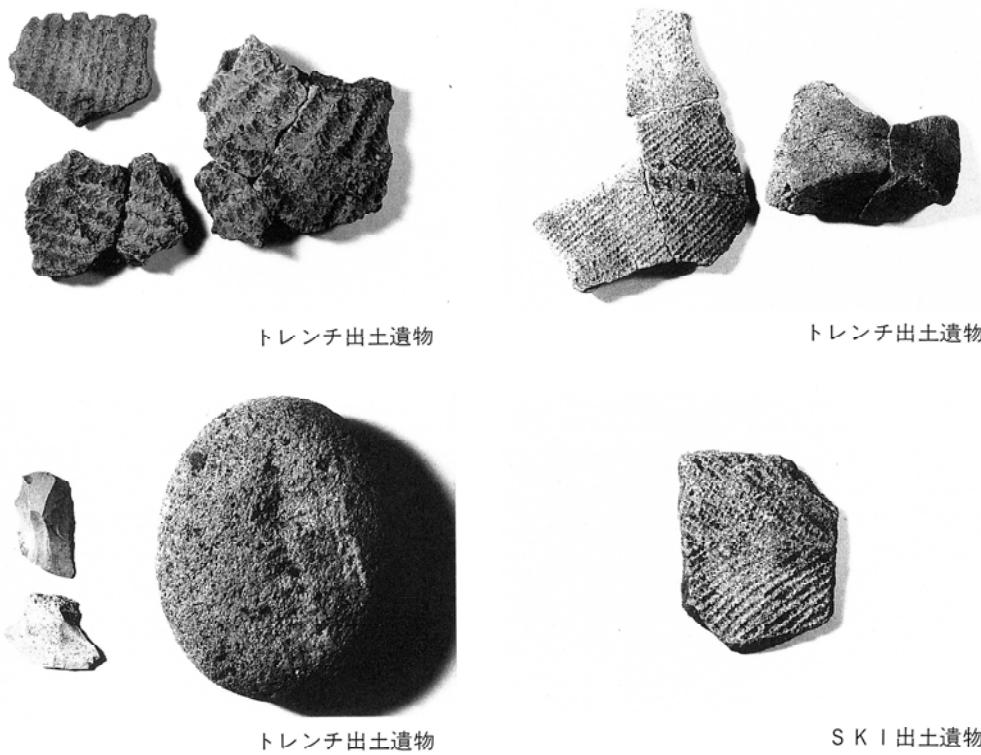
なお、水田部分については、1トレンチの調査から、開田時にブルドーザーを入れており搅乱を受けていることがわかった。



第90図 ソリメ A 遺跡概要図



第91図 SK I・土層柱状図



図版85 ソリメ A 遺跡(1)



遺跡近景（北から）



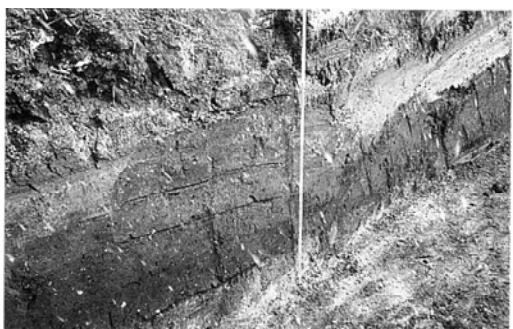
調査風景



調査風景



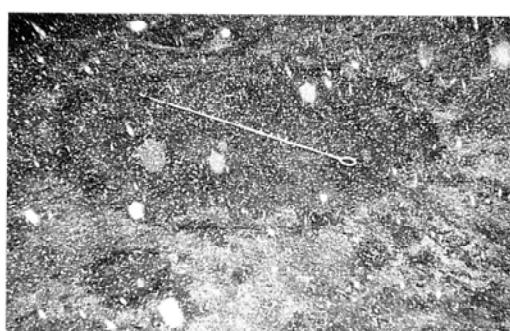
調査風景



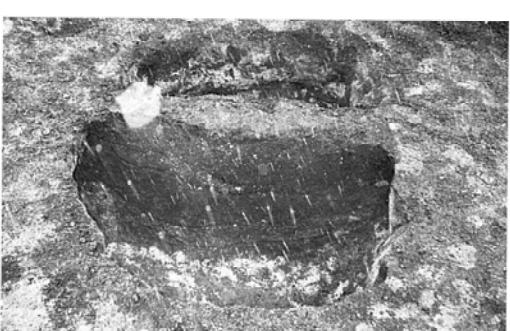
土層断面 B



トレンチ完掘状況



S K I 検出状況（西から）



S K I 土層断面（南から）

図版86 ソリメ A 遺跡(2)

III　まとめ

平成3年度遺跡詳細分布調査は、平成4年度以降に予定されている開発事業計画に先行して遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業計画との調整をとることを目的とするもので、一部記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査を実施した。

調査遺跡は102ヶ所（101遺跡）を数え、うち30遺跡は新たに発見され、登録した遺跡である。また、A調査やB調査により、遺跡の範囲、位置、遺跡名の訂正が必要となった遺跡は27遺跡を数える。そのリストを掲げてまとめとする。

1 新規発見遺跡

① 下川1遺跡	鶴岡市下川字鞘師・五百刈	奈良～平安時代
② 下川2遺跡	鶴岡市下川字樋渡	平安時代～室町時代
③ 下川3遺跡	鶴岡市下川字西谷地	奈良～平安時代
④ 下川4遺跡	鶴岡市下川字西田面	平安時代
⑤ 北目長田遺跡	飽海郡遊佐町大字北目字長田	平安時代
⑥ 樋待遺跡	飽海郡遊佐町大字北目字樋待	平安時代
⑦ 筋田遺跡	飽海郡遊佐町大字北目字筋田	平安時代
⑧ 霧2遺跡	尾花沢市大字中島字霧	縄文時代
⑨ 小倉山遺跡	酒田市大字北沢字小倉山5	縄文時代
⑩ 鷹尾山遺跡	酒田市大字北沢字鷹尾山	縄文～平安時代
⑪ 菅谷地遺跡	飽海郡八幡町上青沢字菅谷地1-27	縄文時代
⑫ 熊沢遺跡	飽海郡八幡町上青沢熊沢96	縄文時代
⑬ 姥ヶ沢1遺跡	飽海郡八幡町上青沢字姥ヶ沢	縄文時代
⑭ 姥ヶ沢2遺跡	飽海郡八幡町上青沢字姥ヶ沢	縄文時代
⑮ 大峯1遺跡	飽海郡八幡町泥沢字大峯	縄文時代
⑯ 大峯2遺跡	飽海郡八幡町泥沢字大峯	縄文時代
⑰ 大峯3遺跡	飽海郡八幡町泥沢字大峯	縄文時代
⑱ 南原遺跡	東置賜郡高畠町糠野目字南原	古墳時代
⑲ 堂ノ下遺跡	東置賜郡高畠町糠野目字堂ノ下	奈良～平安時代
⑳ 飯塚館跡	東置賜郡高畠町糠野目字飯塚	中世
㉑ 一本松遺跡	西置賜郡白鷹町大字中山字一本松	縄文時代
㉒ 長表遺跡	山形市長表	奈良～平安時代
㉓ 長表大日塚	山形市長表	中～近世
㉔ 長表熊野塚	山形市長表	中～近世
㉕ 八ツ口遺跡	山形市八ツ口・本屋敷	奈良～平安時代

㉖ 行才 1 遺跡	山形市行才	奈良～平安時代
㉗ 梅野木前 1 遺跡	山形市梅野木前	奈良～平安時代
㉘ 梅野木前 2 遺跡	山形市梅野木前	古墳～平安時代
㉙ 梅野木塚	山形市梅野木前	中～近世
㉚ 田端稻荷塚	山形市田端	中～近世

2 範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡

① 石田遺跡	範囲の訂正	平成元年 3月「分布調査報告書(16)」
② 宅田遺跡	範囲の訂正	平成元年 3月「分布調査報告書(16)」
③ 大坪遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
④ 中田浦遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑤ 堂田遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑥ 地蔵田遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑦ 土崎遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
⑧ 新田遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
⑨ 里向山C遺跡	範囲の訂正	昭和54年 3月「分布調査報告書(7)」
⑩ 里向山D遺跡	範囲の訂正	昭和54年 3月「分布調査報告書(7)」
⑪ 荒谷原遺跡	範囲の訂正	昭和60年 3月 「荒谷原遺跡発掘調査報告書」
⑫ 駒場遺跡	範囲名称の訂正(旧駒場A)	昭和59年 3月「分布調査報告書(9)」
⑬ 山楯 4 遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑭ 山楯 6 遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑮ 中台館跡	位置の訂正	平成元年 3月「分布調査報告書(16)」
⑯ 獅子岩城遺跡	範囲の訂正	平成元年 3月「分布調査報告書(16)」
⑰ 野新田遺跡	範囲の訂正	平成元年 3月「分布調査報告書(16)」
⑱ 上荒谷遺跡	位置の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
⑲ 古屋敷遺跡	範囲の訂正	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
⑳ 今塚遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉑ 嶋遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉒ 長瀬本楯	位置の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉓ 木原遺跡	名称の訂正 (旧水原)	平成 3年 3月「分布調査報告書(18)」
㉔ 向荒沢稻場遺跡	位置の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉕ 千本杉遺跡	位置の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉖ 中里D遺跡	位置の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」
㉗ 内子沢遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3月「山形県遺跡地図」

山形県埋蔵文化財調査報告書(17)集

分布調査報告書(19)

平成3年度以降農林・土木事業他関係遺跡

国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡

東北横断自動車道酒田線関係遺跡

埋蔵文化財基礎調査

平成4年3月29日 印刷

平成4年3月30日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
